

赤ちゃんから
おとなまで

聖書教育

2022年

7
8
9
月号

絵
主
題

時代を生きる教会

テ
ー
マ

神への信頼



エフヘン・マタイ・ダニエル

テーマ 神への信頼

教会学校の目的

教会学校の目的は、その活動を通して、すべての人々がイエス・キリストを信じる信仰告白に導かれ、教会を形づくり、生の中領域において主に聞き、主を証しする生活を確立していくことにある。

日本バプテスト連盟 1971年制定、1999年改訂

聖書教育ホームページ <https://www.bapren.com/>

1	目次	
2	プログラム表	
3	準備のための聖書日課	鈴木牧人
特集・連載		
4～	特集 平和メッセージ	柴田良行
6～	特集 SDGsから学ぶこと	堀野浩嗣
8～	連載 教会学校月間によせて	高橋秀二郎
10～	連載 今、信仰を告白ということ	濱野道雄
12	執筆者紹介	
13	概論 この時代に「ダニエル書」を読む	鈴木牧人
今号の展開例 第14課～第26課		
14～	聖書の学び・成人科	鈴木牧人
16～	みんなで聴く聖書のおはなし	中村尚子
17～	青少年科	内藤幹子
18～	幼小科	踊 夢希
92～	暗唱聖句手話	塩山幸子
94～	暗唱聖句カード 新共同訳・口語訳	
99	『聖書教育』奉仕者紹介…表紙画編	
100	次号予告	

2022年度

聖書教育

2020～2022年度プログラム

総主題

時代を生きる教会

課	月 日		週題	聖書箇所
1	4月3日		ユダヤ人の王	マルコ15:6～20(参照15:1～5、21～32)
2	4月10日	受難週	あらわになった神	マルコ15:21～41
3	4月17日	イースター	約束のことは	マルコ16:1～8
4	4月24日		アテネでのパウロ	使徒17:16～34
5	5月1日		恐れるな、語り続けよ	使徒18:1～11
6	5月8日		それでもエルサレムへ	使徒20:17～38
7	5月15日		神の前で、人々の間で	使徒22:30～23:11
8	5月22日		鎖につながれながら	使徒26:19～32
9	5月29日		ともに元気に	使徒27:13～38
10	6月5日	ペンテコステ	聖霊は語り続ける	使徒28:17～31
11	6月12日		今や、明らかにされた!	コロサイ1:24～2:5
12	6月19日	沖縄命どう宝の日	新しい人を着て	コロサイ3:5～17
13	6月26日	神学校週間	祈りの輪の中で	コロサイ4:2～6
14	7月3日		ほめたたえられますように	エフェソ1:3～14
15	7月10日		かなめ石はキリスト	エフェソ2:14～22
16	7月17日		でっかい愛がうれしくて	エフェソ3:14～21
17	7月24日		心の底から新たにされて	エフェソ4:17～24
18	7月31日		愛されている子ども	エフェソ5:1～20
19	8月7日		神の武具を身に着けなさい	エフェソ6:10～20
20	8月14日	平和	平和を実現する人々	マタイ5:9
21	8月21日		それでも神さまに	ダニエル1:1～21
22	8月28日		ダニエルは思慮と知恵とをもって	ダニエル2:1～24(参照2:25～45)
23	9月4日		燃え盛る炉の中で	ダニエル3:13～30
24	9月11日	教会学校月間	獅子の洞窟の中で	ダニエル6:10～29
25	9月18日		ダニエルの祈り	ダニエル9:1～19
26	9月25日		その時まで、その時には	ダニエル12:1～13
27	10月2日		バビロンからの帰還	エズラ1:1～11
28	10月9日		神殿建設のはじまり	エズラ3:1～13
29	10月16日		神殿の完成	エズラ6:13～22
30	10月23日		礼拝を整える人たち	エズラ8:15～23(参照8:24～30)
31	10月30日		エルサレムへの想い	ネヘミヤ2:1～10
32	11月6日		良い企てへの備え	ネヘミヤ2:11～20
33	11月13日		主を喜び祝う日	ネヘミヤ7:72～8:12
34	11月20日		みんなで賛美	ネヘミヤ12:27～43(参照12:44～47)
35	11月27日	世界祈祷週間	立ち上がるイエスさま	ルカ4:16～21
36	12月4日		ヨハネ誕生の約束	ルカ1:5～25
37	12月11日		イエス誕生の約束	ルカ1:26～38
38	12月18日		マリアとエリサベト	ルカ1:39～56
39	12月25日	クリスマス	イエスの誕生	ルカ2:1～20
40	1月1日		十二歳のイエス	ルカ2:41～52
41	1月8日		荒れ野の試み	ルカ4:1～13
42	1月15日		あなたの罪は赦された	ルカ5:17～26
43	1月22日		安息日の主	ルカ6:1～11
44	1月29日	協力伝道週間	ヨハネの時、イエスの時	ルカ7:18～35
45	2月5日	信教の自由	イエスの涙、イエスの怒り	ルカ19:41～48
46	2月12日		ともし火をともして	ルカ8:16～18
47	2月19日		神の前に豊かに	ルカ12:13～21
48	2月26日		見つけだすまで	ルカ15:1～10
49	3月5日		気を落とさずに	ルカ18:1～8
50	3月12日		主がお入り用なのです	ルカ19:28～40
51	3月19日		ぶどう園はだれのものに	ルカ20:9～19
52	3月26日		最後の晩餐	ルカ22:14～23

2022年4月現在

2022年7月

準備のための聖書日課

1日◎ヘブライ10:25 むしろ励まし合ひましょう
 2日◎1ペトロ3:22 権威、勢力はキリストの支配に服している
3日◎エフェソ1:3~14 ほめたたえられますように
 4日◎詩編118:22 退けた石が隅の親石となった
 5日◎コロサイ1:20 ただ御子によって和解させられました
 6日◎ルカ6:37 人を裁かなければ
 7日◎ヨハネ13:35 互いに愛し合うならば
 8日◎2ペトロ3:18 イエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい
 9日◎フィリピ3:20 わたしたちの本国は天にあります
10日◎エフェソ2:14~22 かなめ石はキリスト
 11日◎ユダ1:20 信仰をよりどころとして
 12日◎1テサロニケ5:16~19 絶えず祈りなさい
 13日◎ヨハネ16:12~13 真理の霊に導かれながら
 14日◎1ヨハネ4:1~11 ここに愛があります
 15日◎フィリピ4:13 わたしを強めてくださる方
 16日◎イザヤ55:9 主の思いはわたしたちの思いを高く超えている

17日◎エフェソ3:14~21 でっかい愛がうれしくて
 18日◎詩編85:9 愚かなふるまいに戻らないように
 19日◎ヨハネ14:6 わたしは道であり、真理であり、命である
 20日◎ローマ6:3 キリスト・イエスに結ばれ
 21日◎ローマ12:1~2 真の礼拝により新たにされ
 22日◎マタイ9:36 イエスのまなざし
 23日◎申命記15:7~8 心かたくなにはしてはならない
24日◎エフェソ4:17~24 心の底から新たにされて
 25日◎1ヨハネ4:19~21 神がまずわたしたちを愛してくださったから
 26日◎ルカ7:47~48 多くを赦された者として
 27日◎フィリピ4:4~7 思い煩うのをやめて、感謝を
 28日◎アモス5:13~15 善を求めよ、悪を求めぬな
 29日◎1ヨハネ5:14 神の御心に適うことを願うなら
 30日◎使徒20:28 あなたがた自身と群れ全体とに気を配って
31日◎エフェソ5:1~20 愛されている子ども

2022年8月

準備のための聖書日課

1日◎ローマ13:12 闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身につける
 2日◎イザヤ11:4~5 正義を腰の帯とする
 3日◎イザヤ52:7 いかにも美しいことか、良い知らせを伝える者の足は
 4日◎詩編18:31 主は盾となってくださる
 5日◎箴言26:18~19 分別を失った者が矢を射うとも
 6日◎イザヤ59:17 救いを兜としてかぶり
7日◎エフェソ6:10~20 神の武具を身につけなさい
 8日◎詩編28:3 平和を口にするだけでなく
 9日◎詩編37:37 平和な人には未来がある
 10日◎箴言12:20 平和を勧める人の心には喜びがある
 11日◎イザヤ9:5~6 平和の君
 12日◎コロサイ1:20 十字架の血潮によって
 13日◎ヤコブ3:18 平和を実現する人たちによって義の実は蒔かれる
14日◎マタイ5:9 平和を実現する人々
 15日◎歴代誌下36:5~8 ヨヤキムの治世に
 16日◎詩編137:1~9 バビロンの流れのほとりに座り

17日◎サムエル記上16:7 容姿ばかりに目を向ける世界の中で
 18日◎詩編9:11 御名を知る人はあなたに依り頼む
 19日◎詩編73:24 神の御計らいによって導かれる
 20日◎マタイ4:4 人はパンだけで生きるものではない
21日◎ダニエル1:1~21 それでも神さまに
 22日◎エレミヤ27:6~7 バビロンの王ネブカドネツアル
 23日◎創世記41:1~8 夢に見て、ひどく心が騒ぎ
 24日◎創世記41:15~36 夢を解き明かすのは神
 25日◎ヤコブ1:5 神に知恵を願ひ求める
 26日◎列王記上8:39 主だけがすべての人の心をご存じです
 27日◎イザヤ28:16 シオンの隅の石
28日◎ダニエル2:26~45 ダニエルは思慮と知恵をもって
 29日◎イザヤ36:18~20 それでも主は救い出すと言うのか
 30日◎イザヤ46:5~7 その像は救ってはくれない
 31日◎詩編32:7 あなたはわたしの隠れが

2022年9月

準備のための聖書日課

1日◎詩編23:5 わたしを苦しめる者を前にしても
 2日◎イザヤ45:21 救いを与える神はほかにはない
 3日◎ルカ22:31~32 たとえ躓いてしまうことがあっても
4日◎ダニエル3:13~30 燃え盛る炉の中で
 5日◎列王記上8:28 今日ささげる叫びと祈りを聞き届けてください
 6日◎エステル3:1~6 ひざまずかないのが気に入らない
 7日◎エステル3:8~15 王をそそのかし、勅令を發布する
 8日◎11テモテ4:17 主が獅子の口から救われました
 9日◎詩編37:5~6 あなたの道を主に任せよ
 10日◎1テモテ4:10 救い主である生ける神に希望を置く
11日◎ダニエル6:10~29 獅子の洞窟の中で
 12日◎1ペトロ1:11 それがどの時期を指すのか調べた
 13日◎エレミヤ29:10~11 七十年の時が満ちたなら
 14日◎ネヘミヤ1:5~11 わたしも、わたしの父の家も罪を犯しました
 15日◎列王記上8:46~50 ソロモンの祈り

16日◎ハバクク2:2~3 それは必ず来る、遅れることはない
 17日◎申命記7:6~8 主があなたたちを選ばれたのは
18日◎ダニエル9:1~19 ダニエルの祈り
 19日◎ダニエル10:5~6 麻の衣を着た人
 20日◎ユダ17~20 終わりの時には
 21日◎黙示録3:5 命の書に記された者
 22日◎ヘブライ3:7~14 神に反抗したときのように
 23日◎ヨハネ3:15~16 永遠の命を得るために
 24日◎マタイ28:18~20 世の終わりまで、いつも
25日◎ダニエル12:1~13 その時まで、その時には
 26日◎列王記下24:10~17 捕囚の地バビロンへ
 27日◎エレミヤ30:10~11 捕囚の地からの救いの約束
 28日◎エゼキエル40:1~5 捕囚の地で見た神殿の幻
 29日◎イザヤ40:1~8 エルサレム帰還の慰めの預言
 30日◎イザヤ44:24~45:1 牧者キユロスへの期待



平和メッセージ

共に神の国を待ち望みつつ

ヨハネの黙示録21章1〜4



沖縄バプテスト連盟 首里バプテスト教会 牧師
柴田 良行

命を削るようにして

首里教会では、毎年6月の慰霊の日を覚えて平和礼拝をささげています。ある年私は、今は主のみ許に召されておられるTさんに、ご自身の戦争体験を礼拝の中でお話くださるよう依頼しました。すると、しばらくの沈黙後「同級生のあきこさんのことを憶えてもらえるのなら」と、か細くもご自身の覚悟が伝わってくるそんな声で承諾してくださいました。承諾されるまでの長く重い沈黙の中に、筆舌に尽くしがたい沖縄戦の悲惨さとTさんが一生涯背負わされ続けてきた途轍もない痛み的一端に触れさせていただいたような気がしました。これらの詳細に関してはずっとご家族にも、口を閉ざしておられたことから、事柄の重大さを思われます。

Tさんとあきこさんは当時15歳で、師範女子部予科1年の同級生でした。空襲で学校も寮も爆撃されTさんは実家に戻れたのですが、あきこさんは帰省を許されず、先輩たちと一緒に従軍看護婦として南部の野戦病院に配属され、そこで殺されていったのです。今もそのことが頭から離れないと礼拝の中で語ってくださいました。ご高齢のTさんがご自身の傷を開きながらも、ありったけの思いで、無残に殺されていったかけがえのない命を慈しむように、ご自身の命を削るようにして語ってくださったお姿が今でも目に焼き付いています。

お祝い?!

6月23日、沖縄の空気は一変します。亡くなられた方々の大事な命を想起しつつ、二度と戦争をしないことを心に刻みます。それは同時に、あの思い出したくもない惨劇に向き合う時でもありますし、

今を生きるために普段はそっと心の奥に閉じ込めている傷の痛みがダイレクトに疼^{うず}いてくる時でもありません。この普段とは全く違う空気が何にも分かっていない私に、沖縄戦の悲惨さと同時に今もなお「戦後」が始まっていないことを改めて教えてくれるのです。

今年5月、「本土」復帰50年となります。この復帰50年の事柄も日本政府に利用されるのでしょうか。官房長官が「政府と県が一体となって、国民全体でお祝いする式典となるよう対応していく」と発言していますが、よくもこの現状を押し付けておいたままで「お祝いする」なんて…、憤りがこみあげてきます。切り捨てられ続けた歴史の中で、せめて「本土並み」にそう願って復帰したけれども何も変わらない、むしろさらに重たい基地負担を押しつけられ続けている。復帰が果たして本当に良かったのか、そんな問いが投げかけられているほどです。当事者の思いが今回もまたあからさまに切り捨てられるのでしょうか。

耳をつんざく戦闘機の爆音、繰り返される落下物被害、基地からの猛毒の垂れ流し、基地由来のコロナ感染等、枚挙にいとまがない基地被害が沖縄の日常の中に浸透してしまっています。しかも、沖縄からの切なる訴えはいつもかき消されてしまう。戦後なんてない、ずっと戦時下のままです。誰ですか？こんな状況を作っているのは？

人殺しのための基地が日常の中に入り込んでいく限り、あの戦争の忌まわしい傷は決して癒えません。今もなお、戦時下が続いているのですから。心底、悲しむことさえできない。沖縄の喪は明けない、明けようがない。せめて、安心して悲しめるように。せめて、安心して涙を流せるように。はらわたがちぎれる想いに駆られつつ、ご自身も傷つきな

がらここに立ち続けておられる主イエスが私たちを招いておられます。

共に神の国を待ち望みつつ！

昨年召された教会員のNさんのことも思い起します。Nさんは9歳の時に壮絶な戦争に巻き込まれました。家族で南部に追い詰められ、艦砲射撃の直撃で祖父母、三姉妹が殺されたのです。Nさんは何度も「なんで、私だけが生き残ったかね」と、生涯負わされ続けてきた苦悩を吐き出すようにつぶやいておられました。ただある時、そうつぶやいて、しばらくの沈黙後、「だから、やらんといかんのよ」とご自身に言い聞かせるように言葉を発された姿が忘れられません。

Nさんは毎週、普天間基地ゲート前でゴスペルを歌う会に参加されておられました。暑い日も、寒い日も、雨の日も。心臓を悪くしておられた満身創痕のNさんが立ち続けて賛美するのは実は大変でした。「生かされた者として」という文章を残しておられます。「幼くして命を絶たれた私の姉妹や未来ある孫たちのために、二度とあのような悲惨な戦争を起こさないよう訴え続けたいと思います。それが、私が生かされていることなのかもしれません。」

このように傷を生涯背負いつつも、命の尊さを訴えつつ、神の国を求め続けたお一人おひとりの存在があります。そんな一人ひとりに主イエスもまた傷だらけのまま伴ってくださっています。

神は約束されています。お一人おひとりの涙をことごとくぬぐい取ってくださる時が必ず来ると。武器も基地もない、ただ互いの命を喜び合う神の国を。先に召されたお一人おひとりとも共に神の国を待ち望みつつ、この希望に生かされてゆきたいのです。

SDGs から学ぶこと ～人間中心か環境中心か、 それとも神中心か～

「すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです」

ローマの信徒への手紙 11 章 36 節 a

皆さんは SDGs（エスディーゼーズ Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」の略語）という言葉をごどこかで聞きかじっているのではないのでしょうか。最近、私たちの身近なところで見聞きする SDGs について少し考えてみたいと思います。

まず SDGs とは、2015 年 9 月に国際連合サミットで満場一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された国際開発目標のことです。環境や人権、開発、平和など、国連がこれまで取り組んできたそれぞれの課題をすべて合流させ、先進国、開発途上国を問わず、すべての国を対象として「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包括性のある社会の実現」を謳っています。かなり大きな目標なので、目標を掲げて終わらないように具体的な 17 のゴールと行動目標となる 169 のターゲットが挙げられています。内容が多いので、興味のある方は外務省のホームページに「アジェンダ全文」が邦訳で掲載されていますので検索してください。（<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000101402.pdf>）

この SDGs は、国や自治体などの公的機関だけでなく、企業活動における SDGs の

企業行動指針（SDGs Compass）が公開されるなど、様々な分野において、SDGs への取り組みが推進されています。特に、企業を含めていることが一つのポイントとも言えるかもしれません。これまで地球規模のさまざまな課題や問題は、国や自治体などの公的機関だけの非営利による努力に任せて解決しようとしてきました。結局、それでは企業や資本そして個人が積極的に行動しないので大きな変革をもたらすことができませんでした。そこで、莫大な資金（年間 5～7 兆ドル）を投入して、企業や投資家に関心をもたせ、参加を促し、問題の解決と新たな市場を創生することが一つの狙いであり、今日、多くの企業や個人の人々の関心と参加を促しています。それによって私たちに身近なところまで影響が及んでいます。キリスト教会も例外でなく、プロテスタント諸派（世界福音同盟 WEA「聖書と SDGs」<https://wea-sc.org/en/biblesdgs>）も、ローマ・カトリックも、SDGs への協働の動きを展開しています。しかし、実現目標の 2030 年まで残り半分となりましたが壮大なゴールはかなり遠く、この間に新型コロナウイルスの世界的パンデミックが起これば、今後軌道修正が必要になる部分があるかもしれません。

さて、SDGs のアジェンダ前文や 17 のゴール、169 のターゲットを見て私は次のよう

横浜戸塚バプテスト教会 牧師
教会教育専門協力委員
堀野浩嗣



なことを考えました。人間中心に、すべての人が自分の思うような豊かさを求めるならば、必ず自然環境は破壊され、他者は抑圧され、痛みます。当然一人ひとりの人権や尊厳、命が守られなければなりません。しかし、人間が作り上げた社会がどこまでも持続し繁栄し、すべての人が自分の思うままに生きようとする世界はバベルの塔であり、士師記にある「それぞれ自分の目に正しいとすることを行う」時代に他なりません。

一方で地球環境中心になれば自ずと人間の生活は制限され、不自由になります。もちろん神さまが造られたこの世界を慈しみ、造られたすべての被造物を大切にすることは大事なことです。しかし、自然は絶えず変化し、この地球も宇宙も、人間の科学ではわかっていないことが数多くあります。いや分からないことの方が多いのです。だからこそ、今わかっている人間知識を絶対基準にして、環境に悪影響をもたらすものを絶対悪とみなし、その数値に過剰に反応して一喜一憂することは避けるべきです。

聖書 66 巻は人間中心でもなく、環境中心でもなく、神中心です。この宇宙を造り、人間を神と共にこの世界を管理する者として造られたのは主なる神です。人間にとっても自

然界においても、相対するものがこの世界には存在しています。それを神は許しておられ、巻頭の聖書のみことばにあるように、神ご自身がバランスを絶妙に保っておられるのです。だからこそ、分からないことは分からないに留め、神のみが知恵であり、正義であることを謙虚に認めていくことが大事ではないでしょうか。そして、環境や人権、開発、平和の多岐にわたる困難な課題の解決のために忍耐強く取り組んでいくキリストの教会でありたいと願っています。

日本バプテスト連盟 教会学校の目的は、個人倫理と社会倫理を切り離し、歴史的状況との関わりを欠落させていなかったかを問い直し 1971 年に制定されました。

「前文」教会教育が隣人愛に生きる真の人へと自己変革された人格の形成を目指すものであることを再確認しつつ、教会学校、幼稚園、保育園、教会音楽その他、教会教育のあらゆる領域において、さらに充実した活動の展開をはかる。

「教会学校の目的は、その活動を通して、すべての人びとが、イエス・キリストを信じる信仰に導かれ、生の全領域において主を証する生活を確立していくことにある。」

『教会学校ブックレット 2017』P25～P26 抜粋
(日本バプテスト連盟宣教部教会教育室発行)



教会学校月間によせて 教会のちから ～全年齢層教会学校

以前は振起日^{しんきび}というものがありました。夏休みで休みがちになったメンバーを、教会学校に呼び戻すために、9月のはじめ頃に設けた最高出席日のようなものでした。これが背景になったのでしょうか、連盟では9月に教会学校強調週間を設けるようになり、それを今の「教会学校月間」として、全年齢層教会学校の推進をしてきたように思います。現在、私たちの教会でも9月は礼拝において、教会学校現場から証しをする人が立ちます。大人のクラスのリーダーをしている人か、メンバーとして参加している人が立ち証しをします。まだどのクラスにも参加されてない方が、これを聞いて参加するきっかけになることを願っています。別の週には、子どものクラスからも同じように証しする人が立ち、クラスの様子を分かち合い、関心を持っていただくことに努めています。全年齢層教会学校は、あらゆる人の全生涯に係わる働きとして、全教会的に推進すべきだと思いますので礼拝でアピールします。

私自身を振り返ると、バプテスマを受けてキリスト者となり、そして牧師として働いてきた原点が教会学校にあるように思えます。私は、中学2年生の秋、同級生に誘われて教会学校に通いはじめました。家庭とも学校とも違う温かい雰囲気にかかれて休まず通いました。高校になって礼拝にも出席するようになり、高校1年の冬に信仰告白をしてバプテスマを受けました。ところが、クリスチャンになったからといって何の変化もあるわけではなく、むしろ一生クリスチャンの枠の中で生きて行かなければならないのかと思うと、バプテスマを受けたことを早まったと後悔しました。高校2年になったとき、時間帯の違う中学科の書記をするように頼まれました。これが私の信仰の大きな転機となりました。奉仕に加わって知ったことは、大人たちが一人ひとりの中学生に実に細やかな配慮を持って接している姿でした。自分もこのようにして配慮されてバプテスマに導かれたことに気が付きました。そして、水曜日夜に持たれていた教師会（リーダー会、奉仕者会）とその後の祈祷会にも参加するよ



新年カルタ大会（読み札担当はオンライン参加の子たち）



成人高齢クラス（回転台にのせたPCとハイブリッド方式）



うになりました。この祈祷会で共に祈ることを学びました。高校3年になると小学科で奉仕をし、聖書を子どもたちと一緒に学ぶ喜びを知りました。そのころ準備のために読んだ聖書箇所はあとあとまで深く印象に残っています。

祈祷会に出ることをきっかけに、教会のあらゆる集会に係るようになり、バプテスマを受けて良かったという実感が湧いてきました。同時に将来は教会で働きたいという漠然とした思いを抱くようになりました。そのころ、高校生クラスで、二つのことが始まりました、一つは、各自家で夜10時お互いのために祈ることです。もう一つは、聖書日課です。今の「準備のための聖書日課」の一週間分の枠だけを^{とうしゃばん}謄写版刷りでプリントした用紙に、日付と聖書箇所と読んだ感想を書いて、日曜日にクラスの教師に提出します。すると教師がコメントを書いて翌週返却してくれるのです。感想を書くという作業が伴うので聖書を真剣に読みます。同時に聖書通読にも取り組み、それは今日まで続いています。

高校を卒業して西南学院大学神学部1年次に進学したあとも、籍を置いた教会では必ず教会学校奉仕をしました。それから10年後、副牧師時代を経て初めて赴任した教会は、教会学校をやめていました。そこで、私は、全年齢層教会学校について教会員と共に学び直し、1年後に全年齢層を対象に教会学校を再開しました。これが功を奏して小さな教会でしたが、成人も子どもも共に

出席者が増えて行きました。その後の赴任した教会にはどこも全年齢層教会学校がありましたので、これを充実させることに意を注ぎました。教会学校クラスが、共同学習、相互牧会、伝道の場として機能するとき、信徒による教会が形成されて行きます。また、教会員が自立した信徒として成熟して牧師と協働していくためには、自ら聖書を読み解釈する力を付けることが欠かせません。教会学校は、このように信徒がバプテストに成っていくため、そして、バプテスト教会と成っていくため有用な働きと言えます。

2019年から始まった新型コロナウイルスパンデミックでは、最初は出席者のいない会堂で礼拝をオンライン中継するのが精一杯で、教会学校クラスが開けませんでした。しかし、その内に自主的にインターネットを使ってクラスを持つようになり、気が付くと大人も子どもも全クラスがオンラインを用いるようになりました。インターネットができない人にはできる人が教えに行きました。また、パソコンを持たない人には、日曜日ごとに有志が自分のパソコンを使って会堂でオンライン参加ができるようにしています。そこに起きているのは、信徒が自主的にクラスに集まり、励まし合い、助け合い、祈り合って、共に聖書を囲むという自立した姿です。

教会学校を越えて 教会教育を考える

2003年4月から2004年6月まで、『聖書教育』の編集人を務めました。当時、宣教研究所所員であった私は「教育」というものが良く分かっておらず、イヴァン・イリイチの脱学校論の影響もあり、ネガティブな思いすら持っていました。心の中には「あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない」（マタイ23:8）というイエスの言葉が響いていました。

後任の高市和久さんに交替する直前、2004年に連盟事務所で「教会教育フォーラム」を開催しました。フォーラムと準備会の資料を読み直しますと、私が編集人であった1年間の学び、対話、葛藤、疑問、そして思いが少し形になりかけた段階で任を解かれたこと、そして、大切にしようとしたことが分かります。「教会学校のことだけ考えていたら、教会学校は行き詰る。だから広く、神が私たちを何の働きに招いているのかから、つまり宣教としての教会教育を考える必要がある。それはこの世界の『教育』とは違う、ましてや『教化』ではない、『もう一つの教育』だ。その教育はリーダーをメンバーが越えていくことに到達点がある。よって教会教育は、教会を越えて神の国を目指すところに到達点がある。こうして教会教育は、日本の右傾化する教育とは違う、『もう一つの教育』になる。

このように教会教育を考える時に、「教会学校は行き詰らずにすむかもしれない」といったことが、大まかに私が当時考え、『聖書教育』で形にしようとしていたことなのでしょう。その思いは、今も大学で教育にあたるに際し、私を支えています。

そして実際に『聖書教育』では、2005年度に、学ぶべき答えが決まっている「カリキュラム」ではなく、学ぶべき問いを共有する「プログラム」と呼び、その内容を宣教論的なものに変えました。つまり4・5・6月号はケリュグマ（聖書の学び）、7・8・9月号はディアコニア（平和を考える）、10・11・12月号は「連盟信仰宣言」を参照しつつの組織神学的学び、1・2・3月号はコイノニア（教会形成を語り合う）といったポイントを重視したものにしました。

しかし実際にした仕事を今見直しますと、定まったものを急に変えたことで、私が独断で決めたことでないにせよ、諸教会にご迷惑をおかけし、お詫びいたします。私が嫌っていた、日本の成果主義的教育に、私自身陥っていたのだと思います。それはプログラムの宣教論自体にも表れており、ケリュグマ（伝道）、ディアコニア（平和形成）、コイノニア



鳥栖キリスト教会 協力牧師
西南学院大学神学部 教授
濱野道雄

(教会形成)という「目的」を定め、いかに効率よくそれらを達成するのかという発想がそこにはあったのでしょうか。その限界について、編集人を辞してからのアメリカでの学びで理論的に気づかされ、さらに体感的に東日本大震災被災地支援に関わり気づかされました。

ですから、その後、現在に至るまで『聖書教育』が「物語をものがたる事」を重視して編集されるようになったことは大変うれしく思います。宣教は、プログラムの効率的遂行ではなく、神の物語を生きることですから。ただその際も、神の物語を「読む」だけではなく、人生の台本として「生きる」ことが求められるので、その時前述3つの宣教分野の考察にもまだ意味があるとは思っています。

聖書を人生と歴史の台本として生き、世界の地図として旅をする。そのことは当時も求めていました。当時の資料を読み直してもう一つ気が付くのは、小さな教会、小さな集まりで読まれる『聖書教育』にしようという思いです。それまでの『聖書教育』は、ある程度の規模と組織化がされている教会に向いていると、私は感じていました。実際に小規模教会で牧会のうれしさを経験したことのある私は、シンプルに『聖書教育』を片手に、自

由に語り合える資料としてそれを編集しようとなりました。またオリジナル賛美歌の作曲を毎号1曲ずつ、色々な方に依頼しました。小さな集まりで手拍子だけで歌える、「イエスとは誰か」「平和とは何か」を語る歌詞の曲をリクエストしました。そこでうれしい賛美歌が多く生まれたと今も思っています。

今、教会によって差が激しいでしょうが、連盟全体で言えば、当時以上に教勢は下がり、教会学校が「行き詰る」時代になってきているかもしれません。その中、教会学校を越え、教会すら超える神の国を仰ぎながら、イエスの始めた、聖書の時代の集まりに戻る時かもしれません。少人数で、ゆっくり座り、答えを定めず、ゆるやかに、楽しく語り合う。何かを目的にすると言うよりその語り合いが、生まれて来た意味、神が私たちに命を与えた意味になる。『聖書教育』は来年度から形を変えます。それでも、「教える」というより、「一緒に聖書を読む」『聖書教育』がそこであり、それぞれの場所でゆったり語り合ったり、黙り合ったりするパートナーとなってくれるなら、聖書の物語自体が私たちが次の物語へと、神の国へと、この世界のただ中で導いてくれるのだと、私は信じています。

執筆者紹介



概論・聖書の学び・成人科

すずき まさと
鈴木 牧人

姪浜バプテスト教会 牧師

エフェソ書が書かれた時代、教会を様々な課題が取り囲む中、人々が繋がり、歩んでいくために、大きな役割を果たしたのが「手紙」だったと思います。現在、連盟は機構改革のただ中にあります。様々な課題がある中で、私たちが連盟に連なり、励ましあうために「手紙」のような言葉を必要としているのではないのでしょうか。それは何より「聖書」だと思いますが、その「聖書」を分かち合う『聖書教育』の役割は大きいと改めて感じています。



青少年科

ないとう みさこ
内藤 幹子

日本バプテストキリスト教
目白ヶ丘教会 牧師

教会学校スタッフのご奉仕を始めていただいた中学生の頃から現在に至るまで、『聖書教育』はいつも一緒に歩んでくれました。自分の担当の課だけではなく、違う課のページを読むのも毎週の楽しみでした。執筆の機会をいただくようになり、執筆者会議や原稿校閲のやり取りを通してたくさんの楽しく豊かな経験が与えられました。来年度から新しい形に生まれ変わる『聖書教育』、これからも楽しみにガッツリ読ませていただきます！



表紙

みうら
三浦 あや

藤沢バプテスト教会
教会員

表紙タイトル「愛されている子ども」

光の子どもとして歩みなさい。エフェソの信徒への手紙 5章 8節

エフェソの手紙のみ言葉から、現代を生きる若者たちが仲間と共に喜びにあふれている様子を描きました。輝く夏の海でジャンプした人影が砂浜に映りこみ、十字架になっている瞬間をスマートフォンで撮影している風を描きました。時代を通して、主にある子どもたちを見つめる神さまのファインダー（視点）を夏らしく爽やかに描きました。



みんなで聴く聖書のおはなし

なかむら なおこ
中村 尚子

東大阪キリスト教会 牧師

東大阪教会は現在、ほぼ高齢者ばかりの教会です。長年、子どもの集う教会学校を開きたいというビジョンがあり、絵本を買ったり、少しずつですが準備をしています。子どもの少ない地域とはいえ、すぐ近くに小学校があり、子どもたちの声も時折聞こえます。イエスさまに呼ばれた子どもたちが居場所として教会に集ってくれる日が来ることを楽しみにしています。そのために、今後も準備をおこたらないようにしていきたいと思っています。



幼小科

おどり ゆめき
踊 夢希

久留米キリスト教会 教会主事

新型コロナウイルスによって自分の教会でも分級ができていない中で幼小科の活動を考えることは、うれしい時であり、また「活動が気兼ねなく行える状況になっていますように」と祈りながらの作業でもありました。初めての執筆で四苦八苦しながら何度も聖書を読み、自分の至らなさに気づかされながら、学ばせていただく良い機会となりました。感謝。それぞれの教会学校で少しでもお役に立つことができますように。

編集後記

執筆者会では、「聖書の学び」を執筆される方に聖書箇所について学びのリードをしていただき、共同学習する中で、理解を深め、各科のポイントを見つけていきます。今回は「聖書の学び」の原稿に加えて、会議のためのメモ（「聖書の学び」原稿の3倍程）をご用意いただいたの執筆者会となりました。「メモ」を皆さまにお届けできないのが残念ではありますが、本誌の文章に込めてお届けいたします。時代を生きる教会が、「今」考えることを、聖書を通して聴くことができますように。

(N・T)

この時代に 「ダニエル書」を読む

浜浜バプテスト教会
牧師 鈴木牧人

史実との間に

ダニエル書の冒頭には、ユダの王ヨヤキムが即位して三年目、バビロニアの王ネブカドネツアルがエルサレムを攻め、人々を捕囚の民として連れて行ったことが記されています。さらにバビロニア支配の後、メディア人ダレイオスが王となり（ダニエル6：1）、その後、ペルシアのキュロスの治世になりました（6：29）。しかし、史実としては、バビロニアをペルシアのキュロスが破り王となります。このように、ダニエル書の記述は、史実との間に矛盾が見られます。

時代に重ねて読み解くと

ダニエル書の記述をマカバイ記（旧約聖書続編）の時代に重ね合わせて読む時、その一つひとつの記述がリアルに迫ります。マカバイ記には、アンティオコス・エピファネスという人物が、ユダヤ人たちを苦しめたことが記されています（マカバイ記一1：10～64）。アンティオコスは、ギリシア・ローマ文化に心酔し、ユダヤ人の宗教や生活様式を強引な形でギリシア化しようとしていました。王国の全域の人々に対し、自身の慣習を捨てるよう勅令を発し（1：41～42）、神殿は汚され、異教の祭壇が築かれることになりました。

ダニエル書1章には、ダニエルと仲間たち

が宮廷の肉類と酒で自分を汚すまいと決心し、食べることを拒んだ様子が記されています。（ダニエル1：8～16）、それはアンティオコスがユダヤ人に強制的に豚肉を食べさせようとした史実を想起させます。マカバイ記には、それでもユダヤ人の多くが断固として不浄のものを口にしようとせず、そのために多くの者が犠牲になったことが記されています。（マカバイ記一1：62～64）。このように、ダニエル書の記述は、アンティオコスの迫害と多くの部分で重なります。数々の苦難にあって神を真っすぐに見上げ続けるダニエルたちの信仰は、アンティオコスの迫害のさ中にある人々に大きな慰めと励ましとなったのではないのでしょうか。

今迫ってくること

ダニエル書を読む時、ミャンマーの軍事クーデターに対し、非暴力の抵抗運動を続ける人々の姿が心に迫って来ます。ミャンマーのバプテスト連盟は、今回の軍によるクーデターに対し、声明文を発表し、「ミャンマー・バプテスト連盟は、聖書の教えに反するいかなる抑圧的支配システムも拒否します」と語りました。ミャンマー、ウクライナ、香港など、世界で力による抑圧が迫る時代、ダニエル書は私たちに多くのことを語っているのではないのでしょうか。

ほめたたえられますように

聖書

エフェソの信徒への手紙1章3～14節

暗唱
聖句

わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、
ほめたたえられますように。エフェソ1：3

14
課

7
月
3
日

エフェソの信徒への手紙を読むにあたって

この手紙は、冒頭に「神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロから、エフェソにいる聖なる者たち、キリスト・イエスを信ずる人たちへ」（1：1）と書かれています。しかし、内容的に本当にパウロが書いたものかということに関しては様々な議論があり、パウロの弟子が書いたのではないかという説も有力です。またエフェソに宛ててとされていますが、写本には「エフェソ」の表記が抜け落ちているものもあり、元々は「エフェソ教会にいる聖なる者たち」ではなく、単純に「聖なる者たち」ではなかったかとの説もあります。手紙の構成は、コロサイの信徒への手紙とよく似ています。1～3章にはキリストにおいて現わされた神の恵みと救いの希望について語られ、4～6章では、その恵みと希望に基づいて生きる信仰者としての生き方が勧めとして語られています。

昨今、コロナ危機によって、教会のあり方が大きく変えられています。コロナの中、毎週の日曜日の礼拝をこれまでのように集まって献げることができず、インターネットによる礼拝を行なっている教会や、文書において宣教メッセージを教会員に届けている教会もあると聞いています。そのような状況の中、これまでのような形で交わりをもったり、関わりをもつことが困難になり、互いにどう教会の兄弟姉妹として繋がっていくことができるかということが問われてきたのではないのでしょうか。そのようなことを思いながら、エ

フェソの信徒への手紙が書かれた時代の信仰者たちの姿が心に迫って来ました。キリスト教が未だマイノリティで迫害されていた時代、様々な課題や緊張感が取り囲む中、人々は思うように共に集まり礼拝することもできなかったと思います。そのような中であって、人々は信仰共同体として繋がり、歩んでいました。その中で大きな役割を果たしたのが「手紙」でした。

礼拝と賛美から始まる手紙

この手紙は1～2節の挨拶の後、「ほめたたえられますように」という言葉から始まっています。「ほめたたえられるように」と、「祝福で満たしてくださいました」とは同じ言葉が使われています（エウロゲートス、エウロゲオー）。つまり、私たちによる神さまへの賛美と、神さまの私たちへの祝福が呼応して語られる形になっていて、まさに礼拝の式文のような形式で手紙が始められています。1：3～14の中には「ほめたたえる」ということが繰り返し語られます。礼拝と賛美を印象づける手紙と言えるのではないのでしょうか。

愛され、選ばれた私たち

1：4には「天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました」と書かれています。エフェソ教会の人たちは、かつては神さまとは無関係の世界に生きていました。そんなふうに、

自分たちが神さまを知らずに生きていた時から、神さまはすでに自分たちを知っていてくださり、愛してくださり、神さまの器として選んでいてくださいました。この神さまは私たちがどんなところにいたとしても、私たちを見捨てずに、私たちを覚え、取り扱ってくださる方です。

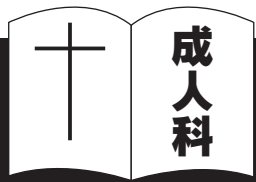
この世界の頭はキリスト

神ならざるものが、まるで神であるかのように我が物顔でふるまい、分断や争いが絶えないような世界の中であって、それでもこの世界の頭はキリストであるということが語られています。そして、やがて時が満ちて来たるべき時には、そのキリストのもとに、あら

準備のための聖書日課

27日	㊦	手紙を用いてつながる	コリント二2:1~4
28日	㊧	わたしの魂よ主をたたえよ	詩編104:1~4
29日	㊨	主の祝福に守られて	詩編5:12~13
30日	㊩	わたしがあなたがたを選んだ	ヨハネ15:11~17
1日	㊪	むしろ励まし合いましょう	ヘブライ10:25
2日	㊫	権威、勢力はキリストの支配に服している	1ペトロ3:22

ゆるものが一つにまとめられるということ、この秘められた計画を私たちは真理の言葉を通して知り、聖霊を通して確信しているというメッセージは希望です。



成人科

●この手紙が礼拝や賛美を印象づけるかたちで始められていることが、心に留まります。

コロナの緊急事態宣言の中、こういう時こそ直接同じ場所集って交わりたいと思うのですが、そうすることのできないもどかしさ、寂しさを抱えていました。そのような中、それぞれの場所でみ言葉を心に刻み、賛美を献げていたらと教会オリジナル賛美を作り、インターネット礼拝で皆さんと献げました。主を喜び、賛美することを、私たちの信仰の基に据えることの大切さを教えられた経験でした。

●1:4には「天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました」とあります。このような言葉を読む時、しばしば「聖なる者、汚れのない者にしようと」という言葉に注目し、聖なる者や汚れのない者にならなければならないと思うかも知れません。しかし大事なものは、「神はわたしたちを愛して」や「御自分の前で」ということではないでしょうか。私たち一人ひとりが天地創造の前から、神さまに覚えられ、選ばれ、愛されているんだということを心に刻み、その神のみ前に立って、神さまの溢れる愛と恵みを心に刻むことが大切なのだと思います。

ほめたたえられますように

聖書

エフェソの信徒への手紙1章3～14節

暗唱
聖句

わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、
ほめたたえられますように。エフェソ1：3

14
課

7
月
3
日

エフェソ教会を最初にパウロが訪れた時には3カ月ほど、また2度目に訪れた時には3年もエフェソに滞在して、イエスさまのお話を伝えました。教会にはアポロや、アキラとプリスキラ夫妻などがいて、とても熱心にイエスさまのことを伝えていましたが、エフェソはアルテミス神殿の町。女神アルテミスの像を拝まないキリスト者はきびしい迫害をうけていました。パウロは、アルテミスの像を作っている銀細工職人たちに、商売を邪魔されたと怒りを買ひ、町の競技場に引きずり出され、ひどい目にあわされ、牢獄に入れられたとも伝えられています。エフェソ教会の人びとは大変な思いをしてイエスさまを伝えたのです。

そんなエフェソの教会の人々に送った手紙は、「わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように」と書き出されています。「ほめたたえられますように」という言葉は、「祝福で満たしてくださいませ」という意味もある言葉です。強い迫害を受けてもなお、神さまがほめたたえられますように、祝福で満たされますようにと祈ってエフェソ教会を応援するパウロ。このエフェソ教会の人びとが、神さまに選ばれ、愛されている人びとであること、この教会からイエスさまをほめたたえる人びとがたくさん起こされ、アジア中の地域に広がっていくと信じたのです。「神さま、エフェソの教会から、世界中の教会にあなたの愛が伝わりますよう



に。多くの方がイエスさまの十字架の愛を知り、喜んでいきるようにしてください」と、パウロは熱心に祈りました。はじめはイエスさまのことを知らなかったエフェソ教会の人びとも、イエスさまの十字架によって救われ、罪を赦されました。すべて、神さまの豊かな恵みによることでした。

そして、神さまでないもの、アルテミスが拝まれているエフェソの町にとっても、イエスさまこそがみんなの頭、一番大事な方であることを、パウロは手紙で知らせています。「頭であるイエスさまが、天にあるものも地にあるものも一つにまとめてくださるのです」とパウロは言いました。このような神さまのご計画の中、エフェソ教会の人びとは、神さまの祝福を受け継ぐ者とされます。だから、神さまに感謝し、神さまの栄光をほめたたえるのです。

ほめたたえられますように

聖書 エフェソの信徒への手紙1章3～14節

暗唱 聖句 わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。エフェソ1：3

14課

7月3日

聖書から…

『エフェソの信徒への手紙』は、大変な状況の中に立たされ、アワアワしていたであろうキリスト者とその教会に向けて書かれた、励ましと知恵に満ちた手紙です。

今まで神さまの救いの「カヤの外」と見なされてきた「異邦人」が中心メンバーとなった「前例」「お手本」のない教会、「新しい宗教＝不気味」という視線を浴び、いじめの標的とされた時代の教会ですから、様々な悩みや迷いがあったことでしょう。

この手紙は、そのような不安でいっぱいの教会に、ビシッと一本の筋を通そうとしているかのようです。神さまをほめたたえる（礼拝、賛美）ところから始める姿を示し、「あなたたちはイエスさまによって、神さまのものとなっているんだよ」という事実をこの手紙は心と言葉を尽くして語っています。

そうだった、大切な基本を何度も思い出しながら歩いていこう。神さまによって招かれ集められた喜びを忘れずにいよう。読む人にそう思わせる手紙だと思いました。

分かち合おう

- この時代、「手紙」というツールが苦しい状況にある人々を励まし、大切な事柄を伝え、お互いをつなぐ役目を果たしていたようです。今の時代はもっとたくさんの、言葉や思いを伝えるためのツールを用いることができるようになりました。私たちはどんな方法（直接話す、電話、メール、SNSなど）で伝えられる言葉にグッとくることが多いでしょうか？ また、同じ言葉であっても、届ける方法を誤ってしまうとき、うまく伝わらなかったり、相手を傷つけてしまったりすることもあるでしょう。私たちが誰かに自分の言葉や思いを伝えたいときに、工夫したり注意したりしていることはどんなことでしょうか？
- いつの世の教会にも「悩み」はつきものです。歴史を振り返っても「外部からの嫌らせ」「内部でのマウントの取り合い」「ケンカ別れ」「欲張ったがゆえの腐敗」「飽きられる」…、挙げ始めればキリがありません。直近では、「新型コロナウイルスによる影響」も教会が直面した大きな「悩み」でした。更に「悩み」は、「わたし」個人と「教会」の関係においても、どこまでもついて回ってくるものです。若い皆さんの目には、私たちが身を置いている教会のどんな「悩み」が映っていますか？「教会」を巡って個人的にどのような「悩み」を経験していますか？ そこに必要な励ましや知恵の言葉は、どのようなものだと思いますか？

ほめたたえられますように

聖書

エフェソの信徒への手紙1章3～14節

暗唱
聖句

わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、
ほめたたえられますように。エフェソ1：3

14課

7月3日

聖書から…

パウロはエフェソ教会を心配して手紙を書きました。その手紙は「神さまが、ほめたたえられますように」という賛美の言葉で始まっていました。それは大変な思いをしている今この時も、神さまが共にいてくださるといふ励ましの言葉であり、またパウロからエフェソ教会へのエールの言葉でもありました。そして、イエスさまによって約束された希望のメッセージでもあったのです。この手紙を受け取ってエフェソ教会の人たちはきっと大いに励まされ、苦しい中でも共に神さまをほめたたえ、賛美したことでしょ。

私たちも、賛美することをためらってしまふ時や、しょんぼりして賛美できない時があるかもしれません。たとえば、日曜日に遊びに誘われて断ったら「なんで？ どうして教会に行かないといけないの？」と言われてしまった時や、お祈りしているのに願いが聴かれないと感じる時など…。でも、今日のパウロの手紙が自分宛てに書かれている言葉だと思って読むと、勇気と元気が湧いてくるのではないのでしょうか。私たちも、エフェソ教会の人たちと同じように励まされて、神さまを賛美できたらいいですね。

活動①

「迫害に負けず賛美しよう！」

- ①メンバーは、ひとつの場所に集まります。
- ②その周りを囲うように、リーダーが立ち

ます。

- ③「せーの」の掛け声で、メンバーたちはあらかじめ決めた賛美歌を、声を合わせて歌います。
 - ④周りのリーダーは、メンバーたちの賛美を邪魔して、賛美歌以外の曲を歌います。
 - ⑤リーダーからの妨害に負けずに、最後まで元気に賛美しましょう♪
- ※賛美歌は歌詞を見なくても歌えるような簡単な曲がおすすめです。すぐにできてしまう場合は、少し難しい賛美歌にしたり、邪魔するリーダーを増やしたりして再チャレンジしてみましょう。

活動②

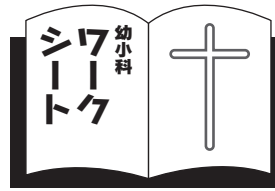
ワークシート

「励ましの手紙を書こう」

- 準備●ワークシートコピーを人数分以上、
筆記用具、色鉛筆など

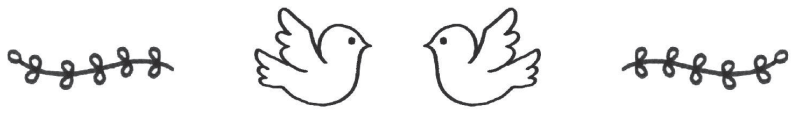
パウロが手紙によってエフェソ教会の人たちを励ましたように、私たちもお祈りと励ましの手紙を書きましょう。最近教会に来ていない友だちや、教会の中の友だちや大人、別の教会の人でもいいですね。イエスさまを通して繋がる喜びをもって、心を込めて書きましょう。時間があれば、複数枚書いたり、色を塗ったり、文章が苦手な場合は絵をかくのもいいですね。

- ※16課の活動のために、16課のワークシートのコピーも入れて送ってみてもいいですよ（16課活動②参照）。



_____ ^

_____ より



わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、
ほめたたえられますように。(エフェソ1:3)

キリストこそわたしたちの平和

本日の箇所には「平和」について記されています。しかし、一概に「平和」と言っても、そのイメージには様々なものがあるのではないのでしょうか。エフェソ2：14では「実に、キリストはわたしたちの平和であります」と語られています。このみ言葉にあるように、私たちにとっての「平和」は、「キリスト」です。そして、このキリストは「二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し」ました。キリストが、私たちにさし示している「平和」とは、異なるもの、相いれないものが、隔ての壁を越えて一つとされていくことです。

隔ての壁を取り壊し

マルコによる福音書2：13～17には、イエスさまが徴税人であるレビを弟子にされた後、レビの家で食事をされた様子が記されています。この時、イエスさまや弟子たちと同席していたのは、「多くの徴税人や罪人」（マルコ2：15）でした。ファリサイ派の律法学者は、そのことがどうしても受け入れられず、「どうして彼は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」（マルコ2：16）と問いました。ファリサイ派の律法学者の反応は、当時のユダヤ人たちの考え方であれば当然の反応と言えました。しかし、イエスさまは、ファリサイ派の律法学者たちの戸惑いや批判をよそに徴税人や罪人と食事をされました。それが、イエス・キリストが現わされた平和でした。

私たちの中にある隔て

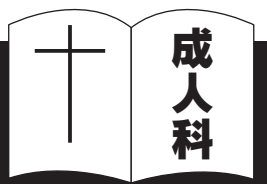
イエス・キリストが現わされた平和は、私たちが相手に対して寛容であろうとすること、その相手を歓迎することを指し示しているのだと思います。そして、私たちがそのような平和について現実的に向き合おうとしていく時、そうしようとすればするほど、私たちの限界を見せつけられることがあるのだと思います。ファリサイ派の律法学者が徴税人や罪人を受け入れられなかったように、私たちの生きる社会のしがらみだったり、私たち個々人の内なる思いだったり、相手に対して壁を作ってしまうこともあるのではないのでしょうか。私たちは、自分と異なる相手に対して、どうしても壁を作ってしまうことがあります。平和に向かおうとすることより、「隔て」や「拒絶」に思いが向かってしまいそうになることがあります。そんな私たちが取り扱われ、平和へと導かれるとするなら、それは私たちがイエス・キリストに出会い、イエスさまに取り扱われることによってなのではないのでしょうか。イエス・キリストの恵みと愛と赦しを経験しながら、その出会いによって心取り扱われ、変えられ、「キリストのからだ」としての新しい人に造り上げられていく時、その中で、私たちは平和の実現へと思いが向かっていくのではないかと思います。

かなめ石はイエス・キリスト

エフェソの信徒への手紙は、互いに隔てられていた私たちが、キリストによって新たな

関係に造り上げられている様子を、建物になぞらえて語っています。そこには外国人だろうが、寄留者だろうが、多様な背景を持つ人たちが分け隔てなく繋がりあっています。しかしながら、そのような関係が成り立つためには、土台が肝心です。2：20では「使徒や預言者という土台」と言われています。使徒や預言者によって告げ知らされてきた「神の御言葉」が、私たちを互いに建て上げていく土台となるのです。そして、そのみ言葉がさし示す中心は、イエス・キリストです。私たちは何より、イエス・キリストをかなめ石とすることなしに、共に建て上げられていくことはできないのです。

準備のための聖書日課		
4日	㊦	退けた石が隅の親石となった 詩編118:22
5日	㊦	ただ御子によって和解させられました コロサイ1:20
6日	㊦	人を裁かなければ ルカ6:37
7日	㊦	互いに愛し合うならば ヨハネ13:35
8日	㊦	イエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい 2ペトロ3:18
9日	㊦	わたしたちの本国は天にあります フィリピ3:20



成人科

●今の時代、ともすると、自分たちと違う価値観の人を自分たちの外側に置き、隔ての壁を作りあげてしまいそうになる状況がたくさんあるのではないのでしょうか。身近な人と人との間で、あるいは、社会全体の間で、そのような状況があるのではないかと思います。そんな中、考え方や価値観の違うお互いが、その状況を乗り越え、可能な限り相手を肯定し、対話する方向に向かうことができるかということは本当に大切なテーマなのだと思います。

●「イエス・キリストが現わされた平和は、私たちが相手に対して寛容であろうとすること、その相手を歓待することを指し示している」というメッセージについては丁寧に考えていきたいテーマです。このようなメッセージが一方的な形で語られることで苦しんだり、傷ついたりする人もいるかも知れません。和解やゆるしのメッセージが乱暴なかたちで語られることがないようにしていきたいと思います。和解やゆるしには、何より丁寧なプロセスが必要なのだと思います。

かなめ石はキリスト

聖書 エフェソの信徒への手紙2章14～22節

暗唱 聖句 実に、キリストはわたしたちの平和であります。
エフェソ2:14

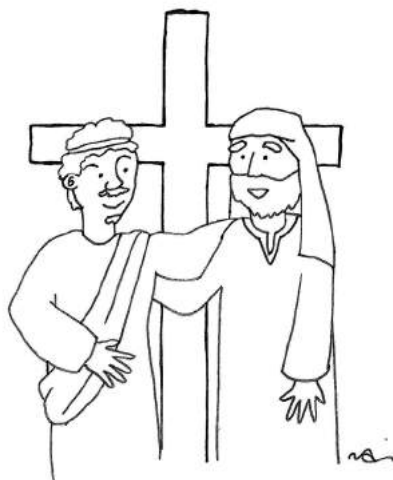
15
課

7
月
10
日

エフェソの教会には、ユダヤ人とユダヤ人でない人がいて、対立をしていました。ユダヤ人はモーセの律法を守って、生まれたばかりの頃に割礼を受けたり、食べてはいけない食べ物を食べなかったりして決まりに従っていました。ユダヤ人でない人、異邦人と呼ばれる人たちは、律法のことを知らずに育ってきましたから、割礼を受けていない人がほとんどで、食事も律法で禁じられたものを自由に食べていました。ユダヤ人たちは、律法を守らない異邦人たちを嫌い、汚れた者と言って差別をしていました。このように、同じ教会の人々が、ユダヤ人と異邦人で仲間割れをしていたのです。

また、エフェソの町では、偶像の女神アルテミスに献げられた肉を市場で売っており、ユダヤ人はこの肉を食べませんでした。異邦人たちはそれを食べていました。このことも、ユダヤ人にとっては許しがたいことになっていたのです。

「ユダヤ人と異邦人はなぜ仲間割れをしているのだろう。イエスさまに救われた同じ仲間なのに」と、パウロは悲しんでいました。「ユダヤ人であっても、異邦人であったとしても、イエスさまを信じる人たちは一つの教会に集う仲間たち。みんながイエスさまのみ手の中で一つになる、平和になってほしい」と、パウロは望んでいました。イエスさまが二つに分かれた人々を一つにするから、二つを隔てている壁を取り除い



て、一つの教会を建て上げていくようにと手紙に書きました。

違いを乗り越えて一つになることは簡単なことではありません。わたしたちも、自分の思っていることと違うことをする人を、なかなか許すことができません。自分と違う人との間に壁をつくって、その壁をのりこえることができなくなります。でも、イエスさまはそのような隔てる壁を取り除いて、わたしたちを一つにし、みんなを一つの「キリストの体」に建て上げてくださいます。

キリストの体の土台、かなめ石は何でしょう。それはイエスさまです。イエスさまは、いろいろな違いをもっている人たちをつなげて、イエスさまのみ言葉の上に建て上げ、その中心となって教会を建てあげていかれるのです。お互いに違いがあっても、キリストというかなめ石を土台に一つに建て上げられていく。パウロはそんな夢を描いて祈っていました。

かなめ石はキリスト

聖書

エフェソの信徒への手紙2章14～22節

暗唱
聖句

実に、キリストはわたしたちの平和であります。
エフェソ2：14

青少年科



15
課

7
月
10
日

聖書から…

「律法」(2：15) ってそんなに悪いものなんですかね？ いやいや、元々は「皆が神さまの愛に結ばれて、本当の意味で幸せに生きることができるように」「神さまに愛されたお互いが愛し合い支え合う社会をつくることができるように」という神さまの願いがギュウギュウに詰まったものなのです。しかし人間の側がその用い方を誤り、いつしか「律法」は人々を分断する「敵意」(2：14) の道具にされてしまいました。

私たちは、自分(たち)と「違う」存在に対して気持ちがザワっとしてしまうでしょう。そして、自分(たち)なりの「正義」をブンブン振りかざしながら、相手との間に「隔ての壁」(2：14) をせっせと作ってしまうでしょう。それにもかかわらず「罪人や徴税人」とも、「ファリサイ派」の人とも(ルカ7：36)一緒に食事をされたイエスさまが、神さまと私たちの間に、私たち同士の間に本物の「平和」を取り戻してくださると、聖書は語るのです。

分かち合おう

- 聖書の示す「平和」は、単に「波風の立っていない状態」ではありません。「同調圧力」という言葉をよく聞くようになりましたが、誰かが一方的に我慢させられたり、口を封じられたりするところに生まれる静けさは、本当に「平和」なものなのでしょうか。自分が傷つけられたときや納得いかないことがあったとき、事を荒立てないために「相手をゆるさなければならない」「寛容でなければならない」と無理してしまうことはないでしょうか。そのようなところに、まことの「和解」が成り立つのでしょうか。見せかけの、うわべだけの「平和」「和解」について感じることを紹介しあってみましょう。
- 「平和」(2：14)を表すヘブライ語「シャローム」は、「元の完全な姿への回復・帰還」というニュアンスを含む言葉だそうです。『創世記』における創造の物語を思い起こすと、そのイメージがおぼろげなりとも浮かんでくるかも知れません。「神の似姿」として創造された人間が神さまと人格的コミュニケーションによってまっすぐつながっている状態、あらゆる被造物を神さまが「とってもいいね！」と喜んでおられる状態、人が互いに相手の存在を喜びありのまま受け入れている状態…。私たちは聖書の中から世界のどのような「元の完全な姿」を見つけ出せるのでしょうか？

かなめ石はキリスト

聖書 エフェソの信徒への手紙2章14～22節

暗唱 聖句 実に、キリストはわたしたちの平和であります。
エフェソ2：14

15課

7月10日

聖書から…

パウロの時代も現代も、教会にはさまざまな人が集まっています。出身や考え方、好き嫌いもバラバラな私たち。互いの違いを受け入れ合うことは、簡単なことではありません。違いばかりを見ていたら、私たちはそのまま別々に生きていくしかなくなるでしょう。しかし、パウロは教会を「キリストの体」と呼びます。そこでは、互いの違いに目を注ぐのではなく、バラバラの私たちと同じイエスさまを信じる信仰に立つことが大切だと語っています。同じイエスさまを見上げ、互いが同じ愛をいただいていることを知るとき、私たちは違いのある人を「同じイエスさまに愛されている人」と考えることができるようになるでしょう。だから教会の土台、かなめ石はイエスさまなのです。

活動①

「キリストが土台」

ダンボールなどを使って、大きな「積み木」を作ります。大きくしっかりとした「イエス・キリスト」の積み木や「へ」「い」「わ」の積み木、それぞれ違った形をした「わたし」の積み木や、不安定でぐらぐらした「わたしの好き嫌い」「力の強さ」「律法」などの積み木も作ってみましょう。土台に不安定な積み木を置くと、上に置いてある「へ」「い」「わ」の積み木はバラバラになってしまいますよ！ 気を付けて!!

活動②

ワークシート

「キリストが『かなめ』扇子」

扇子の留め金の部分を「かなめ」と言います。これがないと扇子がバラバラに壊れてしまいます。私たちにとってのイエスさまと同じですね。扇子を作って、いつもそのことを覚えられるようにしましょう。

●材料（1人分）●ワークシートのコピー2枚、木製スティック5本、割ピン（長さ20mm）

●道具●キリ、ドライバーなど、はさみ、色を塗るもの（色鉛筆、クレヨン、色ペン）、両面テープやのり

●事前準備●木製スティック（アイスの木のような形）にキリで穴をあけ、ドライバーなどを使って割ピンが通る大きさの穴に広げる。

①ワークシート1人2枚（裏表用）を用意して切り取り、自分の好きな絵を描き、色を塗ります。

②木製スティックに割ピンを通し、ピンを割って固定します。

③①に合わせて、木製スティックを均等に広げ、両面テープやノリでスティック一本一本の上部にのり付けし、ワークシートを貼り付けます。

※割ピンの丸が出ているほうが表になるように貼ります。

④裏側にもワークシートを張り付けます。

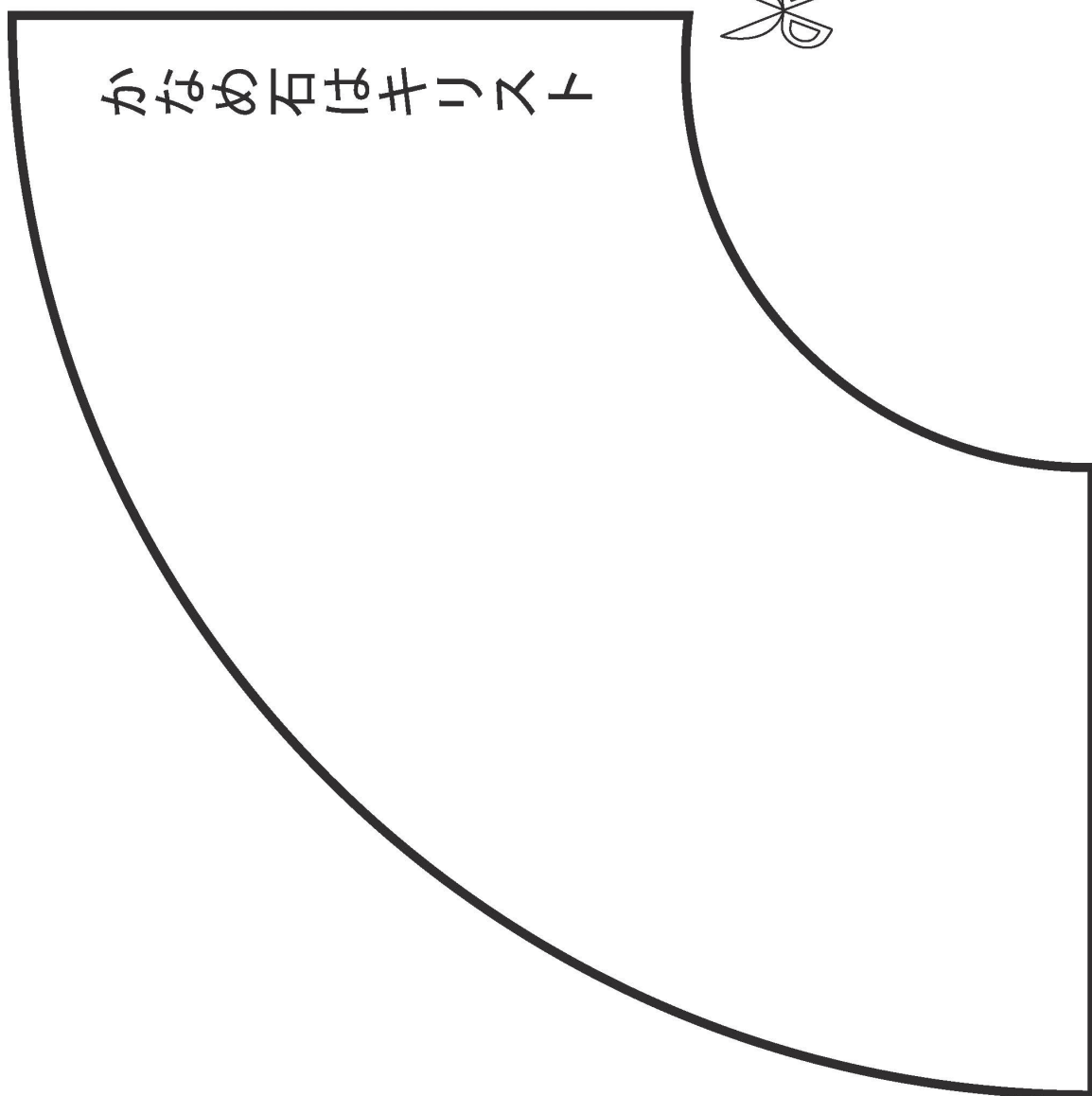
⑤扇子を閉じて折り目を付けたら完成です（のりの場合は乾いてから）。「扇子 作り方 簡単」でネット検索できます。

キリストが『かなめ』扇子



15課

7月10日



でっかい愛がうれしくて

聖書 エフェソの信徒への手紙3章14～21節

暗唱聖句 神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。エフェソ3：19

16
課

7
月
17
日

ひざまずいて祈ります

ここで手紙の筆者は、「教会の一人ひとりが心の内にキリストを住ませ、愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者とさせてくださるように、そして、すべての聖なる者たちと共にキリストの愛がどれほどであるかを理解することができるように」と祈っています。私たちは祈ることなくして、愛を伝えることはできません。理路整然とした言葉で愛について語り、説得しようとしても、相手が心を閉ざしてしまえば、その愛を受け取ることはできないと思うのです。祈りの内に主が働き、主ご自身が一人ひとりを強めてくださり、それぞれのうちに信仰を与えてくださることによって、キリストの愛を知り、愛の豊かさにあずかっていくことができるのではないのでしょうか。

共に理解する

3：18では「共に」キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解するようにと祈られています。私たちは「共に」主にある交わりの中で、キリストの愛を理解していくということがあるのではないのでしょうか。それぞれ個々人の場所で祈ったり、聖書を読んだり、礼拝を献げたりしながら、個人的な主との交わりの中で、神さまの愛を噛みしめることもあります。しかしながら、教会で共に祈り、み言葉を分かちあう時、より一層神さまの愛に出会い、噛みしめることができるということがあるのだと思います。

私たちの思いをはるかに超えて

3：19には「人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり」と続いて、3：20では「はるかに超えてかなえることのおできになる方」と語られています。神のなさることは、私たち人間の考えや思いをはるかに超えたものです。私たちはどうしても愛を見失ってしまう時、心が内向きになり、目先のことにしか思いが向かわなくなってしまうことがあります。そんな私たちの心は、なおさら神さまが私たちにくださっている恵みの業の一つひとつに気づけなくなっているのかも知れません。主に取り扱われ、神の愛に心こころ拓かれていく中で、私たちはそれまで気づけなかった、私たちの思いをはるかに超える神の計画や神の愛に気づかされていくのではないのでしょうか。

あなたがたの内なる人を強めて

エフェソ教会の時代、キリスト者は様々な困難を通らされていました。その中で心がゆさぶられたり、心が弱くなってしまいそうになることもあったのではないのでしょうか。「あなたがたの内なる人を強めて」（3：16）という言葉が心に迫ってきます。コロナ危機の状況で、家の中にこもりがちな生活をしていると、どうしても心が悶々としてしまいます。心がささくれ立ってきたり、寂しさや不安でいっぱいになります。コロナ危機の自粛期間

中、一人暮らしをしていた青年が、色々なことを考えながら不安になって、夜中に意味もなく涙がポロポロとこぼれおちてきたと話していました。そんなふうに、私たちは日々の現実の中で、心ふさぎこみ、神の愛を見失ってしまいそうになります。そんな私たちに本日のみ言葉が迫ってきます。私たちは神さまに顧みられています。愛されているのです。その愛が中々見いだせず、神の愛を学んできたはずなのに、愛を見失いそうになってしまう私たちがいるかも知れません。しかし、そんな私たちを父なる神が力をもって私たちの内なる人を強めてくださり、信仰によって私たちの心の内にキリストを住まわせてくださること、そして、私たちが愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者とさせてくださる時、私た

準備のための聖書日課			
11日	㊦	信仰をよりどころとして	ユダ1:20
12日	㊧	絶えず祈りなさい	1テサロニケ5:16~19
13日	㊨	真理の霊に導かれながら	ヨハネ16:12~13
14日	㊩	ここに愛があります	1ヨハネ4:1~11
15日	㊪	わたしを強めてくださる方	フィリピ4:13
16日	㊫	主の思いはわたしたちの思いを高く超えている	イザヤ55:9

ちは神のあふれる豊かさに満たされるのではないかと思います。



成人科

●「キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し」(3:18) というみ言葉について話しあってみましょう。長らく教会を離れていた方が、ある時、教会に戻ってこられました。その方が証しをしてくださいました。「自分はこれまで教会を離れても、イエスさまには繋がっていたつもりでした。けれど、やはり、いつの間にか心が離れてしまっている自分がいました。こうして教会に戻ってきて、そのことに改めて気づかされました」。信仰の仲間がいたからこそ、見えてくることがあるのでしょうか。

●さらに、こんな話もしていました。「自分はそれまで『自分が祈る』ということについては意識していました。しかし、そんな自分が『周りから祈られている』ということをどこまで意識していたか。自分がこうして教会に戻ってきたのは、何よりも、自分のことを多くの人が祈ってくださっていたからなんだと思います。そのことを今、実感します」。私たちはきっと、自分が未だ気づいていないたくさんの神さまの恵みの業や信仰の友の祈りがあるのではないかと思います。そのことに気づかされる時、私たちは、自分の思いを越えたキリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さを知らされることがあるのではないのでしょうか。

でっかい愛がうれしくて

聖書

エフェソの信徒への手紙3章14～21節

暗唱
聖句

神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、
それによって満たされるように。エフェソ3：19

16
課

7
月
17
日

パウロはひざまずいて祈っています。何を祈っているのかな？パウロら、今まで訪れ、出会ってきた教会のみんなのことを祈っているのです。「神さま、みんなの心の内を強めて、心の中にイエスさまを住ませ、みんながキリストの愛に根差し、愛にしっかりと立つものとなりますように」と、パウロは祈っています。パウロは、出会ってきたすべての人たちを心から愛していました。それは、パウロの心が、イエスさまの愛によって燃やされているからなのです。

みなさん、愛するってどういうことだと思いますか。昔、聖書が初めて日本語に訳されたとき、「愛する」は「大切に（お大切）」と訳されたのです。みなさんも神さまに愛されています。大切にされているのです。必要のない人なんて、どこにもいないのです。一人ひとりが大切な人、愛されている人なのです。

わたしたちが神さまに愛されている、その愛の広さ、長さ、高さ、深さはどのぐらいなのでしょう。パウロはエフェソ教会の一人ひとりを思い浮かべながら、その一人ひとりを愛している神さまの愛を思いました。神さまの愛は海よりも、また空よりもでっかい愛なのです。両手を伸ばしても届かない、背伸びをしても届かない、でっかいでっかい愛なのです。そんな愛によってわたしたちは愛されています。神さまにそれほど愛されているなんて、なんだかこっ



てもうれしいですね。神さまの愛は計り知れない、わたしたちの思いをはるかに超えてでっかい愛です。パウロも、その愛がうれしくて、出会った人々を愛していったのでしょ

う。神さまに愛されていると思うと、心が強くなります。その強い愛は、人との違いを超えて、平和をもたらします。エフェソ教会では食べ物のことや律法のことユダヤ人と異邦人が仲たがいをしていますが、お互いに愛されている者どうし、お互いに受け入れあって、理解しあえるようになってほしいとパウロは願うのです。神さまがユダヤ人も異邦人も、どちらもでっかい愛で愛してくださっていると思うと、そこにお互いの理解と平和が生まれます。愛し合う心が生まれてくるのです。パウロは神さまのでっかい愛を心に、もう一度祈りました。「神さま、エフェソの教会に、そのほかの教会にも、神さまのでっかい愛で平和がおとずれますように」。

でっかい愛がうれしくて

聖書 エフェソの信徒への手紙3章14～21節

暗唱 聖句 神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。エフェソ3：19

16課

7月17日

聖書から…

エフェソの教会の皆が心配で、愛おしくて、居ても立ってもいられなかったのでしょう。この手紙にはイエスさまの愛が「これでもか、これでもか」と言わんばかりに盛り込まれており、読む者を圧倒します。そのベースには、熱い「祈り」がありました。

エフェソの教会の皆が、不安や孤独、悩みや疲れの中にあっても、イエスさまの大きな愛に包まれていることを思い出し、イエスさまと共に喜んで歩き続けることができるように、エフェソから遠く離れたところで人知れずささげられていた「祈り」が、確かにあったのです。「神さまは、皆のポケットに『愛』をたっぷり詰め込んでくださり、皆のポケットが『愛』でパンパンになっても、『もっと、もっと入れてあげたい』と言って、どこまでも追いかけてくるんだよ」、子どもの頃に教会学校で聞いたお話を思い出しました。

分かち合おう

- イエスさまの愛の「広さ、長さ、高さ、深さ」(3：18) という物言いは、その「愛」の中身が小さく平べったいものではなく、立体的な豊かさを持っていることを表しているかのようです。「イエスさまの『愛』って、こういうものじゃない?」、自分では当たり前のように考えていることがあるかも知れませんが、100人に対して「イエスさまの『愛』ってどういうものだと思う?」と尋ねるならば、100通りの「愛」が飛び出してきても知れません。自分一人では見つけられなかったイエスさまの「愛」に出会うために、例えば青少年クラスの方々が教会で普段あまり接する機会のない世代の方々ともお話しをする機会があったら素敵だなと思うのですが、どうでしょう?
- 「祈り」のひとつ、それは私たちの生活の中でどのようなものでしょうか。一人で、家庭で、教会で、人によっては学校で祈ることもあるかも知れませんが、一人での「祈り」は、非常に濃密な神さまとの交わりです。「他人に言えば『愚痴』になることも、神さまに言えば『祈り』になる」と言った人がいました。本当の自分の思いを打ち明けることのできる相手ははっきりしているということは、何とうれしく安心なことでしょうか。そして、周りの人たちと共にささげる「祈り」も大変豊かなものです。私たちの教会には、どのような共通の「祈り」の課題があるでしょうか。それらの課題について私たちはどのような思いを持っているでしょうか。

でっかい愛がうれしくて

聖書

エフェソの信徒への手紙3章14～21節

暗唱
聖句

神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、
それによって満たされるように。エフェソ3：19

16課

7月17日

聖書から…

パウロは、神さまの愛は人には計り知れないほど大きなものだと言っています。そんな神さまのでっかい愛の中には、すべての人が包みこまれているのでしょう。その中には、私たちの友だちや家族、教会の仲間はもちろん、私たちが苦手な人も含まれているでしょう。私たちにとっては好きになれないような人でも、神さまにとっては皆同じように大切な一人なのです。そんな神さまのでっかい愛の広さ、高さ、深さはどんなもので、その広がりの中にはどんな人がつながっているのでしょうか。一緒に想像してみましょう。

活動①

「みんなをつつむでっかい愛！」

赤い紐や毛糸やスズランテープを準備して、思い思いのポーズで寝転がったり、座ったりしているみんなをハートの形で囲ってみましょう。できれば大人数が楽しいですね。どんなにバラバラなポーズの一人ひとりも神さまのでっかい愛はみーんなを包んでくれますね。

土足の会堂や広いスペースが取れない場合はシートを敷いたり、紙でバラバラの大きさ・形の「わたし」を1人ずつ作って並べ、それを囲うなど工夫してみましょう。

活動②

ワークシート

「もらった愛を分かち合おう」

神さまのでっかい愛を感じるためには、自分だけの体験では足りませんね。1人ひとりが「神さまの愛を感じたこと」をワークシートに書いてみんなで分かち合ひましょう。たくさんの人との分かち合いの中で神さまの愛の広さ、高さ、深さを感じてみましょう。

14課の活動で書いた手紙に16課のワークシートを同封してもいいですね。返事が届いていたら、それを分かち合うともっと広がって豊かになります。また、これをきっかけとして、普段メンバーが接することの少ない教会員の方から証しを聞く機会をもつのもいいですね。一人ひとりに深くかかわってくださる神さまの愛を知ることができるでしょう。

※「神さまの愛を感じたこと」というテーマが難しければ、「教会に来るとうれしいこと」「イエスさまにギュとされたら」など、メンバーに合わせてイメージをふくらませてみましょう。

絵本の紹介

『どんなに きみがすきだかあててごらん』

サム・マクブラットニィ／文 アニタ・ジェラーム／絵 小川仁央／訳 評論社

「きみのことがこんなにすきだよ」と伝えあうチビウサギとデカウサギ。デカウサギの「すき」はいつだってチビウサギの想像を超えています。私たちの思いをはるかに超えて大きな神さまの愛を思いながら読んでみましょう。

もらった愛を分かち合おう

あなたがたが神さまからもらった「愛」はどんなものですか？

「こんなみことばをよんだときうれしかった」

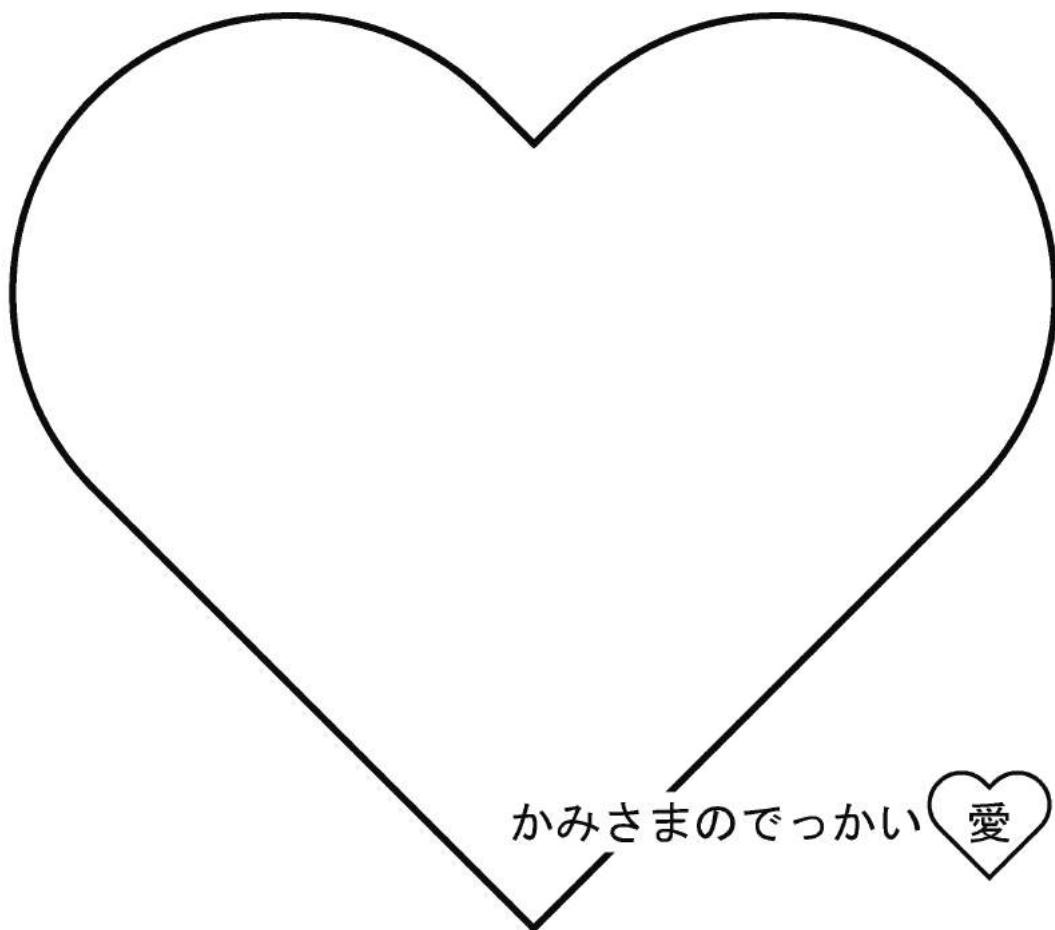
「教会にくと、こんなことがうれしく感じる」など。

おとなのひとには「神さまに出会ったときの証」などをかいて
分かち合ってもらいましょう。

みんながもらった愛を分かち合って、神さまのでっかい
愛をかんじましょう♡



キリトリ



かみさまのでっかい

愛

キリスト者として どう生きるのか

1～3章までは、キリストにおいて現わされた神の恵みと救いの希望について語られてきました。これに続き、4章以降では、その恵みと希望に基づいて生きる信仰者として「どう生きるのか」ということが勧めとして語られます。これまでの古い人としての生き方を脱ぎ去り、キリストに結ばれた者としての新しい人を身に着けて生かされていくことが勧められています。

知性は暗くなり

4：18には「知性は暗くなり」と語られています。私たちは、知識として事柄を知っていても、本質が見えないままだったりするのではないのでしょうか。ルカによる福音書24章にエマオの途上の記述があります。イエス・キリストの十字架と復活の出来事後、二人の弟子がエマオに向かって歩いていました。そこに復活のキリストが現れ、二人の弟子に近づいてこられたのですが、弟子たちは目の前の人是谁であるか分かりませんでした。この時、弟子たちは「暗い顔をして」（ルカ24：17）いました。あの弟子たちのように、私たちは、せっかくかけがえのないものと出会っていても、大事なことが分からないままであることがあります。そして、エマオの途上の弟子たちがエルサレムから離れようとしていたように、どんどん神の命から離れてしまうことがあるのではないのでしょうか。

「おかしい」と言っている人の ほうが

4：17～19に記されている、周りの人たちが「愚かな考え」を持ち、「無知」や「かたくなな心」で、「無感覚になって放縱な生活をし、ふしだらな行いにふけて」いる状況を想像します。そのような状況で、自分自身を保って真理に基づいて生きようとするのは容易なことではないと思います。明らかに「それはおかしい」と思うようなことも、周りにとってそれが当たり前のことだとしたら、「おかしい」と言っている人のほうが浮いてしまったり、変わり者扱いされたりするかも知れません。エフェソ教会の人たちもそのような思いを通らされたのではないのでしょうか。しかし、それでもキリストを見上げながら、励まされながら、真理がキリストの内にあると信じ、その真理に基づいて歩んでいくように呼びかけられています。

真理に基づいた正しさ、清さ

今の時代、正義とか、倫理を呼びかけるのは難しいかも知れません。それより「自分の生きたいように生きる」というメッセージのほうが多くの人に受け入れられるのではないのでしょうか。それほどに、私たちを取り囲む今の世界は窮屈きゆうくつで、私が私らしく生きることをゆるしてくれない状況があるのだと思います。ですが、私たちが互いに自分の好きな生き方だけを追い求め、正義や倫理がなおざりにされてしまうなら、その先にはきっと、立

場の弱い人たちや声を挙げられない人たちに犠牲を強いてしまう世界が生み出されていくのではないのでしょうか。実際、私たちの世界には、様々な場所で、そのような構図が生み出されているのではないかと思います。そんなことを思う時、「真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません」(4:24) との言葉が心に迫ってきます。キリストとの出会いによって「心の底から新たにされた」(4:23) 正義や倫理とは、人を何かのルールで縛りつけるようなものではなく、かつてイエスさまが群衆たちをご覧になられて「腸のちぎれる思い」(マルコ6:34 岩波訳) を通らされたように、目の前の人を見て、「この人のことを放っておけない」という思いの中、自分に何ができるのかを問い、

準備のための聖書日課			
18日	㊦	愚かなふるまいに 戻らないように	詩編85:9
19日	㊦	わたしは道であり、 真理であり、命である	ヨハネ14:6
20日	㊦	キリスト・イエスに 結ばれ	ローマ6:3
21日	㊦	真の礼拝により 新たにされ	ローマ12:1~2
22日	㊦	イエスのまなざし	マタイ9:36
23日	㊦	心かたくなにしては ならない	申命記15:7~8

少しでも主に喜ばれる歩みをしたいと願いながら、なされていく歩みなのだと思います。



成人科

●聖書のみ言葉を大切に
して歩もうとしていく時、
それまでの価値観や、考

え方が変わっていくことがあります。これまで、大事だと思っていたことが、必ずしも絶対ではないことに気づかされたり、今まで見過ごしにしてきたものがかけがえのないものであることに気づかされていくこともあります。そのような中、周りの人たちとの間にギャップが生まれたり、価値観の違いにジレンマを感じることはないのでしょうか。

- 「この人のことを放っておけない」という思いで踏み出したことがあるのでしょうか。ある牧師が訪問したお宅で、世界食料デー

の働きを紹介しました。「世界には食べられずに困っている子どもたちがいて、世界食料デーではその子どもたちを助けるための活動を行なっているんだ」。その話を聞いた子どもが自分の部屋から貯金箱を持ってきて「このお金をその子たちにあげる」と言いました。お母さんは驚いて、「そんなにしなくてもいいんじゃない？大丈夫？」と声をかけました。すると、子どもは「お母さん、ぼくをみくびらないで」と語りました。後日、改めてお母さんが話していました。「実はあの時、うれしかったんです。これまで、あの子がどんなふうにいるのか、ずっと気がかりでした。でも、あの時のうちの子の姿を見て、『この子は大丈夫』と思えました」。

心の底から新たにされて

聖書 エフェソの信徒への手紙4章17～24節

暗唱 聖句 真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。
エフェソ4：24

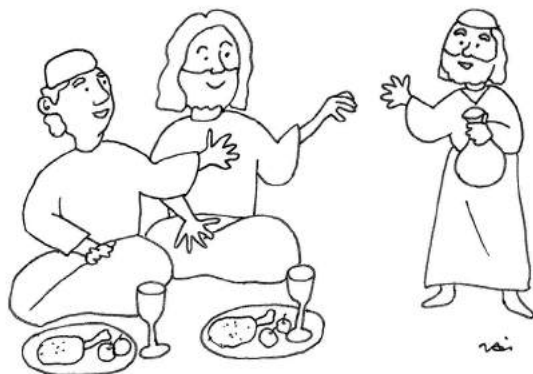
17課

7月24日

「ねえ、お母さん、あの人たちはなんで市場で売っているお肉を食べるの？ 市場のお肉はアルテミスの女神にささげられたもので汚れているんでしょう？」男の子はお母さんに聞きました。お母さんは答えました。「教会の中にはいろいろな人がいるのよ。異邦人のようにモーセの律法を知らないで育った人たちもいるわ。市場のお肉を食べる人がいれば、わたしたちユダヤ人のように食べない人もいるの。イエスさまの前ではみんな自由なのよ。自分らしく生きていいの」。

偶像の神にささげられた肉を食べてもいいか、よくないのかということは、エフェソの教会でも大問題になっていました。ユダヤ人たちは偶像のアルテミスにささげられた肉を汚らわしいものとして食べませんでした。でも、ユダヤ人でない人々は子どもの頃から市場の肉を食べていたので平気でした。ユダヤ人たちは異邦人の信徒たちに、市場の肉を食べるのをやめるように言いました。それから、ユダヤ人が生まれてすぐ受けていた割礼を、異邦人の信徒にも受けさせようと思いました。それで問題が起きていたのです。

パウロはこのことで悩んでいました。確かにモーセの律法は大事なものです。守ることができればよいことです。でも、子どもの頃から律法とは無縁の人たちに、律法を守らないことは罪であると言ってよいのでしょうか。「大切なのは、イエスさまを



信じて、心の底から新しくされて生きることだ。律法を守っているか、そうでないかで、裁きあうことは、イエスさまのみ心とは違うのではないか」。

律法を守っているからイエスさまに愛されているのではなく、イエスさまに愛されているから、滅びに向かう悪い生活を捨て、清い生活をするようになるのです。お互いに裁きあうのではなく、違いを認め合って、神さまに喜ばれる生活をしていけばよいのです。

パウロは神さまに祈りました。「みんなが違いを認め合って、神さまの前で清い生活をする事ができるよう守ってください。裁きあうのではなく、自分が良いと思う仕方、自分らしく過ごす事ができる世界になりますように」。本当に大切なことを忘れて、一方的に裁きのことばで切り捨てていくのではなく、本当に大切なことを聖書のみ言葉から聞いて、それによって新しい自分へと生まれ変わっていくことができますように。パウロはエフェソの教会がそうなることを願って祈り続けました。

心の底から新たにされて

青少年科



聖書

エフェソの信徒への手紙4章17～24節

暗唱
聖句

真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。
エフェソ4：24

聖書から…

エフェソの教会のメンバーは、聖書が示すものとは全く異なる価値観や倫理観が支配する社会の中で生きていたようです。その中で上手に、ラクに生きるには、周りに迎合していくのが得策だったことでしょう。しかしこの手紙は敢えてビシッと「それではいけない」と言うのです。「真理に基づいた正しく清い生活を」（4：24）などと言われると、いかにも不自由でつまらない生き方を強要されている気がしませんか？しかし、その「真理」の源はイエスさまです。

イエスさまの愛・正しさにつながろうとするとき、そこに本当の自由が生まれ、本来の「わたし」が解放されていくのです。イエスさまの愛を知って、不正まみれの生き方を嬉々として手放したザアカイもそうでしたっけ。神さまの大きな愛に包まれて、あるべき「わたし」へと脱皮して羽ばたくことができる、そんなダイナミックな可能性とイエスさまの招きが、この手紙を読むものの眼前に豊かに広がっています。

分かち合おう

- 某アニメ作品の劇中歌「ありの～、まもの～♪」が多くの人々の心に刺さったことは記憶に新しいところです。老いも若きも、「ありのままの」姿では生きづらい世の中だからなのかも知れません。また、一度でも周りから「叩かれる」ような言動をしてしまうと、やり直すチャンスが与えられないような時代の雰囲気があります。うっかり「ありのままの」自分を出して「叩かれ」ては大変、と警戒する思いにもなるでしょう。私たちにとって「ありのままの」自分で生きるというのはどういうことでしょうか？「己の欲望に忠実に生きる」ということと何が違うのでしょうか？「ありのまま」の自分で生きるということは、聖書が示す生き方のメッセージとどのようにリンクしている（していない）でしょうか？
- 「何をどう信じるか」（信仰）と「どう生きるか」（倫理）ということ、セットになっています。「イエスさまを信じていますよ、でも、イエスさまの言うことに従うつもりはありませんよ」と言ったら、イエスさまもビックリしてしまうのでは…。聖書全体を通して、私たちはどのような具体的な「生き方」「考え方」「在り方」を神さまから求められていると感じるでしょうか。私たちにとって、それらの中でどのようなことが「喜び」となっているのでしょうか。反対に、どのようなことが受け入れがたく、ピンと来ない点でしょうか。

17
課

7
月
24
日

心の底から新たにされて

聖書 エフェソの信徒への手紙4章17～24節

暗唱 聖句 真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。
エフェソ 4：24

17課

7月24日

聖書から…

パウロはエフェソ教会に、律法は大切だけれどもっと大切なのは「真理に基づいた正しく清い生活」を送ること、つまり「神さまに喜ばれる生活」をすることなのだと言っていました。私たちも「こうしなければならぬ」という自分たちの中の「律法」に縛られて、他の人を裁いているかもしれません。また逆に、正しいと思っているのに周りの雰囲気にもみ込まれて、正しいことを正しいと言えないでいるかもしれません。そんなところから自由になり、新しくされた自分として神さまの前でらしい「清い生活」を送ることができるよう、いつもみことばから気づかされていきたいですね。

活動①

「新しい音色で」

普段はまったくちがうことに使っている道具やもので、神さまを賛美する新しい音を奏でてみましょう。叩いてみたり、こすってみたり。組み合わせて工作してみるのもいいですね。音が見つかったら、みんなで実際に賛美歌を歌いながら鳴らしてみましょ。それぞれが考えた音を賛美の歌詞やメロディーに合わせて分担したり、一緒に鳴らしたり、コーディネートしながらお互いの音を生かして楽しめるといいですね。

例) 聖書をパタンと閉じる音、キッチンボウル同士を合わせる音、紙をくしゃくしゃにする音、紙をびりびり破く音など。

活動②

ワークシート

「新しい道を」

ワークシートのスタート地点から、神さまに喜ばれる生活のゴールへ続く、律法以外の道を見つけましょう。ゴールにたどり着けるのはどの道かな？ 神さまの愛とみことばに背中を押されながら、新しい道を探してみよう♪

9 `ε `l : 樹王※

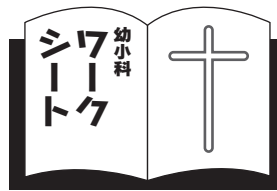
活動③

「W.W.J.D. グッズを作ろう」

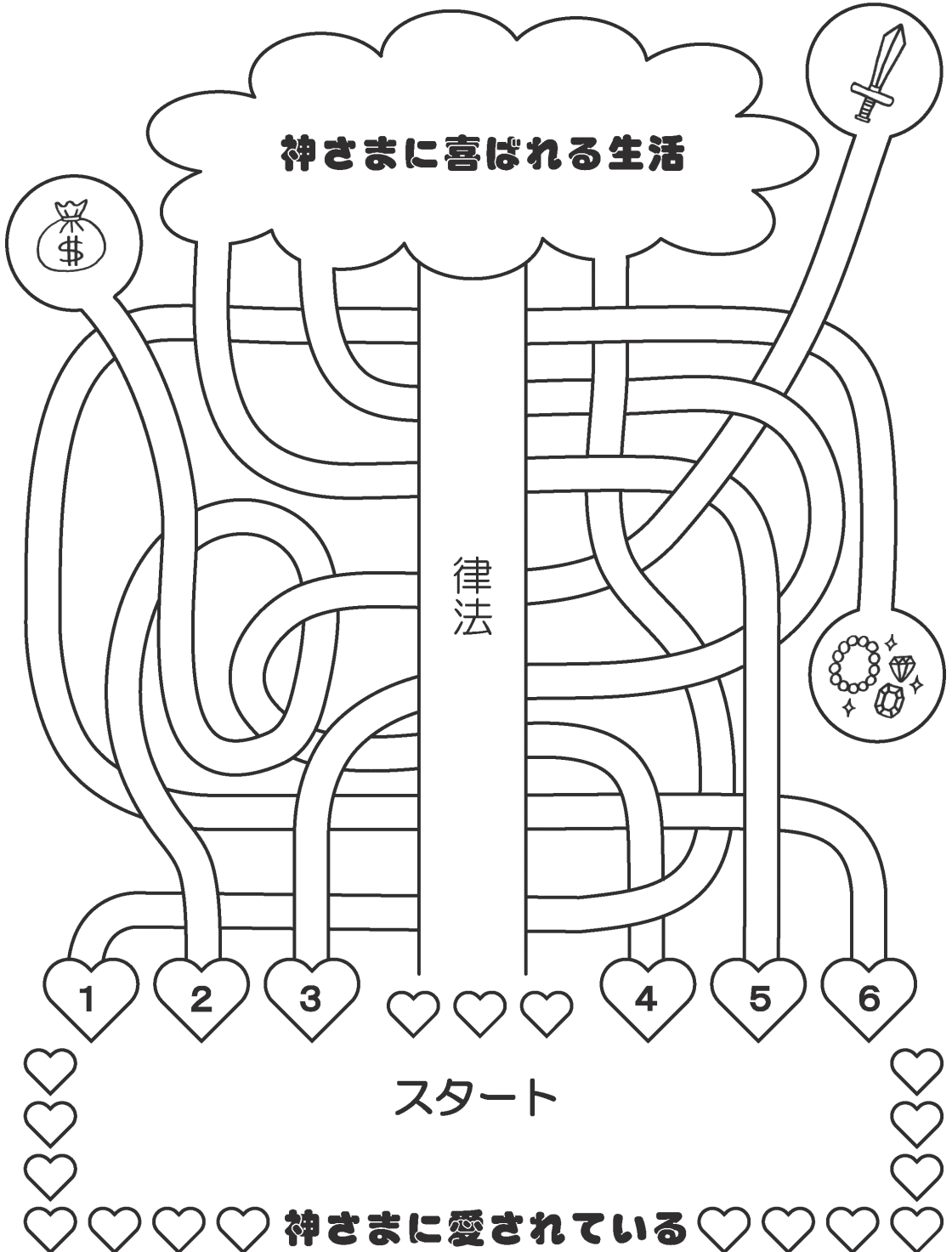
「W.W.J.D.」というのを知っていますか？ これは英語の「What Would Jesus Do ?」(イエスさまならどうする?) という言葉の頭文字をとったものです。この言葉は、私たちが困った時や決断を迫られた時に自分たちの一時的な感情や周りの雰囲気ではなく、イエスさまの喜ばれることを基準に選び取りをすることを思い出せるようにと、イエスさまを信じる人たちの間で用いられてきた言葉です。私たちもいつも「イエスさまに喜ばれること」を心に留めておけるように、自分だけのオリジナル W.W.J.D. グッズを作ってみましょう。

例) 紙にイラストを描いたり、切り抜いたりしたものラミネートしてしおりを作る。プラバンに書いてキーホルダーを作る。100円ショップのオリジナルボールペン/シャープペンキッドを使って…など。





神さまに喜ばれる生活への律法以外の新しい道はどれかな？





愛されている子ども

聖書

エフェソの信徒への手紙5章1～20節

暗唱
聖句

あなたがたは神に愛されている子供ですから、神に倣う者となりなさい。
エフェソ5：1

18
課

7
月
31
日

今は悪い時代なのです

5：16には「時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです」と語られています。この言葉からエフェソ教会の人々を取り囲む環境を想像します。5：4～5で言われているような言葉が実際に周りで語られている状況があったのではないのでしょうか。そんな人々の言葉を聞きながら、眉をひそめたり、心痛めるようなこともあったのではないかと思います。また段々とそういう言葉に慣れてきて、心が無感覚になり、いつの間にか、自分も同じような言葉を口にしてしまうこともあったかも知れません。そんな中、エフェソ教会の人たちに対して、本来の自分を見失うことがないように諭しているのだと思います。5：1の「あなたがたは神に愛されている子供ですから」という言葉が心に迫ってきます。周りの状況に翻弄され、自分を見失いそうになるような中で、私たちが神に愛されている神の子どもであることを思い起こし、その愛に心が立ち戻らされたらと思います。そのようにして、私たちは周りを飛び交う空しい言葉に惑わされないでいられたらと思います。「おかしい」と思うこと、「違う」と思うことに関してきちんと声をあげることができたらと思います。何より一つひとつのことの中で、何が主に喜ばれるかを吟味しながら、無分別な者とならず、主のみ心を追い求めることができたらと思います。

彼らがひそかに 行っているのは

5：12には「彼らがひそかに行っているのは、口にするのも恥ずかしいことなのです」と語られています。創世記3章には、最初の罪を犯したアダムとエバが「園の木の間に隠れた」（創世記3：8）と記されています。自分に都合の悪いことを誤魔化そうとしたり、隠そうとしたりするのは、誰しものが抱えている性質です。ましてや悪い時代にあって、人々は自分の都合のよいことばかりひけらかす一方、都合の悪いことに関しては誤魔化してばかりで、陰に隠れて、こそこそとしていたのではないのでしょうか。

暗闇の業を明るみに

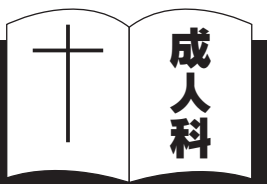
5：11には「実を結ばない暗闇の業に加わらないで、むしろ、それを明るみに出さなさい」と語られています。しかし、そうすることは実際にはとても勇気がいることだったのではないのでしょうか。暗闇の業を明るみに出そうとする時、周りからの反発や抵抗を受けることがあったかも知れませんが、そうすることで自分が攻撃されることだってあったのではないのでしょうか。事柄を明るみにする中で、問題が周りの人たちだけではなく、自分にも内在する課題であることを突き付けられたかも知れません。

明らかにされるものはみな

突き詰めて言うなら、私たちは誰しも神さまの前に真っすぐに立つことなどできない弱さや罪を抱えています。自分だけが正しい側のものであるかのように誰かを裁くことなどできないのだと思います。しかし、神さまはそんな私たちであるにも関わらず、私たちを受け入れ、「愛された者」としてくださいました。そして、キリストの贖いにより、私たちは「以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となってい」るのです。「光の子として歩みなさい」との言葉は、私たちが他の人たちと違って正しいからでも、間違いがないからでもありません。私たちが誰しも罪を抱え、問題を抱えています。それにも関わらず神に赦された存在として「光の子」なのです。「すべてのものは光にさらされて、明らかにされます。明らかにされるものはみな、

準備のための聖書日課			
25日	㊦	神がまずわたしたちを愛してくださったから	1ヨハネ 4:19~21
26日	㊦	多くを赦された者として	ルカ7:47~48
27日	㊦	思い煩うのをやめて、感謝を	フィリピ4:4~7
28日	㊦	善を求めよ、悪を求めな	アモス5:13~15
29日	㊦	神の御心に適うことを願うなら	1ヨハネ5:14
30日	㊦	あなたがた自身と群れ全体とに気を配って	使徒20:28

光となるのです」(5:13~14)との言葉は、励ましと慰めです。暗闇の業を明るみに出すことはチャレンジですが、主はそのことの先に、すべてのものを光へと変えてくださるのです。



- 「暗闇の業～を明るみに出しなさい」(5:11)との言葉が心に迫ってきます。

私たちはたとえ悪気がなかったとしても、いつの間にか色々な思いを抱え込み、誰にも分からない暗闇にしまいこんでしまっていることがないでしょうか。

- 一昨年はコロナの影響で、私たちの教会では様々な教会プログラムを中止していました。ですが、「とにかく、一度集まって、それぞれの思いの丈を話し合う時間を持ちましょう」ということになり、一日教会学校キャンプを行ないました。集会の中で、一人の中学校の先生がこんな話をしてくれました。「コロナの後、自分

は学校のことなどガムシャラにやって来ましたが、ずっと解消できない思いを抱えてきました。それが何か、自分でも分からなかったのですが、静まって考える中で思ったことは、自分がずっと腹を立てていたんだなということでした。学校のやり方や国のやり方、その他色々なことに、ずっと腹を立てていたんだと気づいたんです。私たちは自分でも気づかないうちに、色々な思いを自分の心のうちにしまいこんでしまっていることがあります。あなたはしまい込んでいる想いを話せる誰かがいますか？ 祈りの中で神さまにじっくり聞いていただくでしょうか？ 教会は、互いに聞き合おうとしているでしょうか？

愛されている子ども

聖書

エフェソの信徒への手紙5章1～20節

暗唱
聖句

あなたがたは神に愛されている子供ですから、神に倣う者となりなさい。
エフェソ5：1

18
課

7
月
31
日

ある日、女の子が泣きながら家に戻ってきました。「お父さん、イエスさまを信じている人は悪い人なの？ 友だちがみんなそういうの。だから遊んでくれないの」。お父さんは言いました。「今の時代は、イエスさまの教えに反対する人が多いんだ。イエスさまの悪口を言いふらして、イエスさまを信じるのを邪魔するんだ。でも、わたしたちはイエスさまに愛されているんだ。自分らしく、イエスさまを信じて生きて行っていいんだ。友だちはイエスさまを信じていることをよく言わないかもしれないが、お父さんといっしょにイエスさまを信じてがんばっていこうね」。お父さんは女の子をぎゅっと抱きしめました。女の子もお父さんにぎゅっと抱きつきました。

エフェソ教会は大変な目にあっていました。エフェソには女神アルテミスを信じる人たちがたくさんいます。この人たちは、イエスさまを信じる人たちがアルテミスの像を作ることを反対したので、怒ってイエスさまを信じる人たちを迫害しました。間違っていることに、「違う」ということがなぜ悪いのか。パウロははっきりと「アルテミスの像を作るのは間違っている」と言ったため、アルテミスの像を作る銀細工職人から殺されそうになったことも、牢獄に入れられたこともありました。

神さまに喜ばれない生活をするのを、パウロはよしとしませんでした。神さまはイエスさまによって、一人ひとりを大きな



愛で愛していることをお示しになりました。だから、暗闇のような悪い業に取り込まれないで、神さまに愛されている子として、光の子として歩みたい。パウロはそう願い祈りました。「暗闇の業を、神さまの光の中に映し出し、はっきりと見せてください。今の時代は悪い時代なのです。わたしたちもみな罪びとですが、神さまに愛されていることを信じて生きています。私たちが神さまの光に照らされて、世の光となることができるよう導いていてください。光は正義であり、正しいものを映し出すことを知っています。愚かな者ではなく、賢い者として、気を付けて歩むことができますように」。

女の子とお父さんは、日曜日になると教会に行って、賛美歌を歌ったり、祈ったり、みんなで語り合ったりしました。心から神さまをほめたたえていると、心に光が差してくるように感じて、とてもうれしくなりました。「わたしは神さまに愛されている子なんだ」という気持ちがわいてきました。イエスさまがいつも一緒にいます。

愛されている子ども



聖書

エフェソの信徒への手紙5章1～20節

暗唱
聖句

あなたがたは神に愛されている子供ですから、神に倣う者となりなさい。
エフェソ5：1

聖書から…

手紙による怒涛の励ましと勧めが続いてゆきます。「悪い時代」(5：16)のど真ん中で歩まざるを得ないエフェソの教会のメンバーたちに必要だったのは、「自分たちが何者であるのか」ということの再確認でした。

神さまのみ心に従う生き方を選び取る根拠は、「神さまに愛されるようになるために」ということではなく、「(既に)神さまに愛されている子どもなのだから」ということだったのです！「暗闇の業」(5：11)に加担することなく、それに抗っていくためには、積極的な「賢さ」や「意志」が必要でした。決してマニュアル化できない、クリエイティブな「思考」や「行動」が必要でした。

礼拝とお互いの交わり(5：19)が、きっと当時のキリスト者たちを支え、「光の子として歩む」(5：8)原動力となっていたのでしょう。いつの世のキリスト者にとっても、同じことが当てはまるのではないのでしょうか。

分かち合おう

- キリスト者はいわゆる「お上品」(?)な発言しかしてはいけないのでしょうか。これは意見の分かれるところだと思います。例えばコミュニケーションの中で「ユーモア」は、良い潤滑油の役割を果たすこともできるかと思えば、一つ間違えば「卑しいな」「愚かな」「下品な」(5：4)表現となって、相手との関係を損ねることもできてしまいますよね。「神に愛されている子供」(5：1)「光の子」(5：8)として、私たちは誠実に自らの言葉や思いを「吟味」(5：10)し、「細かく気を配って」(5：15)いく必要があるのではないのでしょうか。どのように考えますか？

- 「光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです」(5：9)とあります。それらに基づいて物事を見ようとするとき、「暗闇の業」(5：11)に気が付かされることがあるのでしょうか。私たちはしばしば、「それを明るみに出す」(5：11)ことを躊躇し、あるいは「善意と正義と真実」を自己流にアレンジして他者を攻撃し断罪する「道具」に変えてしまうことさえある、弱くて間違いやすい存在であることを改めて思わされます。「暗闇の業」を「明るみに出す」、その本来の目的や動機は何であるのかを立ち止まって考える時、「愛によって歩みなさい」(5：2)という勧めの言葉によって、私たちは軌道修正され、押し出されていくように感じました。

18課

7月31日

愛されている子ども

聖書

エフェソの信徒への手紙5章1～20節

暗唱
聖句

あなたがたは神に愛されている子供ですから、神に倣う者となりなさい。
エフェソ5：1

18課

7月31日

聖書から…

今の私たちの周りには、たくさんの「正しさ」が溢れています。でも、聖書の語る本当の正しさは、神さまに喜ばれる生き方をすることです。神さまの正しさに従う時、周りからわかってもらえないこともあるかもしれません。それでも、そんな私たちの歩みを神さまは見ていてくださいます。私たちは神さまから愛されている子どもなのです。毎週教会で、この神さまの正しさを学びながら歩んでいきたいですね。神さまの正しさの光に照らされて、一つひとつのことを見ると、そこには本当の喜びが与えられるのです。

活動①

「愛されていることを喜ぼう」

「主われを愛す」(『新生讃美歌』523 番 日本バプテスト連盟) を歌ってみましょう。どんなに悲しいことがあっても、自分が「神さまに愛されている子ども」であることを感じながらゆっくりじっくり歌ってみましょう。

また、1 番を手話で賛美してみましょう。「愛す」の手話で大事なものを、愛をこめてなでる様子を通して、神さまが私たちを大切に思ってくださいることをさらに実感できることでしょう。

参考のために手話動画を作成しました。以下の URL からご利用ください。

<https://qr.paps.jp/GqPGg>

活動②

ワークシート

「愛の光に照らして！」

ワークシートで「神さまの愛の光」を通してみることで、一つひとつのことを正しく見ることができようになることを学びましょう。

- ①ワークシートの①と②を切って重ねます。
- ②後ろから光を当てて丸で囲まれている文字だけを読みましよう。どんな文章が出てくるかな？

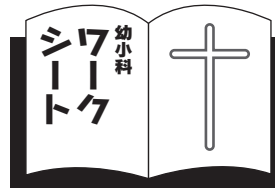
「9.22
(2) 1(1)2 (4) 12(1) (2) 2(1)2(4) : 樹王※

活動③

「ゲームで暗唱聖句をおぼえよう！」

楽しいゲームをしながら暗唱聖句を覚えましょう。繰り返してやっているうちに、自然と聖句を覚えちゃうかも！？

- ①みんなで円になります。
- ②じゃんけんなどで始めの人を決めます。
- ③始めの人から 1 人ずつ暗唱聖句の言葉を●文字以内で言っていき、言い終わったら「はい」と言って次の人に回します。(●=聖句の文字数 37 ÷ プレイヤー)
- ④時計回りに回して行き、最後の文字「い」を言った人が負けです。最後の一文字を言うことにならないように、頭を使ってやってみましょう。始めは見えるところに聖句を貼っておいて、覚えてきたら見ないでやってみます。



①

いかにみかん おにくとアイスも おいしいな。

さばにカレー!? それって おいしいの??

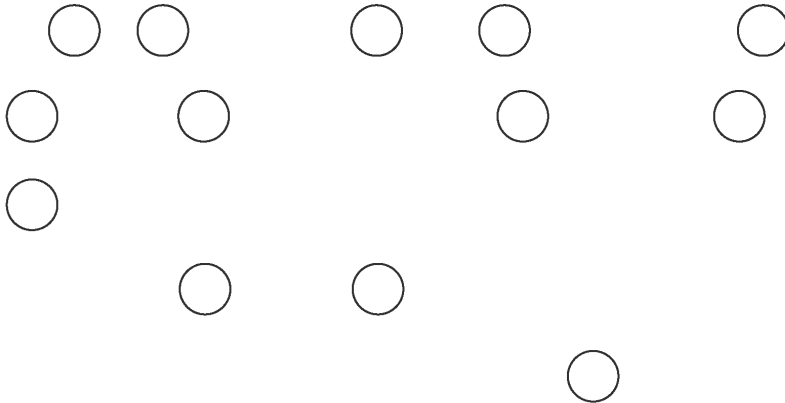
ルーはふつう?

ちょっとこわいけど

いちどなら たべてみたいかも。



②



①と②を重ねて光に照らして、うかびあがる言葉は?





神の武具を身に着けなさい

聖書 エフェソの信徒への手紙6章10～20節

暗唱 聖句 主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。
エフェソ6：10

19課

8月7日

仕えつつ、時に抗う

5：21には「キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい」との勧めが語られ、「妻と夫」「子と親」「奴隷と主人」という関係において、互いにキリストに対する思いをもって敬い、仕えあっていくように勧められています。それに続く形で今日の箇所では「対抗して立つ」ということが語られています。5：21～6：9の例のように、私たちはそれぞれに、社会生活の中で、様々な人との関係の中で生かされています。信仰者として、それらの関係を大切にし、相手に対して誠実に向き合い、何より仕え合う姿勢を大切にしていきたいと思えます。しかしながら、同時に目を覚ましつつ、事柄をきちんと見抜いていく姿勢も必要なのだと思います。時に抗うべきものに対しては、屈することなく戦っていかねばならないこともあると思うのです。

私たちを捕らえ、支配しようとする勢力

そして、その戦いというのは、6：12にあるように、「血肉によるものではなく」、目には見えませんが、私たちを捕らえ、支配しようとする様々なこの世の勢力に対する戦いです。エフェソ2：2～3には、この世界の人々が悪の諸霊に捕らえられ、支配されている様子が記されています。しかも、エフェソ教会の人々自身が、かつてその支配下にあり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の

怒りを受けるべき者たちでした。それにも関わらず、恵みにより、信仰によって、救われたのです（エフェソ2：8）。そのようにして、今や、キリストに出会い、贖^{あがな}われた者として、その支配に対し、抗い、立つべきところに立つことができるのです。

光の武具

この霊的戦いを戦うために、「神の武具」を身につけなければなりません。その武具とは、「真理の帯」「正義の胸当て」「平和の福音を告げる履物」「信仰の盾」「救いの兜」「み言葉の剣」です。これらの武具は、かつて旧約の預言者たちが語ったメッセージと通じます（イザヤ11：5、イザヤ52：7、ナホム2：1、詩編28：7、箴言26：18、イザヤ59：17、イザヤ49：2等）。旧約の預言者たちの時代から、多くの信仰者たちが、これらの武具を身に着けながら、この世の諸力に立ち向かい、時代に抗い、信仰を貫き、真実の言葉を語り続けてきたのだということを知られます。

キリストが勝利しておられる

改めて、今日の箇所を読みながら、信仰の歩みには戦いがあることを知らされます。それは、私たち自身の内なる戦いかも知れませんが、私たちを取り囲む勢力に対しての外なる戦いかも知れません。私たちの周りには、私たちを惑わそうとする「悪魔の策略」（6：11）があり、それらに抵抗しつつ、立つべ

きところに立っていかなければならないのです。しかし、その一方で、私たちがこの戦いに勝利しなければならぬわけではないのだということも覚えていたいと思います。勝利をされるのはキリストです。そのキリストはすでに勝利をし、私たちに「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」(ヨハネ16:33)と宣言してくださっているのです。私たちはこの決定的な事実を目を注いでいきたいと思えます。たとえ、目の前の戦況が不利に思え、この世界の諸力が我が物顔で振舞っていても、キリストこそがすべてのものの頭です。真理はいつの日か必ず明らかにされます。その決定的な神の歴史を見失わないでいたいと思うのです。この歴史を捻じ曲げ、真実を惑わそうとする勢力があります。私たち

準備のための聖書日課		
1日	㊦	闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着ける ローマ13:12
2日	㊦	正義を腰の帯とする イザヤ11:4~5
3日	㊦	いかに美しいことか、 良い知らせを伝える者の足は イザヤ52:7
4日	㊦	主は盾となってくださる 詩編18:31
5日	㊦	分別を失った者が 矢を射ようとも 箴言 26:18~19
6日	㊦	救いを兜としてかぶり イザヤ59:17

は、それらの勢力に惑わされず、真理の言葉に注意深く、耳を傾けながら希望をもって歩むのです。



成人科

- 「支配と権威、暗闇の世界の支配者」(6:12)との言葉が心に迫ってきます。

当時は圧倒的な力を持つローマ帝国のもと、「パクスロマーナ(ローマによる平和)」と唱えられていました。しかしその内実は、公平や正義に基づく平和ではなく、圧倒的な武力による力の支配による統治でした。背後には暴力と圧政に苦しむ人々がおり、4:17~5:12で語られているような「暗闇の世界」が広がっていたのだと思います。人々は愚かな考えに従って歩み、知性が暗くなり、無知とかたくなさに縛られ(4:17~18)、偽りが横行し(4:25)、無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりに溢れ(4:31)、何

も実を結ばないような業に心奪われていました(5:11)。そのような世界にあって、信仰をもって真理をさし示すことはまさに戦いでした。このことは私たちにも問いかけられているのではないのでしょうか。

- 現在も私たちを取り囲む様々な諸力があるのではないのでしょうか。神学者のE・トゥルナイゼンは、70年以上前の書物で「現代の悪霊」として「原子力」と「金(富)」を挙げています。これらの力は今日ますますこの世界の諸力として私たちを支配しようとしているのではないかと思います。その他にも私たちの周りには「神ならぬものを神としていく」偶像や悪霊が溢れているのではないのでしょうか。

神の武具を身に着けなさい

聖書 エフェソの信徒への手紙6章10～20節

暗唱 聖句 主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。
エフェソ6：10

19課

8月7日

エフェソでは、イエスさまを信じる人たちは迫害され、危険な目にあっていました。教会に通っているある青年は、こういった迫害をする人たちと戦うために、武器を手に入れなければならないと真剣に考えていました。自分たちが安全にいられるよう、剣や盾などを買うためにお金をためていました。

パウロはこの青年を見て思いました。確かに、世の中の人たちの迫害に対して、何もしていないことはできません。何らかの戦いをして、イエスさまの福音を広めていかなければならないのです。自分たちが生き残っていくことは、神さまのみ心にかなっていることなのです。でも、武器や暴力で戦うことは、神さまが喜ばれることではありません。血を流して戦うことは、イエスさまの教えに反することです。

パウロは青年のことを心に留めながら、手紙にこう書きました。「主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい」。そして、こうも言いました。「神の武具を身に付けなさい」。えっ？ 神さまの武具ってどんな武具？ いろいろありますよ。「立って真理を帯として腰につけ」神さまの尊い真理のみ心を腰に帯としてつけます。「正義を胸当てとして着け」。イエスさまから教わった正義を胸当てとして身に着けます。「平和の福音を告げる準備を履物としなさい」。平和を告げる者の足は強い履物で覆われているのです。「信仰を盾として



取りなさい」。悪い者の放つ矢の火を消してくれるのは、希望をもって神さまを信じる信仰です。そして、「救いを兜としてかぶり」。イエスさまの救いはすべての悪い者から守ってくれます。そして最後に「霊の剣」。これは神さまの大切なみ言葉です。イエスさまはこの神さまのみ言葉で死から勝利されました。

迫害をしてくる者たちと戦うためには、血を流すような武器ではなく、神さまの武具によって、心静かに、しかし燃えるように戦わなければなりません。誰か困っている人、辛い思いをしている人を見捨てたり、無視したりしないで、一緒に生きていく勇気を持つのです。「霊」に助けられて祈ることも大事です。すべてのイエスさまを信じる人たちを覚えて、根気強く祈るのです。もちろん、パウロは、パウロ自身のためにも祈ってほしいとお願いをしているのです。パウロが語るべきことを大胆に語るができるように祈ってほしいと、パウロは手紙に書きました。

神の武具を身に着けなさい

青少年科



聖書

エフェソの信徒への手紙6章10～20節

暗唱
聖句

主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。
エフェソ6：10

聖書から…

「強くなれ」「戦え」、何だか聖書にこういう事が書いてあると、一瞬ビクッとしてしまいます。まあまあ、そこで心のシャッターを下ろさず、この手紙が言わんとしていることを探してみませんか。

この世の競争を勝ち抜き、異なる意見や立場の人を論破して踏みつけ、絶対的な強者として君臨する、もちろんここでそのような生き方が勧められているのではない事はお察しでしょう。一方、「愛」「平和」「和解」のメッセージを語りながら聖書は「戦う」「抗う」事の必要性を決して引っ込めないのです。

真実をねじ曲げ、関係を分断し、神さまを押しつけてこの世を支配しようとする様々な「力」、「見ないふりしようじゃないか、波風立たせるなんて面倒だよ」、そうささやく「声」、それらがイエスさまを主と信じ従う者の「戦う」「抗う」べき相手ではないでしょうか。恐るべき相手ではありますが、それらのものに既に勝利されているイエスさまが、聖書の言葉が、私たちに「戦い方」「抗う勇気」を示してくれます。

分かち合おう

- 「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです」(6：12)とあります。聖書からメッセージを聴き取ろうとしている私たちが戦い、抗うべき「相手」にしなければならぬものとして、具体的にどのようなものが心に浮かんできますか？ 普遍的なものから、この時代に生きているからこそ見えてくるもの、「それに支配されている」事に気付くのが難しいもの、自由に挙げてみましょう。他の人の言葉からも、新たな気づきが与えられるかも知れませんね。
- この「戦い」に際し、私たちには様々なアイテム（真理、正義、平和の福音を告げる準備、信仰、救い、神の言葉）が与えられていると聖書は言います。また、互いに祈り合う事で得られるパワーも多分にあるようです。ちょっと、一般的な「戦い」とはアプローチが違う感じがしませんか？ どのような「戦い方」を、私たちはこの箇所から見出すことができるでしょうか？ また、具体的にこのようなアイテムに守り支えられて「戦い」に臨んでいる／臨んだ人たちの事を、ニュースなどで見聞きした経験があるかも知れません。あらかじめリーダーの方がいくつか事例を調べて紹介してくださいのも良いでしょう。

19課

8月7日

神の武具を身に着けなさい

聖書

エフェソの信徒への手紙6章10～20節

暗唱
聖句

主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。
エフェソ6：10

聖書から…

迫害の只中であつたエフェソ教会の人たちへ、パウロは神さまに依り頼み、神さまの武具を身に着けてしっかりと立つようにと書き送りました。迫害されて辛い思いをしていたエフェソ教会の人たちは、自分たちの力で何とかしなければならないという思いが強くなっていたのかもしれない。

私たちも、自分のことを傷つけられたり、大事なもの・ことを悪く言われたりすると心細くなります。時にはイライラして強い言葉や強い力で仕返ししたくなることもあるでしょう。でも、そんな私たちに今日のみことばは、自分の力で対抗するのではなく、神さまに依り頼むこと、神さまの力によってしっかりと立つことを教えてくれます。神さまが共にいてくださると知ると、安心しますね。

活動①

「神さまに依り頼んで立つ」

私たちは、自分や自分の大事なものを傷つけられると心が不安になり、グラグラします。そんな時、1人じゃなかったら、助けがあったら、お祈りしてくれる人がいたらどうでしょう。神さまの助けと支えを感じながら活動してみましよう。

- ①小さな丸の中に1人が片足立ちやつま先立ちなど、不安定な状態で立ち、丸の外に出ないように立ち続けます。
- ②周りで1～2名がうちわであおぐなど、立っている人の邪魔をします。

③これを、いろんな状況で試してみましよう。それぞれ、どのくらい立っていられるかな？ 気持ちはどう違うかな？

- 一人だけで立つ。
- 「がんばって！」など声をかけてもらう。
- 杖を使ってみる。
- 誰かが近くに来て支えてくれる。など

活動②

ワークシート

「神の武具を心に」

神さまは私たちが困難にあつたときに、自分を守ることができるように「神の武具」を与えてくださっています。カードを使ったゲームを通して、私たちを支え、励ましてくれる神の武具を心に留めましよう。

●準備●ワークシート4枚分で作った神の武具カード (= 24枚)

●遊び方●【A】絵合わせとして

【B】6つがそろったら

- ①24枚のカードを山にして、真ん中に伏せます。
- ②順番に山札から1枚ずつカードをめくって、山札の周りに置いていきます。
- ③同じカードが出た時は前に出たカードの上に重ねます。
- ④どんどんめくっていき、6種類のカードがすべて出そろった瞬間に「神の武具！」と声をあげましよう。
- ⑤一番早く「神の武具！」といった人が勝ちです。



〜〇〜〇〜〇〜〇〜〇

しんり
のおび

〜〇〜〇〜〇〜〇〜〇

■〇■〇■〇■〇■

せいぎ
のむねあて

■〇■〇■〇■〇■

〇〇〇〇〇〇〇〇

へいわの
ふくいん
をつげる
じゅんびの
はきもの

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇▽〇△〇▽〇△〇

しんりう
のたて

〇▽〇△〇▽〇△〇

●〇●〇●〇●〇

すくい
のかぶと

〇●〇●〇●〇●

∨∨∨∨∨∨∨∨

せりぎ
のつるぎ

∨∨∨∨∨∨∨∨

本当の価値のある生き方、 幸いな生き方

イエスさまが福音宣教をされていた時代、生き方に迷っていた人々がたくさんいたのではないかと思います。毎日をどのように生きればいいのか、何が本当に価値ある人生なのか、何が幸いに至る人生なのか、多くの人が分からずに悩み、迷っていたのではないのでしょうか。この時代、世界をローマ帝国が支配し、イスラエルの国はその属国となっていました。人々は抑圧され、苦しめられていたのです。中でも、イエスさまがおられたガリラヤ地方は、イスラエルの片田舎で、貧しい人たちが多く住んでいました。彼らは苦しい毎日の中で、様々な形で生き難さを感じながら生活していたのだと思います。日々の重荷に疲れ果て、傷つき、心萎えてしまうようなこともあったのだと思います。そんな人々の姿をご覧になりながら、人々の思いを受け止め、イエスさまは「心の貧しい人々は、幸いである」（マタイ5：3）と語り始めながら、本当の価値のある生き方、幸いな生き方を指し示してくださったのです。

「平和を実現する」ということ

本日の箇所で、イエスさまは、「平和を実現する人々」と言われました。平和というのは、当たり前のように、そこにあるものではなく、作り出していかなければならないものなのだということを知らされます。また、その平和が保ち続けられるよう、守っていか

なければならないのです。ヘブライ語で「平和」を意味する「シャローム」は、「戦争」の対立概念としての「平和」という意味だけではなく、「平安」「繁栄」「健康」「和解」など様々な意味が含まれています。これらの状況が世界全体の中で、私たちの身近な歩みの中でなされていくこと、それが平和を実現するということです。私たちがこの平和の実現のためにできることは何でしょうか。

約束を伴う祝福

イエスさまが山上の説教で語っておられる「幸い」は、一見すると、とても幸いとは思えないようなことがあります。「心の貧しい人々」（5：3）や「悲しむ人」（5：4）などはまさにそうなのではないでしょうか。そして、それというのは「平和を実現する人々」についても言えるかも知れません。平和が実現することは、本来、誰もが望んでいることだと思いますし、それが良いことだと思っているのだとも思います。しかしながら、いざ私たちが平和を実現しようと取り組んでいく時、色々な現実に向き合わされていくことがあります。平和を実現しようとしても、それが中々成されない現実を突き付けられるかも知れません。その中で自分たちがしていることが無駄なことや無意味なことのようにも思えることもあるかも知れないと思うのです。実際、私たちが今の世界を見渡す時に、世界がますます混迷し、平和から遠ざかっているように思えてしまうことがあります。しかしながら、2000年前もまさにそのように混迷を

極めた世界の中で、イエスさまは「まことの平和」をさし示し、「平和を実現する者は幸いなんだ」と宣言されたのだということを感じていたいと思います。このイエスさまの言葉は、約束を伴う祝福です。今の現実だけを見ていたら、とても幸いには思えないようなこともあります。しかし、主はその只中を私たちと共に歩んでくださり、私たちと共に悩んだり、痛んだりしてくださりながら、その都度、み言葉を通して「あなたがしていることは無駄ではないし、意味のあることだ」と教え励ましてくださっているのです。そして、その主ご自身がやがて、本当の平和を実現して下さることを信じて信頼しつつ、平和の実現のために仕える者へとされていけたらと思います。

準備のための聖書日課

8日	㊦	平和を口にするだけでなく	詩編28:3
9日	㊧	平和な人には未来がある	詩編37:37
10日	㊨	平和を勧める人の心には喜びがある	箴言12:20
11日	㊩	平和の君	イザヤ9:5~6
12日	㊪	十字架の血潮によって	コロサイ1:20
13日	㊫	平和を実現する人たちによって義の実は蒔かれる	ヤコブ3:18



●「平和を実現する」とは具体的にどういうことか、それぞれ思うことを話しあってみましょう。

- 日本バプテスト連盟平和宣言推進プロジェクト発行の『平和のつくりかた』という冊子があります。そこには平和をつくりだすポイントとして、12の項目が挙げられています。それは「(1)対話する」、「(2)生きかたを選べる」、「(3)みんなで分かち合う」、「(4)みんなで助け合う」、「(5)歴史に向き合い、学び、出会う」、「(6)『いやだ!』

といおう」、「(7)子どもや弱者・少数者を大切にする」、「(8)どの神さまを信じて、信じなくても自由」、「(9)人間の命を第一にする」、「(10)戦争に向かう動きに気づく」、「(11)希望をさがす」、「(12)今、できることをする」です。私たちが平和を実現するというを具体的に考えるにあたって、一つひとつが大切なポイントです。同時に、日々の歩みの中で、つい見失われてしまう事柄かも知れないと思います。改めて、私たちの足もとから始められる「平和」の業があるのではないのでしょうか。

平和を実現する人々

聖書

マタイによる福音書5章9節

暗唱
聖句

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。
マタイ5：9

20
課

8月
14日

今日、イエスさまのお話を聞きに家族で山の上まで行ったんだ。たくさんのお話を聞いて、全部は覚えていないけれど、一つとても心に残った言葉があったんだ。「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」。神さまの子と呼ばれたら、ぼくうれしいなあ。でも、平和を実現するってどうしたらいいのかな。

今のイスラエルは、ローマ帝国が強く支配しているため、何とか平和を保っているんだ。でも、ぼくたちは貧しくて、とても不自由な平和を強いられているんだ。これが本当の平和だなんて思えないよ。昔の預言者たちは、メシヤがこの世界に来て、ぼくたちを救ってくれると言っていたけど、メシヤが来たらしいなあ。そうだ、今日、お話を聞いたイエスさまがメシヤだったらいいのになあ。

でも、逆にひっくり返すと、ローマ帝国のように。早い馬や武器を使って人を黙らせるやり方は本当の平和を実現することにはならないよね。いろいろな人が幸せになる生き方が、平和の実現だと思うんだ。

ぼくたちイスラエルの言葉で「シャローム」という言葉があるんだ。これは平和という意味があるんだけど、他にも「平安であること」「繁栄していること」「健康であること」「和解をすること」それに、「屋根のあるおうちにいること」なんかもシャロームなんだって。みんながシャロームの中に生きていくことができることが平和な



んだと思う。それを実現するためには、武力ではだめなんだよ。持っているものを分かち合って、一緒に仲良く暮らしていくことが平和なんだって、イエスさまが教えてくれたんだ。

世界が平和になることは、誰もが望んでいることだと思うよ。でも、現実はそのほかの偽物の平和が地上を覆っているんだ。イエスさまは「本当の平和」を実現する人たちが、神さまの子だと呼ばれると言っていたんだ。なかなか本当の平和を実現するのは難しいことだけれど、あきらめなくて、イエスさまの教えを聞いて、小さな力でもそれを実現していくことができれば、平和は必ず来ると思う。そのために辛い思いをすることがあっても、イエスさまは共にいて、一緒に悩み、苦しんでくださるから大丈夫。ぼくたちは一人ぼっちではないんだよ。イエスさまと一緒に平和をつくりあげていきたいな。

平和を実現する人々

青少年科



聖書

マタイによる福音書5章9節

暗唱
聖句

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。
マタイ5：9

聖書から…

福音書の記事に、イエスさまが「青少年」時代の話がほぼほぼない（例外：ルカ2：41～）事を、いつも「面白いな～」と感じます。福音書の各記者さんたちも、イエスさまが若い頃の「ネタ」を探したのではないのでしょうか？ しかし、特別に書くべきエピソードが何も見つけられなかった。それはイエスさまが私たちフツウの人間と同じく、泣いて笑って傷つきながら「青少年」時代を過ごされた事を意味しているような気がしてなりません。

若き日のイエスさまも、当時の人々が経験した貧しさや政治的な抑圧、あるいはプライベートな人間関係の軋轢、それらの痛み悲しみを心に刻まれたはずです。そのイエスさまが、神さまのくださるまことの「幸い」が存在する事を告げ、「平和を実現する」一步を踏み出す人生へと、その言葉を聴く者たちを招かれました。これは単なる「上から目線のお説教」ではない！ 当時このお話を聴いていた人たちは、戸惑いながらも不思議に暖かな光を心に宿したのではないのでしょうか。

分かち合おう

- 「新型コロナの陽性者にならないためには、PCR検査を受けない事。ハラスメントの加害者にならないためには、他人と関わりを持たない事」、若干の皮肉を込めてこのように書かれたものを読んだことがあります。内心ちょっと「分かる分かる…」と思いつつも、イエスさまの願われた「平和を実現」する世界やお互いの関係性とは相当かけ離れている発想だよなあ、とも感じます。お互いの間に壁を作って自分の安全を確保する事が、「平和の実現」なんだろうか？ 皆さんにとって「平和な状態」「平和ではない状態」とはどのようなものでしょうか？
- 「平和を実現する」というと、何となく「歴史上の偉人たちが成し遂げた功績のように感じてしまい、「自分自身が実現するもの」とは縁遠い事柄に思えてこないでしょうか？ もちろんそれらの働きも素晴らしいものとして憶えられていくべきでしょう。同時に、日常の小さな出来事ややり取りの中で、小さな平和の花がポツと咲くような場面に、皆さんは意外にも出会っているのではないのでしょうか。反対に、日常の何気ない場面の中で小さな平和の花が摘み取られ、踏みにじられていく現実にも出会っていることでしょうか。身近なところから、そのような経験について分かち合ってみましょう。

20
課

8
月
14
日

平和を実現する人々

聖書 マタイによる福音書5章9節

暗唱 聖句 平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。
マタイ 5:9

聖書から…

イエスさまは「平和を実現する人々は、幸いである」（新共同訳）／「平和をつくり出す人たちは、さいわいである」（口語訳）と語られました。でも、平和を作るってどうしたらいいのでしょうか？ 一人で考えるのは難しいけど、みんなで考えたらいろんな方法を知ることができるかもしれません。平和ってどんな景色でしょうか？ どうやったらつくり出すことができるのでしょうか？ 私にできることはなんなのでしょう？ 難しく感じたり、思いついても自分にできるか不安になったりするかもしれないけれども大丈夫！ イエスさまと一緒に悩み、支えてくれます。さあ、みんなで一緒に平和のことを考えてみましょう。

活動①

「平和についての賛美歌を歌ってみよう」

♪『こどもさんびか 改訂版』日本キリスト教団出版局 34番「みんなでへいわを」。

自分たちの知らない国の人たちとの平和に思いをよせて歌ってみましょう

♪ これも 賛美歌 ネットワーク 『KORE3NET』（ネット検索できます）の「仲良くならなくていい」。みんなと仲良くできたらいいけど、どうしても仲良くできない人もいますよね。そんなときどう考えたらいいのでしょうか？

次の URL から楽譜のダウンロード、サンプル音源の視聴もできます。

<http://kore3net.com/index.html>

そのほかにも、いろんな賛美歌を通して平和のイメージを膨らませてみましょう。

活動②

ワークシート

「わたしたちの「平和のつくりかた」

みんなでオリジナルの「平和のつくりかた」を作ってみましょう。一人ひとりが思う「平和のつくりかた」を集めてもいいし、みんなで話し合う中で決めていくのもいいでしょう。

日本バプテスト連盟平和宣言推進プロジェクトの発行している『平和のつくりかた』を参考にするのもいいですね。

●ヒント●

★シャロームには「平和」以外に様々な意味があると今日のお話で学びました。「わたしにとってのシャロームって？」と考えてみましょう。

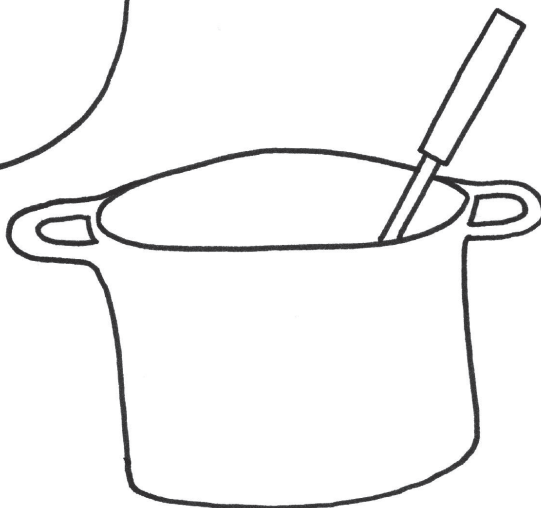
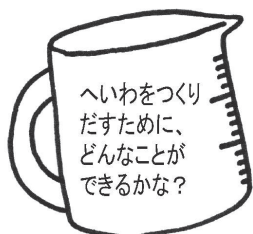
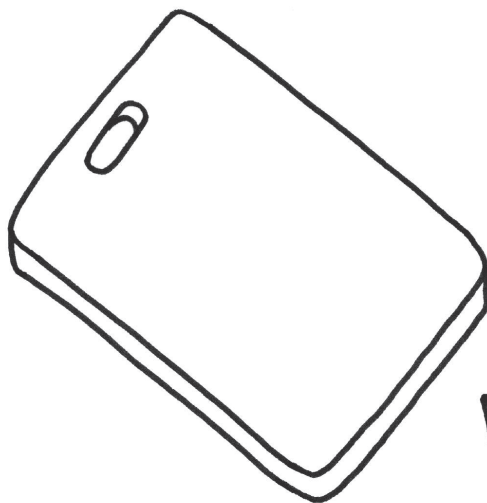
★『平和のつくりかた』の12の項目を自分たちがわかりやすい言葉や話し言葉にしてみましょう（例：1 対話する→「ねえ聞いて。ねえ教えて。」、2 生きかたが選べる→「何にだってなれるよ」）。

★ととのった言葉でなくても大丈夫。自分の力だけでなく、「みんな」で作っていくことが大事ですね。

※ワークシートは拡大して、みんなの意見をまとめるのに使ったり、切り離してメンバーそれぞれの考えを書いてもらったり、自由に使ってください。



「平和のつくりかた」



それでも神さまに

聖書 ダニエル書1章1～21節

暗唱 聖句 神の御計らいによって、侍従長はダニエルに好意を示し、親切にした。
ダニエル1：9

21課

8月21日

それでも神さまに

本日の箇所は、ダニエル書冒頭の箇所です。そこにはまず、バビロンの王ネブカドネツアルがエルサレムを攻め落とし、人々をバビロンの地に連れて行った様子が記されています。自分たちの国を滅ぼされ、すべてを失い、捕囚の地に連れていかれた人々の思いはどんなものだったのでしょうか。本当だったら、それまで信じてきたものが何もかも信じられなくなってしまうような状況だったかも知れません。しかしながら、ダニエルたちは、そのような状況の中で、それでも神さまに信頼し、信仰に生きようとしていったのです。

バビロンの世界

ネブカドネツアルは「イスラエル人の王族と貴族の中から、体に難点がなく、容姿が美しく、何事にも才能と知恵があり、知識と理解力に富み、宮廷に仕える能力のある少年」(1：3～4)を選び、優遇しました。この少年たちは王の食卓に連なることができる特権を与えられました。この特権は多くの者たちにとって願ってもないことであり、憧れでもあったのだと思います。ですが、そのように有望な若者たちが選ばれ、特別扱いされていた背後では欠点や欠陥のある者たちがふるい落とされていったのだと思います。その様子というのは、現代の私たちの世界にも通じるところがあるのではないのでしょうか。

今、置かれている状況の中で

そのような世界で、ダニエルは「宮廷の肉類と酒で自分を汚すまいと決心し」(1：8)しました。ダニエルがこだわり、大切にしようとしていたものは何だったのでしょうか。単に飲み食いのことだけだったのだろうかと思います。今日の私たちは、本日の箇所のダニエルのように、これら飲食に関する規定に縛られることはありません。しかしながら、今の時代を、信仰をもって生きようとする時、そうしようとするがゆえに、どうしてもゆずれないものが生じることもあるのではないかと思います。いずれにしても、捕虜として、本来したいと思うような形で神さまを見上げて、礼拝したり、交わったりすることができない中、それでもダニエルは、今、置かれている状況の中で、精一杯、具体的な形で、律法の戒めに忠実であろうとしました。私たちもコロナの状況の中、思うように神さまを見上げられず、不自由な思いにさせられてきました。そのように、思うように神さまを見上げることができない状況に置かれることがあります。それでも私たちが今、置かれている状況の中で、精一杯、具体的な形で、み言葉に応えることができたらと思います。

人を生かし、育むものは

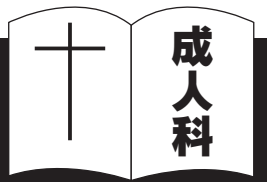
ダニエルの選び取りは、最初、侍従長アシュペナズに理解されませんでした。しかし実際に試したところ、彼らの顔色と健康が宮廷の食べ物を受けているどの少年よりも良いこ

とが分かりました。また彼らの知恵と理解力は国中のどの占い師、祈祷師よりも十倍も優れていたのです。当時の考え方からすれば、宮廷の肉類と酒を飲み食いすることこそが、人々の顔色を良くし、健康を保つことだと考えられていたのだと思います。また、カルデア人の言葉と文書を学ぶことは最高の知識や知恵を学ぶことだと考えられていたのだと思うのです。しかしダニエルはその食事を取らず、質素な野菜を食べるだけでも十分、満足できましたし、健康でした。また知恵は他の者たちより十倍も優れていました。人を本当の意味で豊かに生かし、本当の知恵をもたらすのは、この世の食卓でも、この世の知恵でもなく、神に信頼し、そのみ言葉に従うことなのです。

イエスはお答えになった。「『人はパンだけ

準備のための聖書日課			
15日	㊦	ヨヤキムの治世に	歴代誌下 36:5~8
16日	㊧	バビロンの流れの ほとりに座り	詩編137:1~9
17日	㊨	容姿ばかりに 目を向ける世界の中で	サムエル記上 16:7
18日	㊩	御名を知る人は あなたに依り頼む	詩編9:11
19日	㊪	神の御計らいによって 導かれる	詩編73:24
20日	㊫	人はパンだけで 生きるものではない	マタイ4:4

で生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』／と書いてある」(マタイ4:4)



成人科

●ダニエルは、「宮廷の肉類と酒で自分を汚すまい」(1:8)と決心し、野菜だけ

を食べることにしました。この記述を読む時に、セレウコス朝のユダヤ人迫害者として悪名高いアンティオコス四世エピファネス(在位、前175~163)の時代の様子が、心に迫ってきます。旧約聖書続編のマカバイ記1章には、アンティオコスによって行なわれたユダヤ人に対する強制的なギリシア化施策の様子が記されています。この時、自分たちの信仰を貫こうと多くのユダヤ人たちが、「食物によって身を汚して聖なる契約に背くよりは、死を選んで死んでいった」(マカバイ記1:63)とあります。まさに彼

らは本日の箇所のだニエルと同じジレンマや格闘の中で信仰を貫いたのです。ダニエルの記述は、人々にとっての大きな励ましや支えとなっていたのではないのでしょうか。

●今日の私たちは、ダニエルのように、これら飲食に関する規定に縛られることはありませんし、ましてやそれが信仰を証しする「踏み絵」のようなものだとも考えていません。ですが、ダニエルが信仰者として大切にした「こだわり」は、私たちにとっても大事なのではないかと思います。信仰者として生きようとしているからこそ、ゆずれないこと、大切にしたいことがあるのだと思います。

それでも神さまに

聖書 ダニエル書1章1～21節

暗唱 聖句 神の御計らいによって、侍従長はダニエルに好意を示し、親切にした。
ダニエル1：9

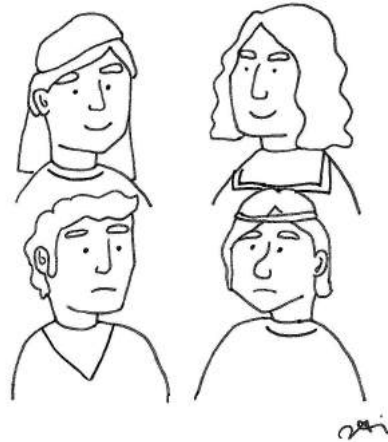
21課

8月21日

ユダの王ヨヤキムが即位してわずか3年で、ユダの首都エルサレムはバビロンの王ネブカドネツアルに攻め込まれ、滅ぼされてしまいました。エルサレムの人々のうちの多くは、捕虜としてバビロンに連れ去られました。

さて、ネブカドネツアルは侍従長に言いました。「エルサレムの王族と貴族の中から、体が丈夫で、見た目が美しく、才能と知恵を与えられていて、賢く理解力をもつ、わたしの宮廷に仕える能力のある少年を探して、連れてきなさい」。侍従長はイスラエル民族の中から、ユダ族出身のダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤという4人の若者たちを連れてきました。侍従長たちは4人の若者の名前を変えて、ダニエルをベルテシャツアル、ハナンヤをシャドラク、ミシャエルをメシャク、アザルヤをアベド・ネゴと呼ぶことにしました。彼らは自分の名前を失いました。

ダニエルは、宮廷で出される肉やお酒で神さまの教えに背くようなことはさせないでほしいと侍従長に願いました。侍従長は王がこわかったので、王が定めた食事を少年たちに食べさせたかったのです。しかし、ダニエルは自分たち4人の世話係に言いました。「どうかわたしたちを十日の間ためてみてください。その間、食べるものは野菜だけ、飲み物は水だけにしてください。そうして、わたしたちの顔色と、宮廷の食事を食べている若者の顔色とを比べて



みてください」。世話係はこの願いを受け入れました。そして十日たってみると、4人の顔色と健康は、宮廷の食べ物を食べている他の若者たちよりも良かったのです。世話係は4人に与えられる食事から、肉と酒を除いて、野菜だけを与えることにしました。

ダニエルたち4人は、遠い異国の地にいてもなお、イスラエルの神さまのみ心に従って生活をするのを忘れませんでした。捕虜になっても、今までの信仰を失わないようにしたのです。この4人の少年は、神さまから知識と才能を恵まれ、いろいろな本や文学についても詳しく、どんな学問もよくわかっていました。特にダニエルはどんな夢も解くことができました。年数がたつと、侍従長は4人を王の前に連れて行きました。王は知恵のある4人に、何か問題があると意見を求めて聞きましたが、彼らはどんな占い師や祈祷師よりも十倍も優れた答えを打出すことができたのです。

それでも神さまに



聖書

ダニエル書1章1～21節

暗唱
聖句

神の御計らいによって、侍従長はダニエルに好意を示し、親切にした。
ダニエル1：9

聖書から…

「少年」と紹介されているダニエルたちが中心の物語ですから、青少年世代の方たちはより身近に感じられる物語でしょうか。一方、「容姿端麗・学業優秀・品行方正な、おまけに鉄の如き堅い信仰を持つ超絶エリートくんたちが、困難をものともせず出世街道をばく進するサクセスストーリー！」のように読んでしまうと、途端に「へえ…」と距離を感じてしまう「ダニエル書」かも知れません。

どんなに賢かったにせよ、ダニエルたちは無力な少年でした。国が滅ぼされ、自分たちの大切にしてきたものが取り上げられ、全く異なる価値観の世界に引きずり込まれて「大人」たちに選別されて生きていくしかなくなった彼らはどれほど不安で辛かったことでしょう。名前を、自由を、言葉を奪われ、絶望したくなる状況の中で、ダニエルたちは「自分たちは神さまに依りすがることができるんだ！」というたった一つの希望を手放しませんでした。神さまがそんな彼らと共に歩いてくださった、その物語をしばらく読んでいきましょう。

分かち合おう

- 「体に難点がなく、容姿が美しく、何事にも才能と知恵があり、知識と理解力に富み、宮廷に仕える能力のある」(1：4) 者が優遇される世界。では、この条件に引っかからない者はどう扱われるのか…、と考えると胸が苦しくなります。現代社会にもこの「バビロンの価値観」が根強く生きているのでしょうか。私たちが生きている状況の中で、この「バビロンの価値観」はどのような形で私たちを支配していると感じることがあるのでしょうか？ 一方、「聖書の価値観」は、それに真っ向から対立するものです。例えば「創世記」やイエスさまの物語から、私たちはどのような「聖書の価値観」を見つけ出すことができるのでしょうか？
- 「バビロンのやり方」という枠にダニエルたちをはめ込もうとした侍従長は、捕虜の立場でありながら自分の言う事に従おうとしないダニエルに対して「ムッ」としなかったのでしょうか。反対に「侍従長はダニエルに好意を示し、親切にした」(1：9)とあります。更に、「王様の言う通りにしないと、怒られちゃうんだよ」とダニエルに泣き言(?)まで言っているではありませんか！ なぜ、侍従長はここまでダニエルに心を開き、職場のルールを曲げてまでダニエルの希望を叶えようとしてくれたのでしょうか。文章の背後にある、ダニエルと侍従長のコミュニケーションの在り方について想像してみましょう。

21課

8月21日

それでも神さまに

聖書 ダニエル書1章1～21節

暗唱 聖句 神の御計らいによって、侍従長はダニエルに好意を示し、親切にした。
ダニエル1：9

聖書から…

イスラエルはバビロンという大国に滅ぼされ、ダニエルたちはバビロン王の命令で自分たちの生まれ育った国から連れ出され、住まいも、着るものも、食べるものも、言葉も、そして名前まで失いました。すべてが変えられ、「自分」がなくなってしまうような状況の中で、ダニエルたちが大切にしたのは神さまへの信仰でした。この信仰によって彼らは異国の地で自分を見失わずに元気に過ごすことができたのです。

活動①

「わたしの大切なもの」

私たちにとって、私が私であるために大切なものは一体なんでしょうか？ そばにある（いる）とほっとするものや人、いると安心する場所などを思い浮かべてみんなで分かち合ってみましょう。

また、もしそれが奪われてしまったらどんな気持ちになるでしょう？ ダニエルたちの気持ちを想像してみましょう。

活動②

「ぶれない軸」

コマは、その軸がぶれずに真ん中に立っていれば、材料や大きさが変わってもきれいに回って立っていることができます。ダニエルたちがさまざまな変化の中で神さまへの信仰という「軸」を持つことで立っていくことができたことを覚えながら、いろんなコマを作ってみましょう。例えば…。

●準備● ペットボトルキャップ2個、ふたと同じ大きさの白い画用紙1枚、竹串1本、のり、キリ（取り扱い注意）、マスキングテープ

- ① ペットボトルキャップと同じ大きさに切った画用紙に好きな絵や模様を描きます。
- ② ①の画用紙をふたに貼り付けます。
- ③ 二つのペットボトルキャップの中心に穴をあけます（大きすぎると竹串が抜けてしまうので注意）。
- ④ 絵のついているキャップが上になるように向い合せにして竹串を刺します。
- ⑤ 2つのペットボトルキャップの合わせ目をマスキングテープで固定してできあがりです。

●その他●

*ダンボールや厚紙を丸く切り抜いたもの、紙皿、折り紙、ペットボトルのキャップ、どんぐり、フェルトをつまようじにぐるぐる巻きつけて作るなど。

*軸にするものは、つまようじ、竹串、割りばしなど。割りばしは鉛筆削りで先を削ると回しやすくなります。

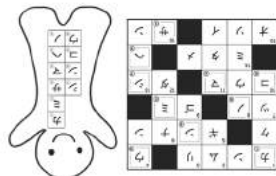
活動③

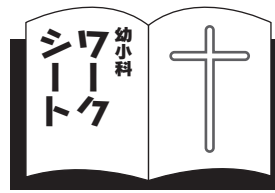
ワークシート

「大事なものは？」

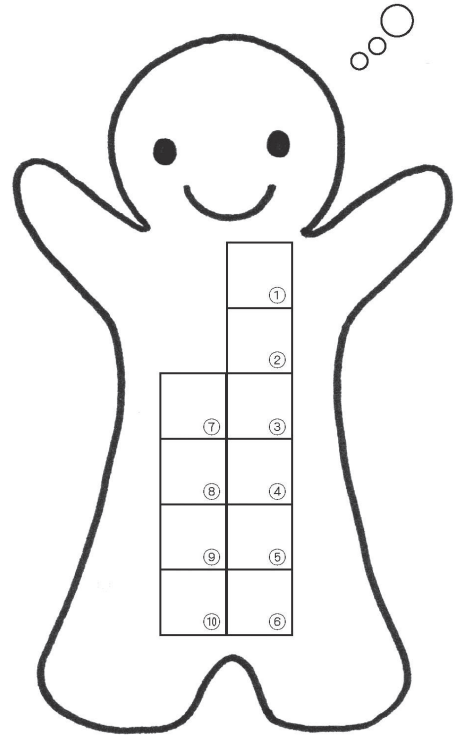
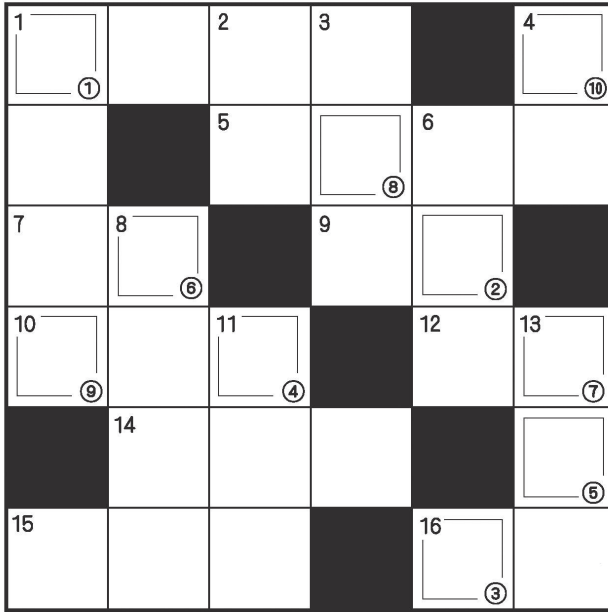
ダニエルたちが色々なものを失っても大事にしたこと、それによって元気になったこととはなんでしょう？ パズルを解いて答えを見つけよう。

ダニエルの羊飼いのこと
： 樹聖 ※





ダニエルたちを
元気にしたのは？



21課

8月21日

<タテのカギ ㊦ >

1. よーいどん！はしれはしれ！！
2. パンなどのざいりょう。コ〇〇コ。
3. あかくて、まるいくだもの。
あおもあるね！
4. 〇〇どうかい。〇〇てん。〇〇めい。
6. かなしいと目からでる。
うれしいときにでることもある。
8. あたまの中には、これがつまっている。
11. しんやくせいしよのいちばんはじめ。
13. きゅうやくせいしよにある150の詩
のあつまり。
ヨブ記→〇〇〇→箴言

<ヨコのカギ ㊦ >

1. 王さまのあたまの上の^{おう}のっているもの。^{うえ}
5. いちょうの^き木になる^み実。くさ〜い！
7. ウシやトナカイの
あたまについているのは…
9. いらないものは、ポイツ！〇〇ばこへ。
10. ウマの子ども。
12. かつおぶしや、こんぶでとる。
「このりょうり、〇〇がきいてるね！」
14. 〇〇〇よりもなかみでしようぶ！
15. 「はやい」のはんたいは？
16. イチ、二、〇〇、シ…

ダニエルは思慮と知恵とをもって

聖書

ダニエル書2章1～24節(参照2:25～45)

暗唱
聖句

神の御名をたたえよ、世々とこしえに。知恵と力は神のもの。
ダニエル 2 : 20

22
課

8月
28日

不安になり、眠れなくなる王

ある時、夢を見たネブカドネツアル王は、不安になり、眠れなくなってしまいました。そこで夢の意味を知るため、バビロニアの占い師、祈祷師、まじない師、賢者を呼び出し、そのことを問いました。しかし、彼らは王の不安を解消してくれませんでした。しびれを切らした王は、ついに我慢することができず、人々を脅かし始め、ついにバビロンの知者を皆殺しにするよう命令します。行き場をなくした思いを抱える時、人々がしばしば向かうのが暴力という手段です。王もそうでした。王は知性で解決がつかなくなる中、暴力で何とかしようとするのです。しかし、そのような手段では何ら解決は得られません。暴力は無力さの裏返しでもあります。

祈るダニエル

現状を聞いたダニエルは「思慮深く賢明に應對し」(2:14)ました。ダニエルは暴力に暴力で対応するのではなく、知恵でもって対応しようとするのです。そして、仲間のハナンヤ、ミシャエル、アザルヤに事情を説明し、神に憐れみを願い、その夢の秘密を求めて祈りました。心に不安や恐れを抱え、自分だけで苦しみ、もがき、助けを必要としながらも、手を差し伸べようとしてくれる周りの者たちに心を開くことができず、周りの者たちから自分の期待した答えが返ってこないと感じ的になって途端に暴力に走るネブカドネツアル王とは対照的に、ダニエルは、目

の前の問題に対し、何より自分だけで抱え込もうとはしませんでした。まず仲間たちに相談をしたのです。そして、自分の限界を認め、思いをそのまま主に打ち明け、祈りました。そして、仲間たちにも祈ってもらったのです。

夢の解き明かし

ダニエルに対し、神からの答えが与えられ、ダニエルは王が見た夢についてそれは将来起こるべきことを神が知らせようとしているのだと解き明かします。頭から金、銀、青銅、鉄、陶土でできた像を見せられる夢というのは、様々な国々を表していました。金がネブカドネツアルを代表する新バビロニア帝国、銀はメディア王国、青銅はペルシア帝国、鉄と陶土は、アレキサンダー大王の樹立したギリシア王国でした。アレキサンダーが亡くなった後、国は分裂し、プトレマイオス王朝とセレウコス王朝となったため「鉄と陶土」という形で現わされています。「鉄が柔らかい陶土と混じり合っているのを御覧になったように」(2:43)と言われるのはプトレマイオス王朝とセレウコス王朝間で行なわれた略略結婚を指していると考えられています。

歴史を掌握し、 支配される神

しかし、ここで大事なことは、金や銀や青銅や鉄や陶土がどこの国を指しているかということより、神が歴史を掌握し、支配されていることでした。ネブカドネツアル王は、ダ

二エルの解き明かしを通し、自分たちがどれだけ世界を征服し、確固たる国を作り上げたとしても、歴史と共にその国は衰え、次の国に移り変わり、最終的には、「人手によらずに切り出された石」(2:45)によって打ち砕かれていくことを知らされたのでした。

歴史を越えて

「この王たちの時代に、天の神は一つの国を興されます。この国は永遠に滅びることなく、その主権は他の民の手に渡ることなく、すべての国を打ち滅ぼし、永遠に続きます」(2:44)。7章では、再び、一連の世界帝国が比喩的表現で取り上げられます。ダニエル書にとって何より大切なメッセージの一つです。今の時代が、金、銀、青銅、鉄、陶土、いか

準備のための聖書日課			
22日	㊦	バビロンの王 ネブカドネツアル	エレミヤ27:6~7
23日	㊦	夢に見て、 ひどく心が騒ぎ	創世記41:1~8
24日	㊦	夢を解き明かすのは 神	創世記41:15~36
25日	㊦	神に知恵を 願い求める	ヤコブ1:5
26日	㊦	主だけがすべての 人の心をご存じです	列王記上8:39
27日	㊦	シオンの隅の石	イザヤ28:16

なる時代であったとしても、そこにひとたび、神の介入があるなら、それらの国は砕かれます。大切なのは、その神を見上げることなのです。



成人科

●王は「どうぞ僕らにその夢をお話してください」と要求された時、その申し出を拒みました。この時、王が夢を話さなかった理由については色々な解釈があります。すでに王は、見た夢の内容を忘れてしまっていたのではないかという解釈や、王がバビロニアの占い師、祈禱師、まじない師、賢者を疑っていたからではないかという解釈です。どうせ、夢を語れば、どこかの占いの本からそれなりの意味を探してきて、答えるだけだろう、そんな説明に意味などあるのか、そのように考えていたというのです。いずれにしても、王は、繰り返し見る夢を発端とし、心に大きな不安や恐れを抱え、その不安を解消してくれる言葉を求めました。しかし、

表面だけ繕われたもっともらしい言葉や、気休めのような言葉など欲していませんでしたし、そのような言葉で解決することはできませんでした。誰にも分かってもらえない思いの中で、王は一層苦しんだのではないのでしょうか。

●バビロンの知者たちが自分の要求に応えることができないと知り、王は、バビロンの知者を皆殺しにするよう命令します。そのような理不尽で暴力的な命令が出される状況の中、ダニエルは「思慮深く賢明に対応し」ます。周りの状況が、理不尽で暴力的になるほど、思慮深く賢明にあらうとすることが大切なのだ知らされます。

ダニエルは思慮と知恵とをもって

聖書

ダニエル書2章1～24節(参照2:25～45)

暗唱
聖句

神の御名をたたえよ、世々とこしえに。知恵と力は神のもの。
ダニエル 2 : 20

22
課

8月
28日

「今の夢の意味はなんだったんだろう」。ネブカドネツアル王は夢を見て不安になり、眠れなくなりました。王は占い師、祈祷師、まじない師、賢者を呼び出して言いました。「この夢の意味を知りたくて心が落ち着かない」。賢者たちは「王さま、どうぞその夢についてお話してください。夢を解いて差し上げましょう」。王は声を荒げて言いました。「いいや、わたしがどんな夢を見たか当ててみるが良い。その上で、この夢にどんな意味があるのか解いてみよ。もし、お前たちがわたしの見た夢を解くことができなかつたら、お前たちの体を八つ裂きにしてやる。もし解くことができれば、ほうびとして贈り物と大いなる名誉を与えよう」。

賢者たちは繰り返し、「その夢の話をお話してください」と王に言いますが、王は自分の見た夢を賢者たちが話してくれないので、「時間稼ぎをしているのか。さあ、夢を話してみろ。そうすれば、解釈できるかもわかるのだ」と、イライラしています。ついに賢者たちは「王さまの求めていることは難しく、これに応じることができるのは神さまだけです」と言いました。王は激しく怒り、バビロンの知者たちを皆殺しにしろという命令を出しました。

侍従長はダニエルの所へ行って、事情を説明しました。ダニエルも命を狙われている知者の一人だったのです。ダニエルは侍従長に「少しお時間をください、夢を解い



てみせます」と伝え、家に帰って友人のハナンヤ、ミシャエル、アザルヤに事情を説明し、その夢の秘密を求めていっしょに神さまに祈りました。すると、その幻の秘密がダニエルに明かされたのです。

侍従長はおそろおそろ王に向かって、「夢を解く一人の男が見つかりました」と言って、ダニエルを王の前に連れて行きました。「王さまの見た夢の意味は、将来起こることです。金や銀、青銅、鉄、陶土でできた像が出てきましたね。それぞれの金属は、王さまの治めるバビロンと、その後に出てくる国々です。金はバビロンのこと、銀はメディア王国、青銅はペルシャ帝国、鉄と陶土はギリシア帝国です。この国は、鉄と陶土がまじりあっているように、強い部分と弱い部分があります。でも、鉄と陶土が溶け合うことがないように、これらの国も一つになることはないでしょう」とダニエルは語りました。これを聞いた王はダニエルを高い位につけ、贈り物を与え、バビロン全州を治めさせました。

ダニエルは思慮と知恵とをもって

青少年科



聖書

ダニエル書2章1～24節(参照2:25～45)

暗唱
聖句

神の御名をたたえよ、世々とこしえに。知恵と力は神のもの。
ダニエル 2 : 20

聖書から…

私たちが寝ている間に「夢」を見ることがありますよね。あり得ないシチュエーションの「夢」、薄気味悪い「夢」…。その「夢」の内容に重大な意味を感じていた時代の人々にとって、意味不明な「夢」を見てしまった日の朝はどれだけ心がザワつくものだったことでしょう。

バビロンの王さまも例外ではなかったようです。でも、せっかく心配して何とか助けになろうと集まってくれた人々がいたのに、王さまは当たり散らすばかりで全く対話が成立しません。一方、ダニエルたちはこのピンチを前に互いに話し合い、祈り合いました。

ダニエルが解き明かした「夢」の中身を知り、王さまはすぐ納得します。あれだけ疑い深かった(2:8～9) 割にはダニエルの解釈を受け入れるのが早くないか? と思ってしまうのですが、神さまから与えられた思慮と知恵によって語られた言葉が、カチコチにこわばっていた王さまの心を不思議にほぐし、まことの神さまを素直に見上げるようにさせたのかも知れません。

分かち合おう

- バビロンの王さまが心ひそかに抱えていた「不安」は分からなくもありません。戦争という「暴力」によって他を押し、地域のナンバーワンにのし上がったものの、いつ転落してしまうか分からないのですから。

先の見えない不安が心の中でブクブクに膨れ上がり、いつしか自分の殻に閉じこもってしまいました。

王さまが頼ったのはやはり「暴力」でした。誰かと「対話」しながら自分の考えを軌道修正していく、そんなプロセスを通ることができなかった王さまでした。そうなるともう建設的な助言をしてくれる人はいなくなってしまい、王さまに忤度し「暴力」に加担する人だけが周りに残っていく…、悪循環ですね。同じような出来事が現代社会のあちこちでも起こっていないでしょうか?

- つくづくダニエルの「対話力」には感心させられます。命の危機が迫る状況においても「思慮深く賢明に対応し」(2:14)、仲間たちと困難を分かち合って祈り合い、何より神さまに心を開き、神さまの導きを信じて求めていくダニエルの姿は、具体的な内容は違えどもやはり先行きの希望を見出しづらい時を生きる私たちを励ますのではないのでしょうか。それにしても、先週の内容と同じように、敵対者だったはずの存在(今日の箇所では侍従長アルヨク)すら、いつの間にか協力関係に引き込んでしまうダニエルよ…! 私たちの周りにも、こんなタイプの人がいるかも知れませんね。神さまと、人と「対話」しながら歩む人として、何がダニエルを育み養ったのだと思いますか?

22課

8月28日

ダニエルは思慮と知恵とをもって

聖書 ダニエル書2章1～24節(参照2:25～45)

暗唱 聖句 神の御名をたたえよ、世々とこしえに。知恵と力は神のもの。
ダニエル 2 : 20

聖書から…

王さまの命令により、命の危機に陥ったダニエル。パニックになって、逃げ出すことを考えてもおかしくありませんでした。しかし、ダニエルは家に帰り仲間に事情を説明して共に神さまに祈りました。そして、この危機を乗り越えることができたのです。私たちにも時々自分の力だけでは解決できないようなことが起きます。そんな時には「神さま助けてください！」とお祈りしましょう。そして、教会の仲間にも「一緒に祈って！」とお願いしましょう。人間の力をはるかに超えた神さまの力がきっと私たちにも働くはずですよ。

活動①

「祈りの手でダニエルをささえよう」

3人の友人がダニエルのために一緒に祈って支えたように、私たちもダニエルを「祈りの手」で支えましょう！

●準備● 困ったダニエルの顔をペンで書いて膨らませた風船 1つ

- ①スタート（ダニエル大ピンチ！）とゴール（王さまの夢を見事に解く）を決めます。
- ②手をお祈りのポーズにした状態で、手や腕を上手に使って“困ったダニエル風船”をゴールまで届けましょう。
- ③お祈りの手をほどいたり、風船を飛ばしたり落としたりしたらやり直しです。
- ④数人で協力して運んだり、距離を長くにとってリレー形式で運んだり、風船を水風船に変えて、外で遊ぶのも楽しいですね！

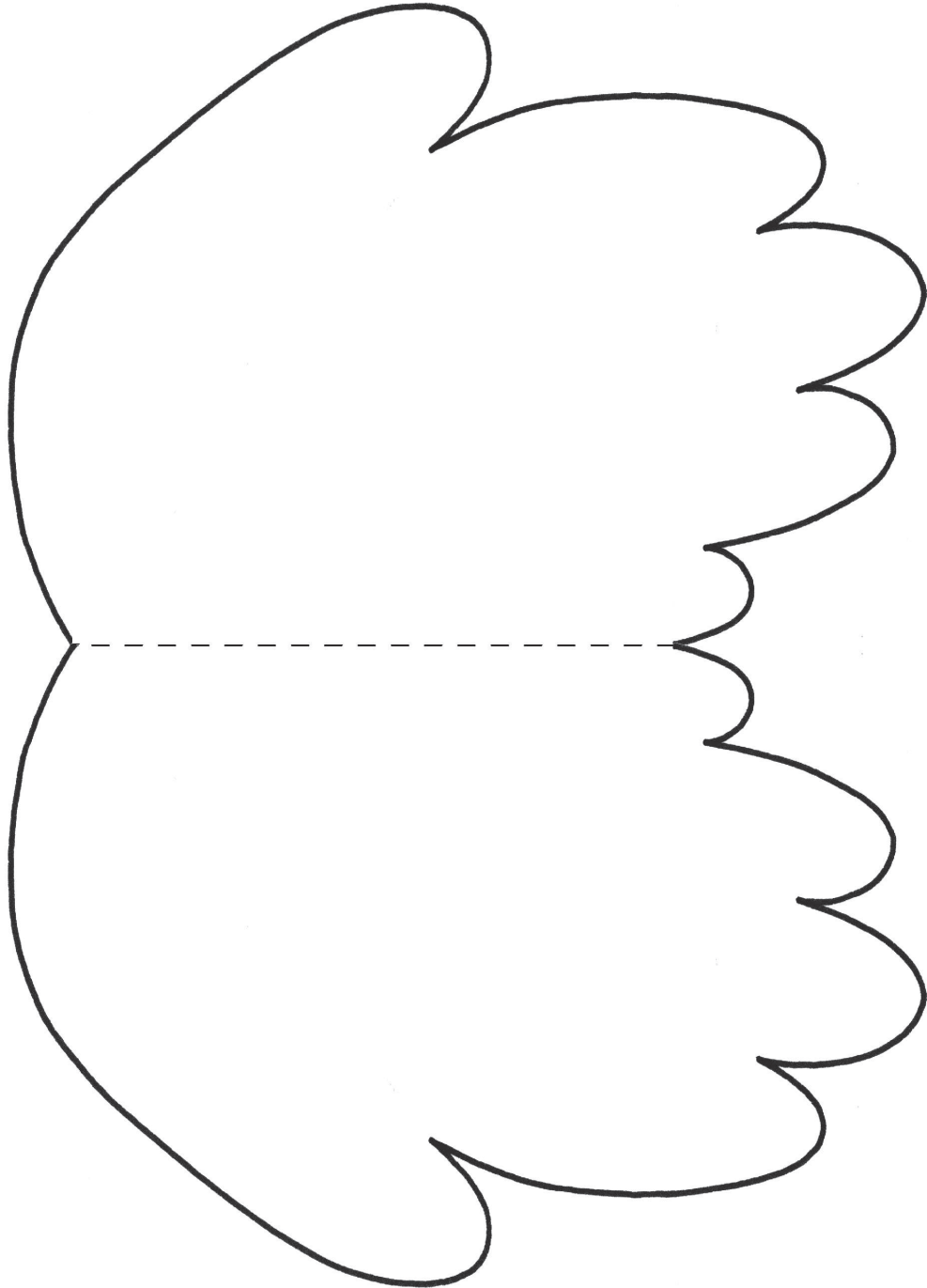
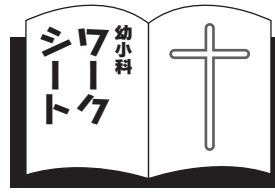
活動②

ワークシート

「わたしのために祈って！」

私たちは悩みごとや、困ったことが起こるとき、ついつい「こんなこと相談するのは恥ずかしい」とか「誰かに迷惑をかけたくない」などと考えてしまうかもしれません。でも、ダニエルは、自分で祈るだけではなく仲間に「一緒に祈って！」と頼りました。これはとても大事なことです。神さまは私たちに共に祈り、支えてくれる信仰の友を与えてくれているのですから。

- ①ワークシート（お祈りカード）をコピーして、全員に配ります。
- ②カード左側に、今自分が困っている事・祈ってほしい事と名前を書いて折りたたみます。
- ③半分に折ってリーダーが回収し、書いたメンバー以外のメンバーにランダムに渡します。
- ④受け取ったメンバーはそれぞれ一人になって、カードに書いてあることについてそのメンバーのことを思ってお祈りします。カードの右側に「お祈りしたよ」などのメッセージと名前を書きます。
- ⑤全員が終わったら、リーダーはもう一度カードをあつめ、元のメンバーへ戻します。
- ⑥お祈りカードはそれぞれ持って帰りましょう。誰かが自分のために祈ってくれるってうれしいですね。



じぶんがおいの
してほいの
じよをかく

おいの
じよをかく



燃え盛る炉の中で

聖書 ダニエル書3章13～30節

暗唱聖句 神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができます
ダニエル3：17

金の像にひれ伏させることで

ネブカドネツアル王は金の像を造り、人々にその像にひれ伏すように命じました。そうすることで、自分への忠誠を試し、自国の安泰と、王国内の結束を強めようと考えていたのだと思います。はたして、そのようなことで本当に人々の忠誠をはかることができたのでしょうか。

王の命令に多くの者たちが屈し、金の像の前にひれ伏していきました。しかし、真の神を信じるシャドラク、メシャク、アベド・ネゴは、金の像を拝むことをしませんでした。そのことをカルデア人たちが告げ口します。カルデア人たちが三人を訴えた動機については定かではありません。三人に対する妬みからでしょうか。王に告げ口することで少しでも王に気に入られたいと思ったのでしょうか。あるいは自分たちはちゃんとひれ伏しているのに、そうしようしない彼らを許せないと思ったのでしょうか。いずれにしても、王の暴力的な政策のもとで、心が荒んでいき、互いに対し、不寛容になっていく人々の様子が見て取れます。

そうでなくとも

ネブカドネツアル王は「今、ひれ伏し、拝むつもりでいるなら、それでよい」と、今からでも金の像を拝むなら許そうと言いました。ただしもし拝まないなら、炉の中に投げ込むと脅しました。しかし、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴはこの王の呼びかけを拒み

ました。そして「わたしたちのお仕えする神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができますし、必ず救ってくださいます」(3：17)と答えたのです。それに加えて、さらに「そうでなくとも」と付け加えました。神さまは、このような危機的状況からも自分たちを救うことができになる方ですが、それは神さまの計画、み心としてなされていくことであり、たとえ助からなかったとしても、神さまの真実は決して変わることがないと告白したのです。

苦難の中にあって

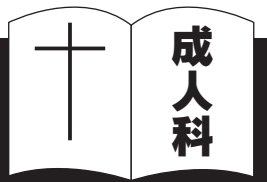
シャドラク、メシャク、アベド・ネゴは燃え盛る炉の中に投げ込まれました。しかし、彼らは炉の中で燃え尽きることがありませんでした。彼らは何の害も受けないまま、炉の中で自由に歩き回りました。その様子をよく見ると、そこには四人の者たちがいて、四人目の者は神の子のような姿をしていたのです。私たちは時に、信仰を持つことで、災いや困難を避けることができると考えたりします。しかし、たとえ信仰があっても、困難に遭うことがありますし、理不尽な思いをさせられたり、世の中の不条理に悩まされることがあるのだと思うのです。けれども、私たちはその困難の只中で慰めを見出し、支えを見出すことができるのです。それは私たちが困難の中にいる時、何より主ご自身が、「四人目の者」として私たちと共にいてくださり、その苦難の中にあって、私たちを励まし、支え、守ってくださるからです。

このような世界を作り出さないように

ネブカドネツアル王の脅しに屈することなく、自分たちの信仰を貫き、真の神を証したシャドラク、メシャク、アベド・ネゴの姿に励まされます。ただ、何より大切なことは「自分たちがシャドラク、メシャク、アベド・ネゴのようになれるだろうか」ということを問うよりも、彼らが置かれたような世界を作り出さないことだと思います。人が「絶対者」として君臨し、私たちの良心の領域さえ支配しようとする世界、そして、私たちが信じているものを踏みにじり、その信じるものに対して誠実に生きようとする私たちに立ちは大

準備のための聖書日課			
29日	㊦	それでも 主は救い出すと言うのか	イザヤ 36:18~20
30日	㊦	その像は 救ってはくれない	イザヤ46:5~7
31日	㊦	あなたはわたしの隠れが	詩編32:7
1日	㊦	わたしを苦しめる者を 前にしても	詩編23:5
2日	㊦	救いを与える 神はほかにはない	イザヤ45:21
3日	㊦	たとえ躓いてしま うことがあっても	ルカ22:31~32

かり、他のものに屈服させ、ひれ伏することを強要させていくような世界を作り出さないことが重要です。



成人科

- 本日の箇所はシャドラク、メシャク、アベド・ネゴの信仰に励まされま

す。しかしながら、私たちも彼らのようにできるかと問われると、軽々には答えられないのだと思います。心に迫ってくるのは、イエス・キリストが十字架につけられた際、鶏が鳴く前に、三度イエスさまのことを知らないと言ったペトロの姿です（ルカ22:54~62）。ペテロはイエスさまに対して、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」（ルカ22:33）と語っていたにも関わらず、いざという時には、そのようにイエスさまを知らないと言ってしまうました。私たちにはペトロと同じ

ような弱さがあるのだと思います。

- ペテロの信仰が確かなものとされていたのは、ペトロ自身の揺るがない意思ではなく、たとえつまずきそうになっても、そんなペトロのために「信仰が無くならないように祈った」（ルカ22:32）イエス・キリストの憐れみのみ手によるものでした。私たちも同様です。私たちが困難の中にいる時、何より主ご自身が、「四人目の者」として、私たちと共にいてくださり、その苦難の中であって、私たちを励まし、支え、守ってくださっております。その主の憐れみのみ手により、私たちは一つところに立つことができるのです。

23課

9月4日

燃え盛る炉の中で

聖書

ダニエル書3章13～30節

暗唱
聖句

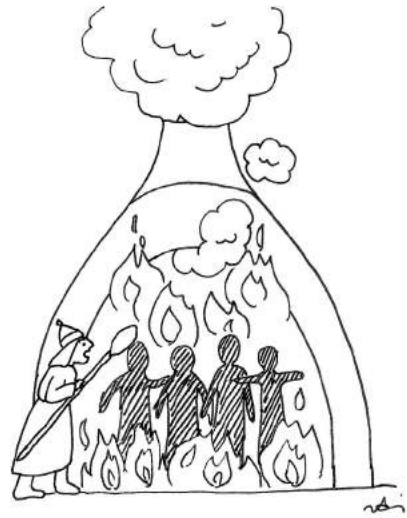
神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができます
ダニエル 3：17

ネブカドネツアル王は町の真ん中に金の像を作り、国中の人々にそれを拝むよう命じました。王はそのことで、国中の人々が自分を尊敬するかどうか試したかったのです。多くの国民は角笛、横笛、六弦琴、豎琴、十三弦琴、風琴などの楽器の美しい音が聞こえてくると、金の像の前にでて、ひれふして拝みました。

けれども、神さまを信じるシャドラク、メシャク、アベド・ネゴは金の像を拝みません。日頃から3人を妬んでいた人々は、ネブカドネツアル王にこのことを告げ口しました。王はかんかんになって怒り、「なんだと！ あの3人は、このわたしの造った金の像を拝まないのか。すぐに行って3人をここへ連れてこい！」と言いました。

3人は王の前に引き出されました。「お前たちは、わたしの造った金の像を拝まないのか。あらゆる楽器の音楽が鳴ったら、像に向かってひれ伏さなければならないと命令したではないか。今からでもわたしの造った像を拝むならば、それでよい。しかし、もし拝まないなら、すぐに燃え盛る炉に投げ込ませよう。お前たちを救い出す神があらうか」。

シャドラク、メシャク、アベド・ネゴは王に答えて言いました。「いいえ、わたしたちは金の像を拝みません。わたしたちの神は、炎の燃え盛る炉や王さまの手からわたしたちを救うことができます。たとえそうでなくても、わたしたちは金の像を拝むことは決してしません」。



王は血相を変えて怒り、炉をいつもの7倍熱くするよう命じて、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴを、服を着たまま縛り上げ、燃えさかる炉の中に投げ込んでしまいました。炉の炎は激しく燃え、3人を炉に連れて行った男たちまで焼き尽くします。

しばらくすると、王は驚いて急に立ち上がり、家来たちに尋ねました。「あの3人は縛ったまま炉に投げ込んだのではなかったか」。家来は「王さま、その通りでございます」と答えます。しかし王は言いました。「さっき炉を見たら、4人の者たちが炉の中を自由に歩き回っておった。そして、やけどもなにもおっていない。しかも、4人目の者は神の子のような姿をしておる」。

ネブカドネツアル王は炉の口に近づいて言いました。「自分たちが本当に信じる神にのみ仕え、他の神々を拝もうとしない人々よ、出てきなさい。神はお前たちにみ使いを送って救われたのだ」。王は3人の信じる神をののしる者があれば、八つ裂きにすると言いました。

燃え盛る炉の中で

青少年科



聖書

ダニエル書3章13～30節

暗唱
聖句

神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができます
ダニエル 3 : 17

聖書から…

あれっ？ バビロンの王さまは先週の場面で「まことの神さまがおられる！」とひれ伏したのでは…？今日の箇所では一転、自分の像を作り、拜ませることをしています。それにしてもド派手なセッティングですね。そのきらびやかさと、王さまの不安や孤独、恐れへの思いは正比例しているように思えます。

ダニエルの3人の仲間たちはバビロン州の行政官となり（2：49）、きっと良い仕事をしていたことでしょう。しかし「捕虜の若造のくせに…」、恐らくそんな感じで彼らを妬む人たちもいたようです。王さまのご無体な命令にかこつけて、彼らを追い落とそうとしました。

大ピンチの中、彼らの心は騒いだはずです。涼しい顔で「どうぞ燃やしてください」などと言えるでしょうか。ただ、彼らはひたすら神さまの手を握りしめます。神さまが人生のどのような局面においても一緒にいて支えてくださることを信じながら。神さまも、決して彼らの手を放すことはありませんでした。

分かち合おう

- この箇所を読んで「この3人を見做って、わたしたちも強い信仰を持てるようにガンバリましょう！」というオチになったら、きっと多くの人が「無理！」と叫んで聖書をパタンと閉じたくなってしまおうでしょう（そのような読み方も不可能ではありませんが）。今日の「聖書の学び」にあるように「何より大切なことは『自分たちがシャドラク、メシャク、アベド・ネゴのようになれるだろうか』ということを問うよりも、彼らが置かれたような世界を作り出さないこと」だということをお互いに心に留めていきたいと思います。その際、この「彼らが置かれたような世界」とは今の私たちにとって具体的にどのようなシチュエーションであると想像できるでしょうか？
- 今日の箇所でもまた、バビロンの王さまは「まことの神さまがおられる！」と認めざるを得なくなりました。それはそれで大変結構ですし、燃え盛る炉の中から無傷で出てきた3人を「高い位につけた」（3：30）のも別に悪いこととは言えないでしょう。ただ、「これから彼らの信じる神さまをののした奴は八つ裂きだ！」などと言いつつあたりは「う～む、そういう方向ではないのでは…」と言いたくなりますし、この3人がずっと心を痛めてきたであろう事柄に対する手当てはなされていない様子です。もしこの王さまがここで3人に対して「何かお前たちの願いを叶えてあげよう」と言ったとしたら、彼らは何を願うと思いますか？

23課

9月4日

燃え盛る炉の中で

聖書

ダニエル書3章13～30節

暗唱
聖句

神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができます
ダニエル3：17

聖書から…

私たちが歩む毎日にはいろいろなことが起こります。神さまを信じているから悲しいことは起こらないというわけではなく、神さまを信じるからこそ大変な思いをするときだってあります。シャドラク、メシャク、アベド・ネゴもそうでした。それでも、3人は神さまを信じ続けました。そして神さまは「四人目の者」として燃え盛る炉という苦しみの中で3人と共にいて、命を救ってくださったのです。

同じように、神さまは私たちにもいつも共に寄り添ってくださる方です。つらいとき、悲しいとき、もちろんうれしいときにも、いつも神さまと一緒にいてくださることを心に留めておきたいですね。

活動①

ワークシート

「どんな顔？ どんな姿？」

王さまの前に引き出されて像を拝むように迫られた時、また燃え盛る炉に投げ入れられたとき、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴは一体どんな顔をしていたのでしょうか。

3人の気持ちを想像して、ワークシートの顔に表情を描いてみましょう。

また、3人と一緒に炉の中にいた「四人目の者」は3人と一緒に「火の中を自由に歩いている」、また「神の子のような姿をしている」と聖書にあります。一体どんな姿をしていたのでしょうか。こちらも想像してワークシートに描いてみましょう。

描くのが難しいときには、自分の顔で表

現したり、言葉で表現したりしてもいいですね。

活動②

「+ 1 クイズ」

炉の中に投げ入れられたシャドラク、メシャク、アベド・ネゴたちと共にいてくださった「四人目の者」である神さまが、私たちにもいつも伴ってくださることを覚えてクイズをしましょう。

●ルール●

答えが数になるクイズを出しましょう。ただし、答えるときは正解に+ 1をした数を答えます。あわててそのままの数を答えないように注意しましょう。

例えば… *車のタイヤは何個？ 答え：5個（4個+ 1） *イエスさまといつも一緒にいた弟子は何人？ 答え：13人（12人+ 1）

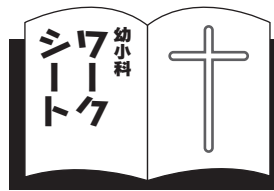
他にも… *今日の教会学校のメンバーは何人？ *教会の礼拝堂の椅子の数は？ など。

ルールに慣れてきたら、みんなで問題を出し合って楽しむのもいいでしょう。

活動③

「名前は？」

今日登場したシャドラク、メシャク、アベド・ネゴの名前はバビロンに連れてこられた時につけられた名前です。3人の変えられる前の名前はなんだったのでしょうか。1章6～7節を読んで見つけましょう。



獅子の洞窟の中で

聖書 ダニエル書6章10～29節

暗唱
聖句

いつものとおり…ひざまずき、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。
ダニエル6：11

祈らないではられない

捕囚の民であるにも関わらず、他の大臣や総督のすべてに傑出していたダニエルは、王の信頼を得て、王国を治める大臣となっていました。周りの大臣や総督はダニエルのことを妬みます。そして、政務に関してダニエルを陥れようと口実を探しました。しかし、ダニエルは政務に忠実で、何の汚点も怠慢も訴え出る口実を見つけることができません。異教の世界、異国の地で、大臣という重責を担わされ、周りからは絶えず厳しい目を注がれている中で、何の汚点も怠慢もなくあろうとすることは本当に大変だったと思います。そんなダニエルを支えたのは、信仰だったのではないのでしょうか。本日の箇所で、王の名のもとに禁令が出されます。しかし、この禁令というのは、ダニエルが三十日間、祈りをせず、礼拝をせずにいれば、何らお咎めを受けることもなかった命令でもあったのだと思います。しかしながらダニエルは「王が禁令に署名したことを知っていた」（6：11）にも関わらず、家に帰るといつものとおり神に礼拝を献げました。ダニエルの姿に、どんな状況でも礼拝を辞めない忠実な信仰者の姿を思う一方で、周りに様々な試みや誘惑、霊的な戦いがある中、そんなふうには神さまの前に静まり、祈り、礼拝をすることなしには、歩むことはできなかったのではないだろうかと思ったりします。

王の名のもとに

ダレイオス王は、大臣や総督からの勧めで、「王を差し置いて、他の人間や神に願い事をしてはならない」との禁令に署名をします。結果、ダニエルは獅子の洞窟に入れられることになってしまいます。しかし、このことは王が願っていたことではありませんでした。本日の箇所には、王の名のもとに苦しめられる者の姿が記されているのですが、そのように、王の名でもって人々を苦しめているのは、必ずしも王自身ではありませんでした。王の名を利用し、王制のもと、人々を苦しめようとしている者たちがいたのです。権力というのは、時に、そのようにして、本人の思いを越えて、都合よく利用されてしまうことがあるのだということを知らされます。

ダニエルを救うのは

ダレイオス王は、ダニエルを何とか救おうと努力します。6：15には「王はこれを聞いてたいそう悩み、なんとかダニエルを助ける方法はないものかと心を砕き、救おうとして日の暮れるまで努力した」と書かれています。ここには、ダニエルを心から思う心優しい王の姿があります。しかしこの記述というのは、別の見方をすれば、王がこれほど悩み、努力をしても、ダニエルを救い出すことができなかったということを証しているのだとも思います。絶対君主として君臨し、人々に自分を崇めるように求めていたはずの王でしたが、実際には無力で、どれほど悩み、心

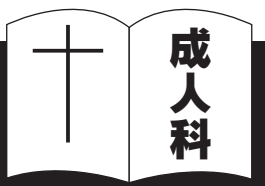
を砕き、救おうとして日の暮れるまで努力しても、ダニエルを獅子の洞窟から救い出すことはできなかったのです。ダニエルを救うことがおできになるのは、ただただ神さまだけでした。

イエス・キリストの ひな型として

本日の箇所では、無実の人が陥れられ、罪を着せられ、死刑を執行するため、獅子の洞窟に投げ込まれることになりました。しかし、死んだと思われていたその人は、洞窟から再び、生きて出て来ることになるのです。加えて、この一連の出来事を通して、無実の人の正しさが明らかにされ、本当の罪がどこにあ

準備のための聖書日課		
5日	㊦	今日ささげる叫びと祈りを聞き届けてください 列王記上8:28
6日	㊦	ひざまずかないのが気にいらぬ エステル3:1~6
7日	㊦	王をそそのかし、勅令を發布する エステル3:8~15
8日	㊦	主が獅子の口から救われました IIテモテ4:17
9日	㊦	あなたの道を主に任せよ 詩編37:5~6
10日	㊦	救い主である生ける神に希望を置く Iテモテ4:10

るのかが露呈されていくのです。この一連の出来事を見ていく時、イエス・キリストの十字架と復活の出来事が心に迫ってきます。



成人科

●ダニエルは「獅子の洞窟」に投げ入れられます。

しかし、ダニエルにとつ

ての試練は「獅子の洞窟」の中だけだったのででしょうか。メディア王国の大臣として王に仕えている時にも目に見えない形で様々な試練があったのではないかと思います。捕囚の民であるにも関わらず、王国を治める大臣となっていたダニエルには、妬む者たちがたくさんいました。彼らはダニエルを陥れようと口実を探し、躍起になっていました。そのような状況の中で、周りから非難を受けることがないように常に努めていかなければなりません。異教の世界、異国の地で、ダニエルは絶えず様々な攻撃や試練にさらされていたのではないのでしょうか。

●ダニエルは神のみを神とすることを止めようとせず、王を神のように崇めることを拒みました。しかし、ダニエルは決して王に背いていたわけではありませんでした。王に対して本当の意味で誠実であろうとしたのはだれでしょう。王に近づき、「王を差し置いて、他の人間や神に願い事をしてはならない」との禁令に署名するよう進言した大臣や総督だったのでしょうか。むしろ、ダニエルこそ、王に対して終始、誠実であろうとしていたのではないのでしょうか。信仰は、神以外のものを神とすることを拒みますが、それは、目の前のその人に本当の意味で向き合い、誠実に関わっていくためなのだと思います。

24課

9月11日

獅子の洞窟の中で

聖書

ダニエル書6章10～29節

暗唱
聖句

いつものとおり…ひざまずき、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。
ダニエル6：11

ダレイオス王は、誰であれ、ダレイオス王以外のものに祈りや願いをしてはならないという命令を出すよう家来に言われ、そのことを書いた書類にサインをしてしまいました。命令を破った者は獅子の穴に投げ込まれることになっています。

さて、ダニエルはいつものとおり、神さまを賛美し祈りました。「神さま、賛美します。わたしたちを助けてください。そして、どうか守ってください」。ダニエルが神さまに祈っているのを見たダレイオス王の家来たちは、王にさっそく告げ口をしました。「王さま、あのダニエルは、あなたさまの命令を無視して、日に3度神に祈りをささげています」。ダレイオス王はダニエルを哀れに思って、どうにか助けてあげられないものかと悩みました。しかし、家来は「王さまが一度出した命令は一切変更してはならないと法律に書いてあります」と言ってききません。

ダニエルは獅子の穴に投げ込まれるために引き出されました。王は「お前の拜んでいる神が、どうかお前を助けてくれるように」とダニエルに言いました。こうしてダニエルは獅子の穴になげこまれました。洞窟の入り口は大きな石でふさがれてしまっています。

王は宮殿に帰りましたが、ダニエルが心配で、夕食も食わずにいました。夜が明けると、王は急いで獅子の穴に行き、不安そうな声で尋ねました。「ダニエルよ、ダニエルよ、生きた神の僕よ、お前の拜んでい



る神には、お前を獅子から救う力はあったか?」。

なんと！ダニエルは生きていました。そして穴の中から答えました。「王さま、ご安心ください。神さまが天使を送って獅子の口を閉ざしてくださったので、わたしは無事です。神さまに罪を犯していないことがわかったのです」。ダニエルはその後、穴から引き出されましたが、ケガひとつありません。王はダニエルを陥れようとした家来たちを、家族もろとも、獅子の穴に投げ込んでしまいました。獅子は彼らに飛び掛かってかみ砕いてしまいました。

ダレイオス王は、諸国の人々、国中の人々、いろいろな言葉の民に手紙を出しました。「わたしは命令する。この王国のすべての場所で、そこにいるすべての民は、ダニエルの神を恐れかしまなければならない。この神は生きている神、その支配は滅びることなく、永遠に続く。この神は救い主、助け主、天にも地にも、不思議なみ業を行い、ダニエルを獅子の穴から助け出された」。王は神を賛美したのでした。

獅子の洞窟の中で



聖書

ダニエル書6章10～29節

暗唱
聖句

いつものとおり…ひざまずき、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。
ダニエル6：11

聖書から…

先週は3人の仲間たちを襲った「理不尽」が、今日の箇所ではダニエルの身に降りかかってきました。ダニエルは神さまに従う者として、人々の幸せのために誠実に仕事をしていたはずですが、それなのに周囲から「陥れよう」(6：5)と目を付けられてしまいました。失敗をしたら叩かれる、何の落ち度もなければ妬まれる…、「どうすりゃいいんじゃない」と言いたくなるのは今も昔も同じかも知れません。

完全な手詰まり状態の中で、ダニエルは「いつものとおり」礼拝をささげます。「フン、これしきの苦難の前であわてるようなオレじゃないぜ」という自信ではなく、これまでもそうであったように、神さまとの交わりに支えられなければどうにもならないという切実さでいっぱいだったのではないのでしょうか。本来なら責任を持って対処してほしいところの王さまは、ただオロオロするだけ。本当にダニエルを支えてくださる唯一の存在を、ダニエルは必死で見つめ続けるのです。

分かち合おう

- ダニエルは自分の身に不利益が生ずると分かっている中で「いつものとおり」神さまとの交わりを保ちました。長くアウェー的環境で生き抜いてきたダニエルにとって、「神さまを礼拝すること」は単なる「惰性的習慣」「ルーティンワーク」にとどまらない何かを持っていたのでしょうか。それを私たちはどのようにイメージすることができるでしょうか。一方、もし「惰性」「ルーティン」的な感覚だったとしても、神さまとの交わりに時間をささげることを妨げる要素の多い生活の中で、それが「身について」いるなら、それもすごいことだなあと感じます。改めて、私たちの生活において「礼拝」「祈り」はどのような位置にあるのか、考えてみましょう。
- これまでの物語では、身近にいた敵だった立場の人たちがいつしかダニエルの味方になっていた場面を見てきました。しかし、今日の箇所ではそのような描写が見当たりません(王さまだけは熱心なダニエルファンのようなのですが)。既にダニエルの持たされていた権限や責任範囲が、とてつもなく大きくなり、その影響力が無視できないものになっていた状況が想像されます。そのダニエルが、どこからもツッコミどころのないほどに正しく良い仕事をしていたので、国ごととハッピーじゃないのか…？束になって「ダニエル潰し」にかかってきた役職者たちは、何を嫌がり恐れたのでしょうか？私たちの身近にも似たような構造に支配されている部分があるのでしょうか？

24課

9月11日

獅子の洞窟の中で

聖書

ダニエル書6章10～29節

暗唱
聖句

いつものとおり…ひざまずき、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。
ダニエル6：11

聖書から…

大切にしている時間やこれをしないと調子が出ないということはありますか？ ペットとの時間、お風呂にゆっくりつかる時間、朝起きたらまず伸びをするなど、それぞれに大事な時間があると思います。ダニエルにとって日に三度神さまと向き合うお祈りのときは、なくてはならない大切なときでした。王さまの命令だとしても、むしろ、そんな大変な時だからこそ、お祈りをする時が必要だったのです。

獅子の穴に放り込まれた時にもダニエルは神さまが助けてくださると思って過ごしていたでしょう。そして、そんなダニエルを救うことができたのは、国で一番偉いとされていたバビロンの王さまではなく、ダニエルがいつも信じ祈っていた神さまだったのです。

活動①

ワークシート

「サンドの祈り」

ダニエルは日に三度神さまに祈りをささげました。ダニエルにとってこの祈りがなくてはならない大切なものだったからです。それは、私たちにとっての朝、昼、晩の三度の食事のようなものだったかもしれせんね。ダニエルが大切に祈りを覚えてサンドの祈りカードを作ってみましょう。

●準備●ワークシート、色鉛筆や色ペン、はさみ、のり

①ワークシートのパンと具に色を塗り、ハムに自分の祈りや暗唱聖句を書きます。

②それぞれを切り抜いて、パンに(1)引っ掛けリボン(2)レタス(3)ハムの順番で貼り付けます。

③パンをたたんでサンドしたらできあがり。



活動②

「神さまと共に起き上がる」

獅子の穴に投げ込まれ、絶体絶命のダニエルでしたが、神さまの守りによってそこから無事に出てくることができました。倒されても、神さまと共に起き上がる姿を覚えて「起き上がり人形」を作ってみましょう。

●準備●白い紙、紙コップ、ガチャガチャのカプセル、油ねんど、色鉛筆や色ペン、のり、セロテープ（紙コップの口の広さとガチャガチャの大きさが同じくらいが良い）

①白い紙に顔を描き、色を塗ります。

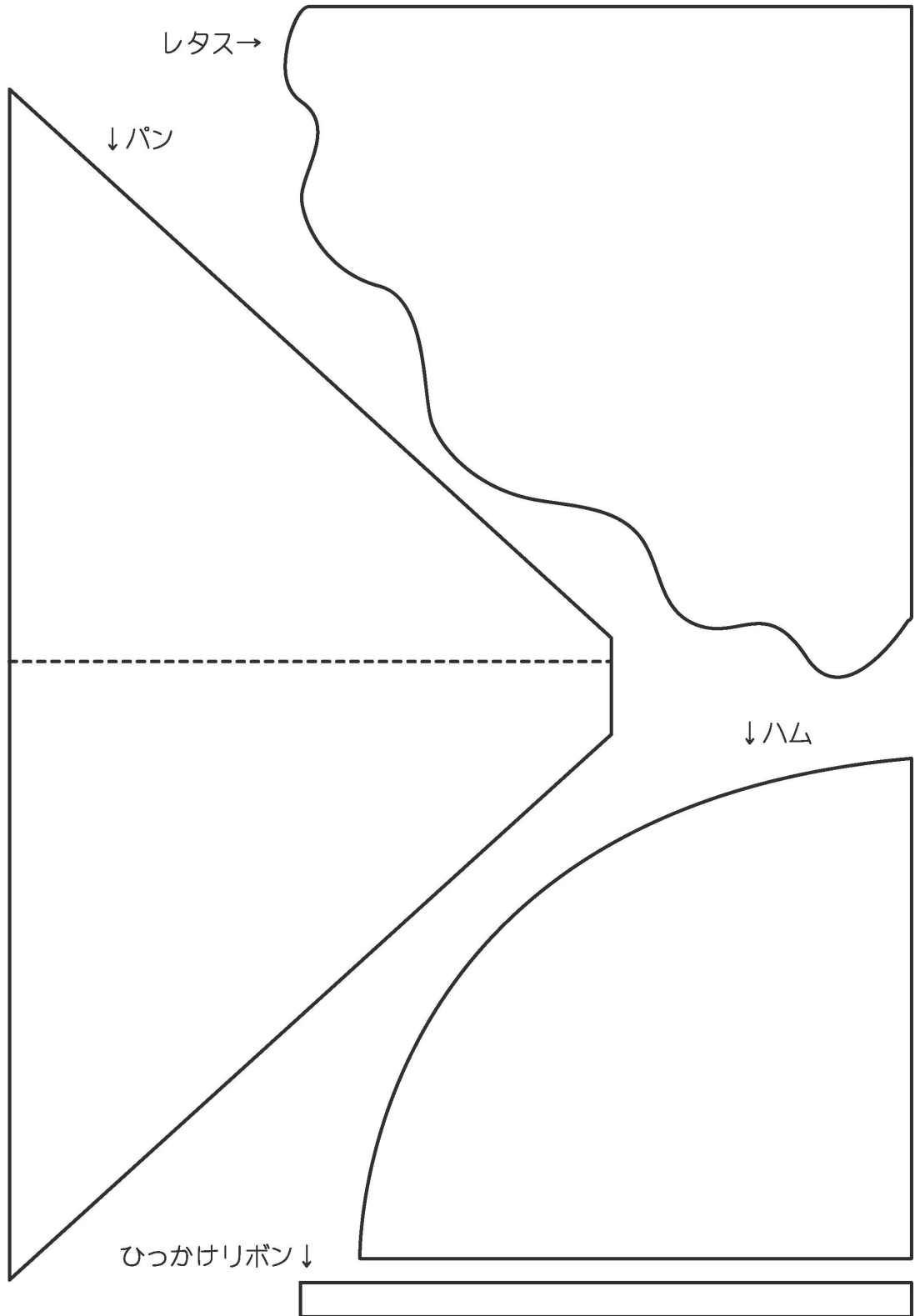
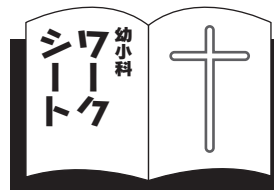
②逆さまにした紙コップの上の方に①で書いた顔を切り抜いて貼ります。

③ガチャガチャのカプセルの底に重りとして油ねんどを入れます。この時、カプセルが起き上がるかチェックしておきましょう。

④カプセルのねんどが入っている方を下にして、上から紙コップをはめ、セロテープで固定します。

⑤倒してみましよう。しっかり起き上がるでしょうか？





ダニエルの祈り

聖書 ダニエル書9章1～19節

暗唱 聖句 憐れみと赦しは主である神のもの。
ダニエル9：9

幻と格闘しながら

ダニエル書7章、8章には、ダニエル自身が見た「幻」が記されています。これらの「幻」は、いずれも近い将来に起こる歴史的出来事を表していて、その歴史に神ご自身が決定的な形で介入されることが表されています。7章で「四頭の獣の幻」を見たダニエルは、頭に浮かんだ「幻」のゆえに、大いに憂い、悩まされました(7:15)。8章で「雄羊と雄山羊の幻」を見た時は、幻の意味を知りたいと願いました(8:15)。そのように、頭に浮かぶ「幻」に憂いたり、悩んだりしながら、必死になって「幻」の意味を知りたいと願っているダニエルの姿に、先の見えない混んとした現実の中で、憂いたり、悩んだりしながら、それでも必死になって時代を見分けようとしている姿を見ることができます。「幻」を通して示されてきた事柄を確かなものとするため、ダニエルは、み言葉を読みました。結果、かつて預言者エレミヤによって語られていた神の約束のみ言葉を発見し、ダニエルに確信が与えられました。それが「エルサレムの荒廃の時が終わるまでには、主が預言者エレミヤに告げられたように七十年という年数のある」(9:2)ということでした。

ダニエルの祈り

預言者エレミヤの言葉を通して、エルサレムの解放が近いことを悟ったダニエルは、主なる神を仰いで断食し、粗布をまとい、灰をかぶって嘆願しました。そして、主なる神に

祈り、罪を告白しました。聖書の中に記される信仰者たちはしばしば、神に期待し、神のみ業に備えようとしていく中で、悔い改めに導かれています。神の時がいよいよ近づき、イエス・キリストを通し、神のみ国がこの地上でなされようとしている状況の中で語られたメッセージは「悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ1:5)ということでした。

自分の現在地を知る

「悔い改め」とは、闇雲に自分を卑下したり、自暴自棄になることではないのだと思います。何より、自分自身を正しく認識することであり、「自分の現在地」を知ることです。自分がこれまで、どのような歩みをたどってきたのか、どのような経緯をたどって今の状態に至っているのか、ここまでの歩みを振り返って見えてきた課題とは何か、偽りやごまかしのない眼差しで見つめながら、自分たちの歴史を正しく知り、今の自分が立っている「現在地」を見ていこうとするのです。ダニエルは祈りの中で、これまで自分たちが歩んできた歴史について語っています。その歴史を振り返りながら、繰り返し、ダニエルは主のみ言葉の正しさを語り、そのみ言葉に耳を傾けず、神に背き続けてきた自分たちの歩みを語ります。結果、今に至っていることが、偽りやごまかしのない眼差しで見つめたこれまでの自分たちの歴史であり、今の自分たちが立っている「現在地」でした。その「現在地」に立ってダニエルが祈った祈りが「わたしたちが正しいからではなく、あなたの深い憐れ

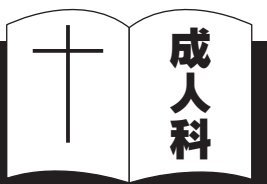
みのゆえに、伏して嘆願の祈りをささげます。主よ、聞いてください。主よ、お赦してください」(9:18~19)という祈りでした。

今の時代の中で

ダニエルは「幻」を通して、歴史に向き合い、今の時代やこれからの行く末に、憂いたり、悩んだりしながら、それでもその時代を見分けるため、知ろうとしていきました。そして、聖書のみ言葉に聞き直し続けました。そのみ言葉に神の希望の約束を見出し、確認が与えられつつ、砕かれ、砕かれ、悔い改めていきました。私たちも今の時代の中、み言葉が今の私たちに何を語っているのかを聞き続けながら、み言葉を再解釈、再認識し、そのみ言

準備のための聖書日課			
12日	㊦	それがどの時期を指すのか調べた	1ペトロ1:11
13日	㊦	七十年の時が満ちたなら	エレミヤ 29:10~11
14日	㊦	わたしも、わたしの父の家も罪を犯しました	ネヘミヤ 1:5~11
15日	㊦	ソロモンの祈り	列王記上 8:46~50
16日	㊦	それは必ず来る、遅れることはない	ハバクク2:2~3
17日	㊦	主があなたたちを選ばれたのは	申命記7:6~8

葉に新たな希望を見出し、砕かれ、悔い改めに導かれるということがあるのだと思います。



- 7~8章で示される幻に悩んだり、その意味を知りたいと願ったりして

いるダニエルの姿が印象的です。先の見えない混とした現実の中で、それでも必死になって時代を見分けようと格闘していたのではないのでしょうか。捕囚の民であったダニエルたちは、時代が次々と移り変わる度に、置かれた状況が一変し、その都度、時代の支配者たちに振り回され、戸惑い、迷いながら、生きていたのではないのでしょうか。抗うことのできない周囲の現実には憂いたり、悩んだりすることもあったのだと思います。そのような状況の中で、ダニエルは、目の前の現実と格闘しながら、先の見えない混

んとした時代を何とか見分け、この時代の中、介入し、救いと勝利をもたされる神に希望を見出そうとしていたのです。

- ペテロの手紙第一には「この救いについては、あなたがたに与えられる恵みのことをあらかじめ語った預言者たちも、探求し、注意深く調べました」(1ペトロ1:10)とあります。ダニエルもその一人でした。旧約時代の信仰者たちがそうであったように、混沌とした時代の中、それでも救いと勝利をもたされる神に希望を見出しながら、聖書のみ言葉をもって、この時代をきちんと見分け、歩んでいくことができたと思います。

ダニエルの祈り

聖書 ダニエル書9章1～19節

暗唱 聖句 憐れみと赦しは主である神のもの。
ダニエル9：9

25
課

9月18日

ダレイオス王の支配する第一年のある日、故郷から遠く離れた場所で、神さまのみこころを求め、ダニエルは文書を読んでいました。すると、故郷の都エルサレムが荒れ果てたままの日が終わるには、神さまが預言者エレミヤに告げられた通り、70年という年数があると知りました。そのさざしがまだ何も見られない中、ダニエルは主なる神さまを仰いで断食をし、粗布をまとい、灰をかぶってお祈りをしました。それは罪の告白の祈りでした。

「主、偉大な神さま、あなたを愛してその戒めに従う者には、約束を守って慈しみを与える神さま、わたしたちは罪を犯して悪いことを繰り返しました。神さまに背を向けて、あなたの大切な教えから離れ去りました。あなたの僕、預言者たちが、あなたのお名前私たちの王や指導者、先祖たち、そしてわたしたちみんなに語ったのに、わたしたちは誰一人聞き従いませんでした。

主よ、あなたは正しい方です。あなたに背いた罪のために遠くに近くにばらばらになったイスラエルの民が、今、恥を被っているのは当然のことです。憐れみと赦しは神さまのもの。その神さまにわたしたちは背きました。預言者たちが言うように神さまの声に聴き従いませんでした。わたしたちは神さまに従わなかったので、おそろしい災難がわたしたちの上に降りかかりました。それなのに、わたしたちは神さまに立ち返ることもせず、神さまのみこころを知



ろうともしませんでした。神さまのなさることはすべて正しいのに、わたしたちはそこから目を背けました。あなたは強いみ手でわたしたちの先祖をエジプトから導きだしてくださったのに、わたしたちは罪を犯し、あなたに逆らいました。

けれども、どうか主よ、いつまでも変わらないあなたの愛によって、エルサレムにくだったあなたの怒りを翻してください。わたしたちの罪と、先祖たちの罪のために、わたしたちは近隣諸国の民から馬鹿にされています。荒れ果てた都に、あなたの光を輝かせてください。あなたの深い憐れみを信じて、ひれ伏してお願いします。主よ、聞いてください。主よ、お赦してください。救いを遅らせないでください。あなたの都、あなたの民は、あなたのお名前を呼んでいるのですから」。

ダニエルは地に伏して、イスラエルの罪を悔い改める祈りを繰り返し繰り返し、続けました。それは罪の告白の祈り。そして、神さまの憐れみと赦しを信じて打ち明けた祈りでした。

ダニエルの祈り



聖書

ダニエル書9章1～19節

暗唱
聖句

憐れみと赦しは主である神のもの。
ダニエル 9：9

聖書から…

ダニエルは預言者エレミヤの言葉を通して、自分たちの解放の 때가遠くないことを悟りました。既にそれなりの年月、異国で充実した仕事を持ち、確固たる地位を築いていたダニエルでしたが、「自分が何者であるのか」を忘れたことはなかったのでしょうか。しかしダニエルの口から出たのは「ついに解放だ、ヒャッハウ！」という歓喜の叫びではなく、「主よ、あなたに背いたわたしたちを赦してください」という悲痛な悔い改めの祈りでした。

他人事としてではなく、また単なる過去の論評としてでもなく、ダニエルはまさに我が事として共同体の歴史を振り返り、我が事として神さまに従わなかった罪を悔い改め、赦しと関係の回復を祈り求めました。祈りの主語は「自分」も含めた「わたしたち」。共同体の責任ある一員として、ダニエルは皆と共に歩みを思い起こし、今立っているところを確かめ、神さまの祝福のもとで共に新たな未来へ踏み出そうと願うのです。

分かち合おう

- 幼稚園の先生が、園児にこんなことをお話ししているのが聞こえてきました。「先生はね、ただ『ごめんなさい』って言ってほしいんじゃないの。どうして『それはダメだよ』って言われたのか考えて、分かってほしいの」。聖書によく出てくる「悔い改め」もそうなのかもな、と思いました。口先だけの安易な「ごめんなさい」でもなく、「もう、こんなに罪を犯す自分なんて最低です、さよならっ！」とヤケになって神さまや傷つけてしまった誰かとの関係を断ち切ってしまうことでもなく…。神さまや傷つけてしまった誰かとの関係を修復し、神さまのみ心に沿って再び立ち上がり歩き出すための「悔い改め」には、どんな要素が大切だと思いますか？
- ここまで読んできて、ダニエル個人が突出して「神さまなんて知らないぜ」という姿勢で生きていたようには思えませんし、振り返った過去の中に、ダニエル自身は存在していませんでした。しかし何故、ダニエルは「わたしたち」という立場から共同体の歴史における過ちを悔い改めるのでしょうか。日本バプテスト連盟をはじめ日本のキリスト者グループも、過去の様々な過ちを悔い改める告白の文章を公にしてみました。それらの言葉から私たちはどのような思いや祈りを共有することができるのでしょうか。インターネットなどで資料としてすぐ入手できるものがいくつかあります。可能であれば用意して一緒に読んでみてはどうでしょうか。

25
課

9月
18日

ダニエルの祈り

聖書 ダニエル書9章1～19節

暗唱 聖句 憐れみと赦しは主である神のもの。
ダニエル 9：9

聖書から…

「振り返り」をすることがありますか。学校や幼稚園などで学期の終わりに、今までどんな学習をしたか、どんな活動をしてきたか振り返ることがあるかもしれません。振り返ることによって「この勉強の復習をした方がいいな」とか「この活動は良かったからまたやりたいな」など、これから何をしたら良いのかが分かってきますね。では、私たちは毎日の生活や人生を振り返ることはあるでしょうか。

ダニエルは故郷イスラエルを覚えてみことばを読み、祈りました。祈りの中で、イスラエルが歩んできた道のりを振り返りながら、神さまの思いを考えたのです。ダニエルは、これまで自分たちがどれだけ神さまを裏切ってきたかを知り、それでも神さまがイスラエルを見捨てずに導いてくださっていたことを強く感じました。そんな神さまの憐れみ深い思いを知って、ダニエルは感謝と悔い改めの祈りをささげたのでした。

活動① ワークシート

「神さまへの手紙」

教会ではよくお祈りのことを「神さまとお話すること」と言います。ワークシートを使って神さまにお話するつもりで、手紙を書いてみましょう。ダニエルのように今まであったことを振り返って書いてみると、神さまが私たちにくださった憐れみ・恵みを発見できるかもしれませんね。また、

不思議に思ったことを聞いてみたり、うれしかったことを伝えたり、自由に書いてみましょう。

●参考●『かみさまへのてがみ』（谷川俊太郎・訳、葉祥明・絵、サンリオ）

活動②

「恵みを数えて」

『新生讃美歌』103番「望みも消えゆくまでに」（日本バプテスト連盟）を歌ってみましょう。私たちの毎日の中に普段は気づかない神さまの様々な恵みが溢れていることを感じながら「数えよ主の恵み〜♪」と歌いたいですね。

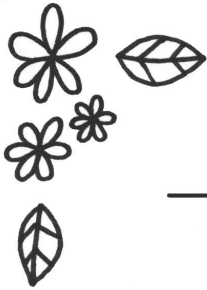
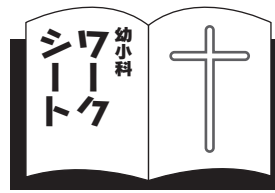
活動③

「『あわれみ』をさがせ！」

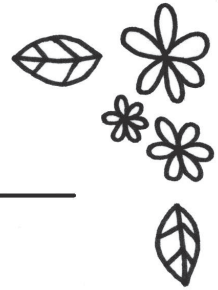
私たちがどんなに悲しい気持ちのときも、「失敗しちゃった」と落ち込むときも、いつも変わらない神さまの憐れみがあることを覚えて、ゲームに挑戦してみましょう。

●準備●新聞紙、色鉛筆 or 色ペン、タイマー

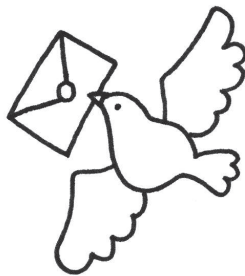
- ①グループに分かれ1グループ1枚の新聞と人数分の色鉛筆・色ペンを配ります。
- ②制限時間（1～3分程度）を決め、タイマーをセットします。
- ③スタートの合図で始め、新聞の文字の中に「あ」「わ」「れ」「み」の言葉を見つけて色鉛筆で囲みます。
- ④タイマーが鳴ったら、見つけた数を数えましょう。どれだけ見つけられたかな？



かみさまへ



より



憐れみと赦しは主である神のもの。ダニエル9：9

その時まで、その時には

聖書 ダニエル書12章1～13節

暗唱 多くの者の救いとなった人々は とこしえに星と輝く。
聖句 ダニエル 12：3

その時まで、その時には

12章は10章から続く幻の続きです。10章にはペルシアの王キュロスの時代にダニエルが受けた幻が語られていて、11章以降、その幻の中で受けた預言の言葉が語られています。内容はキュロス王以降に現実起こった歴史的事実を多くの部分で言い表しています。中でも注目すべきは11：21に記されている「卑しむべき者」です。この人物は、アンティオコス・エピファネスを指していると考えられます。アンティオコス・エピファネスは、ユダヤ人たちを迫害した人でした。ユダヤ人をギリシア化するため、彼らの宗教を禁じ、神殿を汚けがしました。神殿には軍隊を置き、神殿を荒らしました。彼により多くのユダヤ人が殺されました。12：1で「その時まで、苦難が続く／国が始まって以来、かつてなかったほどの苦難が」と語られていますが、アンティオコス・エピファネスによる迫害は、まさにユダヤの人々にとって大きな苦難でした。そのような状況で「その時、大天使長ミカエルが立つ」と語られ、「しかし、その時には救われるであろう」と語られているメッセージは、迫害の最中、それでも主を見上げて歩もうとしていたユダヤの人たちにとって大きな励ましや慰めとなったと思います。

目覚めた人々は悟る

12：10には、終わりの時にまで至る歩みの中で、「多くの者は清められ、白くされ、

練られる」が、その一方で「逆らう者はなお逆らう」こととなり、「逆らう者はだれも悟らないが、目覚めた人々は悟る」ようになると語られています。終わりの時に向かう中、世界はひっ迫し、多くの苦難が起こります。そのような状況の中、人々の心は不安や恐れに駆り立てられていくのです。そのような経験を通して、一部の人たちは、様々な大切なことに気づかされ、清められたり、練られたりしていくのですが、他の人たちは逆らい続け、ますます心頑なになっていくというのです。ヨハネの黙示録16章にも終わりの時に向かう人々が、様々な災いに遭う中で、神に立ち帰ることもなく、むしろ、災いに遭うごとに、神を冒瀆し、悔い改めようとしないうつが記されています。私たちはどうでしょうか。様々な課題や問題に向き合わされる中で、その経験を通して大切なことに気づかされていくということもあるかも知れません。しかし、ともすると、すぐに思考停止になって、心が麻痺したり、どんどん心が頑なになってしまうこともあるかも知れません。

終わりのときがくるまで

12：11～12には終わりの時が来るまでの日数が記されています。そこには「千二百九十日」という言い方や「千三百三十五日」という言い方がされています。さらに7：25、12：7によれば、この期間は三年半、8：14によれば1150日となっています。この違いについてアンティオコス・エピファネスによる迫害が予想以上

に長引いたため、後代の人々が付け加えたのではないかと考える説があります。人々はアンティオコス¹の迫害に苦しみながら、その解放を、今か今かと待ち続けていました。その緊張と忍耐の様子が、これらの日数の変化には、表れているのかも知れません。初代教会の人々もイエス・キリストの再臨を、今か今かと待ち望みながらみ言葉に励まされ、歩んでいました。しかし、実際には中タイエス・キリストの再臨が来ません。そんな人々に向かってペトロの第二の手紙では「主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです」(2ペトロ3:8)と呼びかけられています。聖書の時代の人々は、主が来られる「終わりの時」を間近に待ち望む切実さと緊張感の中で、主を見上げながら、その信仰に生きていたのです。

準備のための聖書日課			
19日	㊦	麻の衣を着た人	ダニエル10:5~6
20日	㊧	終わりの時には	ユダ17~20
21日	㊨	命の書に記された者	黙示録3:5
22日	㊩	神に反抗したときのように	ヘブライ3:7~14
23日	㊪	永遠の命を得るために	ヨハネ3:15~16
24日	㊫	世の終わりまで、いつも	マタイ28:18~20



●「多くの者が動揺するであろう。そして、知識は増す」(12:4)との言葉は、岩波訳の聖書では「多くの者があちこち訪ねまわって、知識が増すであろう」と訳されています。コロナが起こる前、インターネットでの会議について、その必要が叫ばれながらも、実現は中々難しいのではと言われていました。しかし、コロナになって、^{いやおう}否応なくオンラインでの会議を行なうようになり、気づいてみれば、それがスタンダードになっていました。そのことを振り返る時、まさにこのコロナの中で、私たちはあちこち訪ねまわり、結果、いつの間にか、それまでにない知識が増していたのではないかと思います。

●「多くの者は清められ、白くされ、練られる。逆らう者はなお逆らう。逆らう者はだれも悟らないが、目覚めた人々は悟る」(12:10)の言葉も印象的です。私たちはどうでしょうか。私たちは困難があると、すぐに目先のことしか見えなくなったり、自分のことで一杯一杯になったり、思考停止になって、大事なことが分からなくなってしまいそうになります。しかしそのような時こそ、思いを巡らし、学ぶ者、練られ、清められ、悟る者とされていけたらと思います。そして、何よりそのためにも、困難の中にも主が共にいてくださっていることに信頼していきたいと思うのです。

その時まで、その時には

聖書 ダニエル書12章1～13節

暗唱 多くの者の救いとなった人々は とこしえに星と輝く。
聖句 ダニエル 12：3

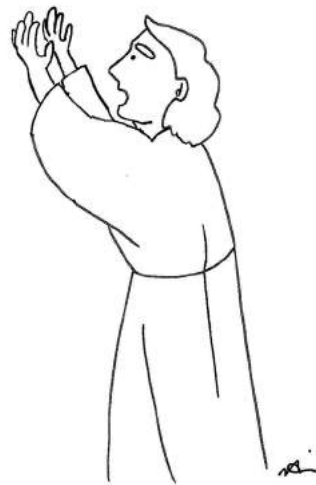
26 課

9月25日

キュロス王の治めている頃、ダニエルは三週間嘆きの祈りをしていました。その間は美味しいものも肉もお酒も口にしないほど真剣な祈りです。すると麻を着た一人の人が現れました。恐怖におびえたダニエルは気絶しそうです。その人はダニエルに触れて「恐れることはない。愛されている者よ。平和を取り戻し、しっかりしなさい」と励まします。それでダニエルは元気を取り戻し、祈り続けることができました。

ダニエルが神さまの救いを求めて祈っていると、麻を着た人がこう告げました。「その時、大天使長ミカエルが立つ。彼はイスラエルの民を守るだろう。その時まで、国が始まって以来なかったような苦難が続く。しかし、その時には救われる。多くの者が地の塵の中から目覚め、ある者は永遠の生命に入り、ある者は永久に恥と憎しみの的になる。目覚めた人々は大空の光のように輝き、多くの者の救いとなった人々は、永遠に星として輝く。ダニエルよ、終わりの時が来るまで、お前はこのことを秘密にし、この書物に封をしておけ」。

途方もない言葉です。ダニエルがさらに眺めていると、二人の人が川の両岸に一人ずつ立っていて、その内の一人が麻を着た人にこう尋ねました。「これらの驚くべきことは、いつまで続くのでしょうか」。すると、麻の衣を着た人は、神さまのおられる天に両手を伸ばして、永遠に生きる神さまによってこう誓うのが聞こえました。「一時期、二時期、そして半時期がたって、聖



なる民の力が全く打ち碎かれると、すべてが成就する」。

ダニエルは意味が分からず尋ねました。「これらのことの終わりはどうなるのでしょうか」。麻を着た人が言います。「ダニエルよ、もう行きなさい。終わりの時まで、このことは秘密にされる。多くの人は清められ、練られる。逆らう者は誰も悟らないが、目覚めた人々は悟る。毎日の供え物が廃止され、憎むべき荒れ果てたものがもたらすものが立てられてから、1290日が定められている。1335日待ち望む者は幸いである。終わりまでお前の道を行き、安らぎの時に入りなさい。終わりの時になったら、お前は立ち上がるであろう」。

不思議な言葉です。ダニエルはここで聞いた言葉を心の中に秘めて、誰にも言いません。途方もない言葉、不思議な言葉が大きすぎて抱えきれず、心が折れて、めまいがしそうです。けれども、ダニエルは希望を抱き、立ち上がります。今のこの苦しみに終わりの日が来る約束を信じて。

その時まで、その時には

聖書 ダニエル書12章1～13節

暗唱 多くの者の救いとなった人々は とこしえに星と輝く。
聖句 ダニエル 12：3

聖書から…

ついに『ダニエル書』の最終章！ それにしても、これまでも増して何を言いたいのかわからない（失礼！）箇所です。一人で読んでいたら挫折しそうですが、共に読む「仲間」がいるなら、それは大きな恵みですね。また、文書の背景や読み方のヒントをそっと語りかけてくれる『聖書教育』も、時代の中で聖書を読もうと取り組む私たちの「仲間」でいてくれます。

聖書が一貫して伝える真理の一つに、「すべてに始まりと終わりがある」ということがあります。大きなことにも小さなことにも、神さまが定められた「スタート」と「ゴール」が必ずある。その間の道程は決して平坦なものではなく、派手な一発逆転やショートカットのための裏技は見つかりません。「ゴール」があとどれくらい先にあるのかもわかりません。心折られながら、それでも約束された「ゴール」に向かって神さまを見上げながら歩き続けた多くの人々の後ろ姿がこの箇所からも心に浮かぶようです。

分かち合おう

- 「神さまにお祈りしたら、目の前にある苦しみや困難はパッと消えてなくなるよ」などと、こちらの心をくすぐるウソを決してつかないのが、聖書のすごいところだと思います。今日の箇所でも「その時まで、苦難は続く」（12：1）！ と、潔さ満点です。そしてその事実の前で私たちは「練られ

「悟る」のか、「なお逆らう」（12：10）のか、どちらかの道に進んでゆくのだからです。今、それぞれが経験している「苦難」の中で、私たちが「練られ」「悟る」としたら、その状況は具体的に自分の言葉でどのように言い表すことができるでしょうか。同じように「なお逆らう」としたら、何に対してどんなふうに「逆らう」ことをするでしょうか。

- 今日の箇所の最後にある「終わりまでお前の道を行き、憩いに入りなさい」（12：13）、何と壮大なお勧めでしょうか。これもまた聖書が繰り返し語っているように、神さまが「あなただけの」、唯一無二の特別な人生を用意してくださり、その先には「ゴール」がある。そしてそこは苦難や試練の延長戦が延々と続くフィールドではなく、「憩い」の場所であるというのです。良い時も悪い時も、自分の道を精一杯走り抜いた身が「憩い」に案内される、何と希望に満ちた約束でしょう。

日本の教会では、秋のシーズンにこの世の命の道を走り終え、先に神さまのもとに帰られた方々を記念する礼拝を行うところが多いでしょう。もしそのような機会があれば、出席してみてもはどうでしょうか。なかなか日頃は「地上の命の先にあるもの」「永遠の神さまの国」などに思いを馳せることの少ない私たちにとって、改めて聖書が語る約束や励ましが身近に感じられる機会になることでしょう。

その時まで、その時には

聖書 ダニエル書12章1～13節

暗唱 聖句 多くの者の救いとなった人々は とこしえに星と輝く。
ダニエル 12：3

聖書から…

悲しいこと、ショックなことがあると、そのことでいっぱいになってしまって、他のことが何も考えられなくなってしまうことはありませんか。

ダニエルも敵国にめっちゃくちゃにされている自分たちや故郷イスラエルのことを思うと苦しく悲しい気持ちでいっぱいになっていました。そんなダニエルに神さまが幻を通して教えてくださったのは、これからさらに大きな苦難が続くこと。しかし、その後神さまが必ず救ってくださる「その時」が来るという約束でした。幻は難しくダニエルはますます頭を抱えますが、神さまの救いの「その時」が来るという約束を思うと、立っていくことができました。

私たちもこの悲しみを神さまが乗り越えさせてくださる「その時」が来ると信じる時、勇気が湧いてきますね。

活動①

「その時には輝く」

神さまが救ってくださる「その時」には、人々は「星と輝く」と暗唱聖句にあります。体でこの聖書の言葉を表してみましょう。

- ①リーダーは前に立ち、「そーそーそー…」と言い、続けて「そ」で始まる4文字の言葉を叫びます（例：そろばん、そらいろ、そこぬけ、そのあと…）。
- ②メンバーはリーダーが「そのとき」と言った時だけ、手を挙げてキラキラ光る星を表現しましょう。

- ③他の言葉の時には動かないように気を付けて！「そのとき」には思いっきり輝きましょう。

活動②

「私たちの景色・神さまの景色」

神さまの約束は、悲しいこと・辛いことばかり見てしまっている私たちに新しい景色を見せてくれます。クイズを通して私たちの見ている景色、神さまが見せてくださる景色の違いを感じてみましょう。

- ①リーダーは事前に教会にあるものからクイズの答えになるものを選びます。
 - ②選んだものを(A)すごく近づいて撮った写真と(B)全体を写した写真を撮ります。
 - ③(A)近づいて撮った写真を見せて「これは何でしょうクイズ」をしましょう。(B)の写真は正解として見せるのに使います。
- ※すぐにスクリーンなどに映せるような環境なら、メンバーにも問題を作ってもらって遊んでもいいですね。



A

B

活動③

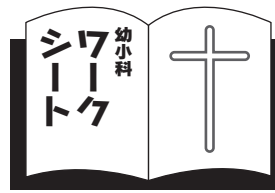
ワークシート

「不思議な言葉の中に」

神さまのことばはとても不思議で、ダニエルはすべてを理解することはできませんでしたが、祈りの中で与えられた希望もありました。それは一体なんでしょう？ワークシートの謎を解いて、答えを探しましょう。

>2>401>E: 28

不思議な言葉の中に



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
○	そ	の	と	き	、	だ	い	て	ん	し	ち	よ	う	み	か	え	る	が
▲	た	つ	。	か	れ	は	お	ま	え	の	た	み	の	こ	ら	を	し	ゆ
※	ご	す	る	。	そ	の	と	き	ま	で	、	く	な	ん	が	つ	づ	く
×		く	に	が	は	じ	ま	つ	て	い	ら	い	、	か	つ	て	な	か
◎	つ	た	ほ	ど	の	く	な	ん	が	。	し	か	し	、	そ	の	と	き
■	に	は	す	く	わ	れ	る	で	あ	ろ	う		お	ま	え	の	た	み
▽	あ	の	し	よ	に	し	る	さ	れ	た	ひ	と	び	と	は	。	お	お
♪	く	の	も	の	が	ち	の	ち	り	の	な	か	お	ね	む	り	か	ら
★	め	ざ	め	る	。	あ	る	も	の	は	な	い	え	ん	の	い	の	ち
#	に	は	い	り		あ	る	も	の	は	え	い	き	ゆ	う	に	つ	づ
◇	く	は	じ	と	ぞ	う	お	の	ま	と	と	な	る	。	め	ざ	め	た
!	ひ	と	び	と	は	お	お	ぞ	ら	の	ひ	か	り	の	ゆ	う	に	か
♥	が	や	き		お	お	く	の	も	の	の	す	く	い	と	な	つ	た
*	ひ	と	び	と	は	と	こ	し	え	に	ほ	し	と	か	が	や	く	。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧

①	■	3	②	※	12
③	○	7	④	♪	10
⑤	♥	2	⑥	*	17
⑦	◎	15	⑧	×	2



ダニエル

26 課

9月25日

主に



「主」
右手親指を左手の平にのせる

依り頼み、



「委ねる」
右親指(=主)に
左肩に置いた左手を



差し出す

その



「主」
右手親指を左手の平にのせる



「大いなる」(=とても)
親指と人差指を付合せ、左から



右へ弧を描くように動かし
親指を立てる

力に



「素晴らしい」
鼻の下に水平に当てた手を



横に動かす

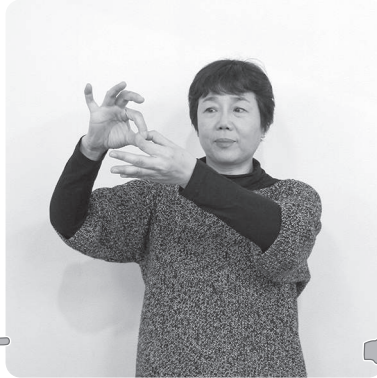


「力」
拳を握った左腕を曲げ
右人差指で

よって



その上腕に力こぶを描く



「よって」(通して)
両手の親指と人差指の輪をつなぎ



手前・体の方に引寄せる

強く

なりなさい。



「力強い」
両手の拳を握った肘を



曲げて力こぶを作るようにする



「いただく」
両手を右上から



自分に引寄せる



「必要」
両手の指先を



胸に引き寄せる

暗唱聖句 カード

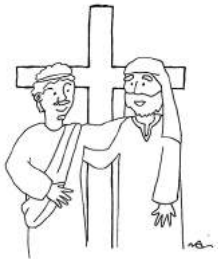
新共同訳

- 線で切り取って使用してください。
- ホームページからカラー印刷ができます。
- <http://www.bapren.com/>



わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。エフェソ 1 : 3

15課 7月10日



じつ 実に、キリストはわたしたちの へいわ 平和であります。

エフェソ 2 : 14

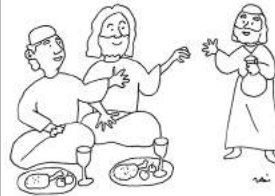
16課 7月17日



かみ み 神の満ちあふれる豊かさのすべ てにあずかり、それによって満 たされるように。

エフェソ 3 : 19

17課 7月24日



しんり もと 真理に基づいたただ きよ 正しい生活 を送るようになさなければなりません。

エフェソ 4 : 24

18課 7月31日



あなたがたはかみ あい 神に愛されている ことども 子供ですから、かみ 神に敬う者とな りなさい。

エフェソ 5 : 1

19課 8月7日



しゅ よ たの 主に依り頼み、その偉大な力に よって強くなりなさい。

エフェソ 6 : 10

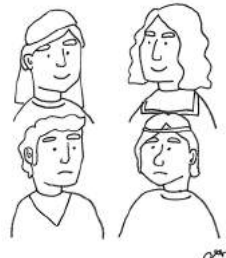
20課 8月14日



へいわ じつげん 平和を実現する人々は、幸い である、その人たちは神の子と 呼ばれる。

マタイ 5 : 9

21課 8月21日



かみ おんはか 神の御計らいによって、侍 従 長はダニエルに好意を示し、親 切にした。

ダニエル 1 : 9

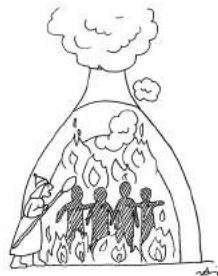
22課 8月28日



かみ み な 神の御名をたたえよ、世々とこ しえに。知恵と力は神のもの。

ダニエル 2 : 20

23課 9月4日



かみ 神は、その燃え盛る炉や王様の て 手からわたしたちを救うことが できます

ダニエル 3 : 17

24課 9月11日



いつものとおり…ひざまずき、 日に三度の祈りと賛美を自分の 神にささげた。

ダニエル 6 : 11

25課 9月18日



あわ 憐れみと赦しは主である神のも の。

ダニエル 9 : 9

26課 9月25日



おお もの すく 多くの者の救いとなった人々は とこしえに星と輝く。

ダニエル 12 : 3

暗唱聖句 カード

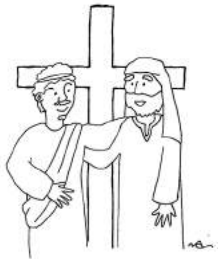
- 線で切り取って使用してください。
- ホームページからカラー印刷ができます。
- <http://www.bapren.com/>

14課 7月3日



ほむべきかな、わたしたちの主
イエス・キリストの父なる神。
エペソ 1 : 3

15課 7月10日



キリストはわたしたちの平和で
あって エペソ 2 : 14

16課 7月17日



神に満ちているものすべてを
もって、あなたがたが満たされ
るように、と祈る。
エペソ 3 : 19

17課 7月24日



真の義と聖とをそなえた神にか
ら、あなたがたに与えられた新しき人を着
るべきである。 エペソ 4 : 24

18課 7月31日



あなたがたは、神に愛されてい
る子供として、神にならう者
になりなさい。 エペソ 5 : 1

19課 8月7日



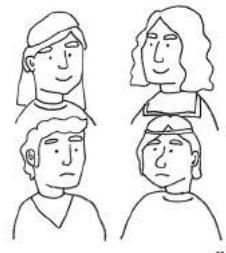
主にあって、その偉大な力によ
って、強くなりなさい。
エペソ 6 : 10

20課 8月14日



平和をつくり出す人たちは、さい
わいである。彼らは神の子と呼
ばれるであろう。 マタイ 5 : 9

21課 8月21日



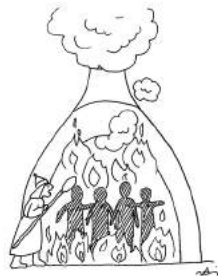
神はダニエルをして、宦官の長
の前に、恵みとあわれみとを得
させられた ダニエル 1 : 9

22課 8月28日



神のみ名は永遠より永遠に至る
までほむべきかな、知恵と権能
とは神のものである。
ダニエル 2 : 20

23課 9月4日



神は、その火の燃える炉から、
わたしたちを救い出すことがで
きます。 ダニエル 3 : 17

24課 9月11日



以前からおこなっていたように、
一日に三度ずつ、ひざをかがめ
て神の前に祈り、かつ感謝した。
ダニエル 6 : 10

25課 9月18日



あわれみと、ゆるしはわれわれ
の神、主のものです。
ダニエル 9 : 9

26課 9月25日



多くの人を義に導く者は、星の
ようになって永遠にいたるでしょ
う。 ダニエル 12 : 3

神さまが豊かに、 豊かに…。

『聖書教育』のスタイルが2023年度から新しくなることを踏まえて、これまでの誌面を支えてくださった方々を紹介しします。今号は、「表紙画」にスポットをあてました。「神さまの物語シリーズ」が始まった2011年度から2019年度までの表紙を描いてくださった作者の証しを印象に残る表紙画と共に紹介しします。

差し出した動きを、神さまが豊かに豊かに用いてくださいます。

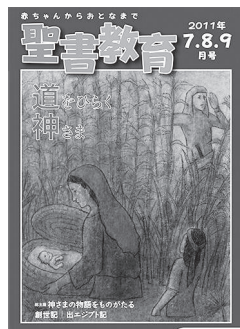


鈴木牧人

2011年4・5・6月号

2014年1・2・3月号

2011年度～2013年度までの表紙を担当させていただきました。表紙を依頼されたのは前年でしたが、絵を描き始めて間もなく東日本大震災が起きました。表紙の絵には震災当時の色々な思いが色濃く反映されていたと思います。慌ただしい毎日の中で絵を描くのは大変でしたが、絵を描くことは私にとって慰めでもありました。忘れられないのは2011年7・8・9号の表紙です。モーセの母と妹が、赤ん坊だったモーセをナイル河畔の葦の茂みに隠す様子を描きました。当時、郡山の教会では原発事故のため、子どもたちを連盟事務所に避難させることになりました。事務所に向かう子どもたちを見送りながら、モーセの母や妹の心境が迫ってきたことを覚えています。



2011年7・8・9月号

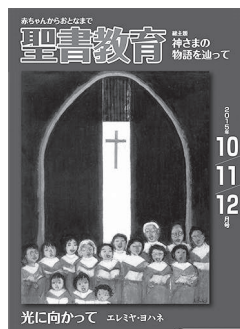


杉野説子

2014年4・5・6月号

2017年1・2・3月号

『聖書教育』の表紙絵を三年間担当いたしました事は、私にとりまして非常に良い経験であったと感謝して居ります。作品を描くにあたって聖書からいただいたメッセージを皆さまと共に分かち合いたいとの思いを込め、分かりやすく表現することを目標にいたしました。また、2015年10・11・12月号表紙は、聖歌隊がクリスマスに向かってハレルヤコーラスを練習している姿を作品にいたしました。当時は皆で声を合わせ、大きく口を開け、神さまに感謝を込めハレルヤ、ハレルヤ！と歌った事を思い出します。今はコロナ禍にあって、礼拝中の賛美も小さな声で歌うようになり、喜びや感謝の気持ちをストレートに表現できる日が一日も早く訪れます様にと神さまにお祈りいたします。



2015年10・11・12月号



塩山要子

2017年4・5・6月号

2020年1・2・3月号

世界中いたる所に十字架はある。アクセサリーにだって使われている。十字架って何だろう？この問いの中で表紙画を描いた。アジジのフランシスコは、小さな教会にあった十字架からあの不思議な声を聞く。それ以前も嫌悪を感じていたハンセン病患者との出会いの中で「主は自ら私を彼らの中に導いて下さいました」と言っている。その時も、あの不思議な声が彼の背中を押したのだ。私は、フランシスコのことがもっと知りたくてアジジに行った。一番の思い出である。十字架との出会い、主はすべての人に、いつも声をかけているのではないだろうか！私も微力ながら、多くの人の祈りの中で、主に導かれてこの仕事ができたとと思っている。



2019年7・8・9月号

聖書教育



特集

クリスマスメッセージ

根内 睦

キリスト教教育週間

NCC 教育部

連載

世界バプテスト祈祷週間をおぼえて

米本裕見子

今、信仰を告白すること

富田直美

ご意見、ご感想をお待ちしております。

FAX ● 048-883-1092 Eメール ● seishokyouiku@bapren.jp (編集担当)

聖書教育

● 2022年5月20日発行・発売 ● 定価 1,200円 (税込)

発行人 中田 義直

発行 日本バプテスト連盟

〒 336-0017 埼玉県さいたま市南区南浦和 1-2-4

TEL : 048-883-1091 FAX : 048-883-1092

日本バプテスト連盟 HP <https://www.bapren.jp/>

聖書教育 HP <https://www.bapren.com/>

ご注文は連盟販売管理室まで hanbai-kanri@bapren.jp

郵便振替口座 00150-9-192579

印刷 ニューライフミニストリーズ (新生宣教団)

● 内容についての編集責任は日本バプテスト連盟にあります。

● ワーク・教材以外の複製はご遠慮ください。

● 聖書は日本聖書協会新共同訳を使用しています。

©2022 日本バプテスト連盟

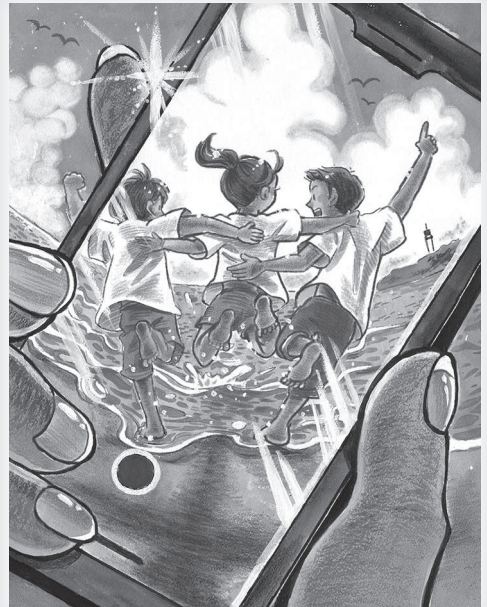
● 乱丁落丁はお取り替えいたします。日本バプテスト連盟販売管理室までご連絡ください。

● 表紙 三浦あや

● みんなで聴く聖書のおはなしカット 香月 藍

● レイアウト JC ユニット

● 幼小科ワークシート 吉崎 愛



表紙「愛されている子ども」